M3A32-MVP Deluxe *Series*

Motherboard

J3455

初版第 1 刷
2007年11月

Copyright © 2007 ASUSTeK COMPUTER INC. All Rights Reserved.
バックアップの目的で利用する場合を除き、本書に記載されているハードウェア・ソフトウェアを含む、全ての内容は、ASUSTeK Computer Inc. (ASUS) の文書による許可なく、編集、転載、引用、放送、複写、検索システムへの登録、他言語への翻訳などを行うことはできません。

以下の場合は、保証やサービスを受けることができません。

(1)ASUSが明記した方法以外で、修理、改造、交換した場合。

(2) 製品のシリアル番号が読むことができない状態である場合。

ASUS は、本マニュアルについて、明示の有無にかかわらず、いかなる保証もいたしません。ASUS の責任者、従業員、代理人は、本書の記述や本製品に起因するいかなる損害（利益の損失、ビジネスチャンスの遺失、データの損失、業務の中断などを含む）に対して、その可能性を事前に指摘したかどうかに関りなく、責任を負いません。

本書の仕様や情報は、個人の使用目的にのみ提供するものです。また、予告なしに内容は変更されることがあり、この変更について ASUS はいかなる責任も負いません。本書およびハードウェア、ソフトウェアに関する不正確な内容について、ASUS は責任を負いません。

本マニュアルに記載の製品名及び企業名は、登録商標や著作物として登録されている場合がありますが、本書では、識別、説明、及びユーザーの便宜を図るために使用しており、これらの権利を侵害する意図はありません。

もくじ

もくじ ..... **iii**
ご注意 ..... **vii**
安全上のご注意 ..... **viii**
このマニュアルについて ..... **ix**
M3A32-MVP Deluxe Series 仕様一覧 ..... **xi**

Chapter 1: 製品の概要

1.1 ようこそ **1-1**
1.2 パッケージの内容 **1-1**
1.3 独自機能 **1-2**
1.3.1 製品の特長 1-2
1.3.2 ASUS AI Lifestyle 1-5
1.3.3 ASUS インテリジェントオーバークロック機能 1-8

Chapter 2: ハードウェア

2.1 始める前に **2-1**
2.2 マザーボードの概要 **2-2**
2.2.1 設置方向 2-2
2.2.2 **ネジ穴** **2-2**
2.2.3 **マザーボードのレイアウト** **2-3**
2.2.4 **レイアウトの内容** **2-4**
2.3 CPU **2-6**
2.3.1 CPUを取り付ける 2-6
2.3.2 CPUにヒートシンクとファンを取り付ける 2-8
2.3.3 オプションファンを取り付ける 2-11
2.4 システムメモリ **2-12**
2.4.1 概要 2-12
2.4.2 メモリ構成 2-13
2.4.3 メモリを取り付ける 2-17
2.4.4 メモリを取り外す 2-17
2.4.5 ASUS Cool Mempipe を取り付ける 2-18
2.5 拡張スロット **2-20**
2.5.1 拡張カードを取り付ける 2-20
2.5.2 拡張カードを設定する 2-20
2.5.3 割り込み割り当て 2-21
2.5.4 PCI スロット 2-22
2.5.5 PCI Express x16 スロット（× 4） 2-22

もくじ

2.6 ジャンパ 2-24
2.7 コネクタ 2-25
2.7.1 バックパネルコネクタ 2-25
2.7.2 内部コネクタ 2-28

Chapter 3: 電源をオンにする
3.1 初めて起動する 3-1
3.2 コンピュータの電源をオフにする 3-2
3.2.1 OS シャットダウン機能を使用する 3-2
3.2.2 電源スイッチのデュアル機能を使用する 3-2

Chapter 4: BIOS セットアップ
4.1 BIOS 管理更新 4-1
4.1.1 ASUS Update 4-1
4.1.2 ブートフロッピーディスクを作成する 4-4
4.1.3 ASUS EZ Flash 2 4-5
4.1.4 AFUDOS 4-6
4.1.5 ASUS CrashFree BIOS 3 4-8
4.2 BIOS 設定プログラム 4-9
4.2.1 BIOS メニュー画面 4-10
4.2.2 メニューバー 4-10
4.2.3 ナビゲーションキー 4-10
4.2.4 メニュー 4-11
4.2.5 サブメニュー 4-11
4.2.6 構成フィールド 4-11
4.2.7 ポップアップウィンドウ 4-11
4.2.8 スクロールバー 4-11
4.2.9 ヘルプ 4-11
4.3 メインメニュー 4-12
4.3.1 System Time [xx:xx:xx] 4-12
4.3.2 System Date [Day xx/xx/xxxx] 4-12
4.3.3 Legacy Diskette A [1.44M, 3.5 in.] 4-12
4.3.4 Language [English] 4-12
4.3.5 Primary IDE Master/Slave、SATA1~4 4-13
4.3.6 Storage Configuration 4-14
4.3.7 システム情報 4-15

もくじ

4.4 拡張メニュー 4-16
4.4.1 Jumperfree Configuration 4-16
4.4.2 AI Net 2 4-21
4.4.3 CPU の設定 4-22
4.4.4 チップセット 4-23
4.4.5 オンボードデバイス設定構成 4-25
4.4.6 PCI PnP 4-26
4.4.7 USB **設定 4-27**
4.5 電源メニュー 4-28
4.5.1 Suspend Mode [Auto] 4-28
4.5.2 Repost Video on S3 Resume [No] 4-29
4.5.3 ACPI 2.0 Support [Disabled] 4-29
4.5.4 ACPI APIC Support [Enabled] 4-29
4.5.5 APM の設定 4-29
4.5.6 ハードウェアモニタ 4-31
4.6 ブートメニュー 4-32
4.6.1 ブートデバイスの優先順位 4-32
4.6.2 起動設定 4-33
4.6.3 セキュリティ 4-34
4.7 ツールメニュー 4-36
4.7.1 ASUS EZ Flash 2 4-36
4.7.2 ASUS O.C. Profile 4-37
4.8 終了メニュー 4-38

Chapter 5: ソフトウェア

5.1 OS をインストールする 5-1
5.2 サポート DVD 情報 5-1
5.2.1 サポート DVD を実行する 5-1
5.2.2 ドライバメニュー 5-2
5.2.3 ユーティリティメニュー 5-3
5.2.4 Make disk メニュー 5-5
5.2.5 マニュアルメニュー 5-6
5.2.6 コンタクトインフォメーション 5-6
5.2.7 その他の情報 5-7
5.3 ソフトウェア情報 5-9
5.3.1 ASUS MyLogo2™ 5-9

もくじ

5.3.2 Cool 'n' Quiet!™ Technology....5-11
5.3.3 AI Audio 2 (SoundMAX® HD オーディオユーティリティ)....5-13
5.3.4 ASUS PC Probe II....5-22
5.3.5 ASUS AI Suite....5-28
5.3.6 ASUS AI Gear 2....5-30
5.3.7 ASUS AI Nap....5-31
5.3.8 ASUS AI N.O.S.....5-32
5.3.9 ASUS Q-Fan 2....5-33
5.3.10 ASUS AI Booster....5-34
5.3.11 AMD OverDrive (AOD)....5-35

5.4 RAID....5-36

5.4.1 RAID の定義....5-36
5.4.2 Serial ATA ハードディスクを取り付ける....5-37
5.4.3 AMD® RAID....5-37
5.4.4 Marvell® RAID....5-43

5.5 RAID ドライバディスクを作成する....5-49

5.5.1 OS に入らずに RAID ドライバディスクを作成する....5-49
5.5.2 RAID/SATA ドライバディスクを Windows® 環境で作成する....5-49

Chapter 6: ATI® CrossFire™ サポート

6.1 概要....6-1

6.1.1 使用条件....6-1
6.1.2 始める前に....6-1

6.2 CrossFire™ ビデオカードを取り付ける....6-2

6.3 ソフトウェア情報....6-5

6.3.1 デバイスドライバをインストールする....6-5
6.3.2 Catalyst™ Control Center を使う....6-7

ご注意

Federal Communications Commission Statement（原文）

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received including interference that may cause undesired operation.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with manufacturer's instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment to an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

The use of shielded cables for connection of the monitor to the graphics card is required to assure compliance with FCC regulations. Changes or modifications to this unit not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate this equipment.

Canadian Department of Communications Statement（原文）

This digital apparatus does not exceed the Class B limits for radio noise emissions from digital apparatus set out in the Radio Interference Regulations of the Canadian Department of Communications.

This class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

安全上のご注意

電気の取り扱い

- 作業を行う場合は、感電防止のため、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- 本製品に周辺機器を接続する場合は、本製品および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。可能ならば、関係するすべての機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- 本製品にケーブルを接続する場合は、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- 電源延長コードや特殊なアダプタを用いる場合は専門家に相談してください。これらは、回路のショート等の原因になる場合があります。
- 正しい電圧でご使用ください。ご使用になる地域の出力電力がわからない場合は、お近くの電力会社にお尋ねください。
- 電源装置の修理は販売代理店などに依頼してください。

操作上の注意

- 作業を行う前に、本製品に付属のマニュアルを全て熟読してください。
- 電源を入れる前に、ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。また電源コードに損傷がないことを確認してください。
- マザーボード上にクリップやネジなどの金属を落とさないようにしてください。回路のショート等の原因になります。
- 埃・湿気・高温・低温を避けてください。湿気のある場所で本製品を使用しないでください。
- 本製品は安定した場所に設置してください。
- 本製品を修理する場合は、販売代理店などに依頼してください。

左のマークは、本製品が電気製品または電子装置であり、水銀を含むボタン電池を使用しており、地域のゴミと一緒に捨てられないことを示すマークです。廃棄の際は、地方自治体の廃棄処理に関する条例または規則等に従って下さい。

このマニュアルについて

このマニュアルには、マザーボードの取り付けや構築の際に必要な情報が記してあります。

マニュアルの概要

本章は以下の章から構成されています。

- **Chapter 1: 製品の概要**
  マザーボードの機能とサポートする新機能についての説明。
- **Chapter 2: ハードウェア**
  コンポーネントの取り付けに必要なハードウェアのセットアップ手順及びスイッチ、ジャンパとコネクタの説明。
- **Chapter 3: 電源をオンにする**
  電源をオンにする手順と電源をオフにする手順について。
- **Chapter 4: BIOS セットアップ**
  セットアップメニューでのシステム設定の変更方法とBIOSパラメータの詳細。
- **Chapter 5: ソフトウェア**
  マザーボードパッケージに付属のサポート DVD とソフトウェアの内容。
- **Chapter 6: ATI CrossFire™ サポート**
  ATI CrossFire™ 機能とビデオカードの取り付け方法について。

詳細情報

本書に記載できなかった最新の情報は以下で入手することができます。また、BIOSや添付ソフトウェアの最新版があります。必要に応じてご利用ください。

1. **ASUS Webサイト** (http://www.asus.co.jp/)
   各国や地域に対応したサイトを設け、ASUSのハードウェア・ソフトウェア製品に関する最新情報が満載です。
2. **追加ドキュメント**
   パッケージ内容によっては、追加のドキュメントが同梱されている場合があります。注意事項や購入店・販売店などが追加した最新情報などです。これらは、本書がサポートする範囲には含まれていません。

このマニュアルの表記について

本製品を正しくお取扱い頂くために以下の表記を参考にしてください。

危険/警告：本製品を取扱う上で、人体への危険を避けるための情報です。

注意：本製品を取扱う上で、コンポーネントへの損害を避けるための情報です。

重要：本製品を取扱う上で、必要な指示です。

注記：本製品を取扱う上でのヒントと 追加情報です。

表記

<Key>	< > で囲った文字は、キーボードのキーです。 例: <Enter>→Enter もしくは リターンキーを押してください。
<Key1+Key2+Key3>	一度に2つ以上のキーを押す必要がある場合は(+)を使って示しています。 例: <Ctrl+Alt+D>

M3A32-MVP Deluxe Series
仕様一覧

CPU	AMD® Socket AM2+ Phenom™ FX / **Phenom/ Athlon™ /** Sempron™ **プロセッサ対応** AMD® Socket AM2 Athlon 64 X2 / Athlon 64 FX / Athlon 64 / Sempron **プロセッサ対応** AMD LIVE!™ Ready
チップセット	AMD 790FX / SB600
システムバス	最大 5200 MT/s：HyperTransport™ 3.0 インターフェース **（AM2+ CPUの場合）** 2000 / 1600 MT/s（AM2 CPUの場合）
メモリ	デュアルチャンネルメモリアーキテクチャ - 240ピン メモリソケット×４： unbufferred **ECC/non-ECC DDR2 1066*/800/667/533 MHz メモリに対応** - 最大 8 GB のシステムメモリ *DDR2 1066 は AM2+ CPU のみでのサポートとなります。 *詳細はASUS Web サイト (www.asus.co.jp)、またはユーザーマニュアルの最新の推奨ベンダーリスト(QVL) をご参照ください。
拡張スロット	PCIe x16 スロット×４：ATI CrossFireX™ 対応 **(@ デュアル x16、トリプル x16 / x8 / x8、クアッド x8 モード)** PCI 2.2 スロット×２ PCI Express 2.0 / 1.0 アーキテクチャ対応
CrossFireX™	ATI CrossFireX™ ビデオカードをサポート
記憶装置	サウスブリッジ - SATA 3.0 Gb/s **コネクタ×４：RAID 0、1、0+1 に対応** - Ultra DMA 133/100/66 × 1 Marvell® 6121 / 6111 PATA、SATA コントローラ - **Serial ATA 3.0 Gb/s コネクタ×２：RAID 0、RAID1 に対応** - バックパネルに外部 SATA 3.0 Gb/s × 1 **(SATA-On-The-Go)**
LAN	Marvell® PCIe Gigabit LAN **コントローラ：AI NET 2 採用**
無線 LAN （WiFi-AP Edition のみ）	ASUS WiFi-AP Solo 54 Mbps IEEE 802.11g 11 Mbps IEEE 802.11b と下位互換性あり - ソフトウェアアクセスポイントモード - ステーションモード：インフラストラクチャモード、アドホックモード

(次項へ)

M3A32-MVP Deluxe Series
仕様一覧

HDオーディオ	ADI® AD1988B 8チャンネルHD オーディオコーデック - Jack-Detection、Enumeration、Multi-Streaming、Jack-Retasking をサポート - コアキシャル/光デジタル S/PDIF 出力ポート (バックパネル I/O)
IEEE 1394	IEEE 1394a コネクタ× 2 (ボード上に 1 基、バックパネルに 1 基)
USB	USB 2.0 ポート×10 (ボード上に 4 基、バックパネルに 6 基)
ASUS AI Lifestyle	**ASUS 静音サーマルソリューション:** - ASUS ファンレス設計: Cool Mempipe ソリューション *(WiFi-AP Edition のみ)* - ASUS AI Gear 2 - ASUS 8+2 Phase Power Design (8+2 フェーズ電源設計) - ASUS AI Nap - ASUS ファンレス設計: ヒートパイプソリューション & Stack Cool 2 - ASUS Q-Fan 2 **ASUS Crystal Sound** - ASUS Noise Filter - ASUS AI Audio 2 **ASUS EZ DIY** - ASUS Q-Shield - ASUS Q-Connector - ASUS O.C. Profile - ASUS CrashFree BIOS 3 - ASUS EZ Flash 2
その他の機能	ASUS MyLogo 2™ Multi-language BIOS
ASUS だけのオーバークロック機能	**インテリジェントオーバークロックツール :** - AI NOS™ (非遅延オーバークロックシステム) - AI Overclocking (インテリジェントCPU周波数チューナー) - ASUS AI Booster ユーティリティ **Precision Tweaker 2:** - vCore : 0.0125V 刻みで CPU 電圧を調節 - vDIMM : 35 ステップ DRAM 電圧コントロール - vChipset : 16ステップチップセット電圧コントロール **SFS (Stepless Frequency Selection):** - FSB 調節 (1 MHz 刻みで 100 MHz ～ 600 MHz) - メモリ調節 (533 MHz ～ 1066 MHz) - PCI Express 周波数の調節 (1 MHz 刻みで 100 MHz ～ 150 MHz) **Overclocking protection:** - ASUS C.P.R. (CPU Parameter Recall)

(次項へ)

M3A32-MVP Deluxe Series
仕様一覧

バックパネル I/O ポート	PS/2 キーボードポート（パープル）× 1 S/PDIF 出力（コアキシャル + 光デジタル）ポート× 1 外部 SATA ポート× 1 IEEE 1394a ポート× 1 LAN (RJ-45) ポート× 1 USB 2.0/1.1 ポート× 6 WiFi-AP Solo アンテナジャック × 1 *(WiFi-AP Edition のみ)* ８チャンネルオーディオI/O ポート
内部 I/O コネクタ	USB コネクタ× 2 ： 追加 USB ポート 4 基に対応 フロッピーディスクドライブコネクタ× 1 COM コネクタ× 1 IDE コネクタ× 1 SATA コネクタ× 6 CPU ファンコネクタ× 1 ケースファンコネクタ× 2 電源ファンコネクタ× 1 IEEE1394a コネクタ× 1 フロントパネルオーディオコネクタ Azalia デジタルヘッダー× 1 S/PDIF 出力ヘッダー× 1 ケース開閉検出コネクタ CD オーディオ入力コネクタ 24ピン ATX 電源コネクタ ８ピン ATX 12V 電源コネクタ× 1 システムパネルコネクタ (Q-Connector)
BIOS	8 Mb Flash ROM、AMI BIOS、PnP、DMI 2.0、WfM2.0、SM BIOS 2.3、ACPI 2.0a、Multi-language BIOS、ASUS EZ Flash 2、ASUS CrashFree BIOS 3
マネージメント機能	WfM 2.0、DMI 2.0、PME によるWOL、PME によるWOR、PXE
サポート DVD	各ドライバ ASUS AI Suite ASUS PC Probe II ASUS Update AI Booster アンチウイルスユーティリティ（OEM 版）
フォームファクタ	ATX フォームファクタ：30.5 cm x 24.5 cm（12 in x 9.6 in）

*仕様は予告なく変更することがあります。

マザーボードの機能とサポートする新機能についての説明

1 製品の概要

Chapter 1

1.1 ようこそ 1-1
1.2 パッケージの内容 1-1
1.3 独自機能 1-2

1.1 ようこそ

ASUS® M3A32-MVP Deluxe Series マザーボードをお買い上げいただき、ありがとうございます。

このマザーボードは多くの新機能と最新のテクノロジを提供する ASUS の高品質マザーボードです。

マザーボードとハードウェアデバイスの取り付けを始める前に、パッケージの中にリストに掲載されている部品が揃っていることを確認してください。

1.2 パッケージの内容

マザーボードパッケージに以下のものが揃っていることを確認してください。

マザーボード	ASUS M3A32-MVP Deluxe Series
I/O モジュール	マルチファンクションモジュール×1 (1 ポート IEEE 1394a モジュールと 2 ポート USB 2.0 モジュール)
ケーブル	ASUS CrossFire™ ブリッジケーブル **Serial ATA 電源ケーブル×1：デバイス 2 台に対応** Serial ATA ケーブル×6 Ultra DMA 133/100/66 ケーブル×1 フロッピーディスクドライブケーブル×1
アクセサリ	ASUS Cool Mempipe *(WiFi-AP Ediition のみ)* **ASUS Q-Shield** ASUS Q-Connector Kit×1（USB、1394、システムパネル） WiFi-AP Solo アンテナ×1 *(WiFi-AP Ediition のみ)* オプションファン（水冷クーラー使用時用）
DVD	ASUS マザーボードサポート DVD
ドキュメント	ユーザーマニュアル（本書） WiFi-AP Solo ユーザーマニュアル *(WiFi-AP Ediition のみ)*

付属品が足りないときや破損しているときは、販売店様にご連絡ください。

1.3 独自機能

1.3.1 製品の特長

Green ASUS

このマザーボードとパッケージは、欧州連合(EU)のRoHS指令（電気電子機器の特定有害物質使用規制）の基準を充たしています。これは環境に優しくリサイクル可能な製品/パッケージを提供するASUSの企業理念と合致するものです。

AMD® Socket AM2+ Phenom™ FX / Phenom / Athlon™ / Sempron™ CPU 対応

本マザーボードは独自の L3 キャッシュで AMD® Socket AM2+ マルチコアプロセッサをサポートし、より少ない電力消費でより高度なオーバークロックを可能にします。デュアルチャンネル DDR2 1066 メモリをサポートし、HyperTransport™ 3.0 をベースとしたシステムバスで最大 5200MT/s の転送速度を可能にします。（詳細：ページ 2-6 参照）

HyperTransport™ 3.0 対応

HyperTransport™ 3.0 テクノロジにより、HyperTransport™ 1.0 の 2.6 倍の帯域幅が可能になりました。システム効率が改善され、よりスムーズで速いコンピューティング環境を実現します。

AMD® Socket AM2 Athlon™ 64 X2 / Athlon™ 64 FX / Athlon™ 64 / Sempron™ CPU 対応

本マザーボードは 64-bit アーキテクチャをベースとした 2MB/1MB/512KB L2 キャッシュで、AMD® Socket AM2 シングルコア Athlon™ 64/Sempron™ プロセッサと、デュアルコア Athlon™ 64 X2/Athlon™ 64 FX プロセッサをサポートしています。2000/1600 MT/s HyperTransport™ をベースとしたシステムバス、デュアルチャンネル un-buffered DDR2 800 メモリ、AMD® Cool 'n' Quiet™ Technology に対応しています。（詳細：ページ 2-6 参照）

AMD 790FX チップセット

AMD 790FX チップセットは、最大 5200MT/s HyperTransport™ 3.0 (HT 3.0) インターフェーススピードとクアッド PCI Express™ 2.0 x16 グラフィックスに対応できるよう設計されています。AMD® の最新の AM2+ CPU、マルチコア CPUに対して最適化され、素晴らしいシステムパフォーマンスとオーバークロック能力を提供します。

ネイティブ DDR2 1066 サポート

本マザーボードは、DDR2 1066 をネイティブサポートした初の AMD® プラットフォームです。より高速のデータ転送を実現し、帯域が向上しますので、3D グラフィックスやメモリの能力が要求されるアプリケーションに優れたパフォーマンスを実現します。（詳細：ページ 2-12 参照）

DDR2 1066 は特定の AM2+ CPU のみでのサポートになります。サポートしている CPU モデルに関してはASUS Web サイト (http://www.asus.co.jp/) をご参照ください。

ATI CrossFireX™ テクノロジ

ATI CrossFireX™は、画面の解像度を下げることなく、画質、レンダリングスピードを向上させます。CrossFireX™ により、より高度なアンチエイリアス処理、異方性フィルタリング、シェーディング、テクスチャ設定が可能です。ディスプレイ設定を調節し、高度な 3D 設定をお試しください。効果は、ATI Catalyst™ Control Center で確認することができます。

PCIe 2.0

本マザーボードは最新の PCIe 2.0 デバイスを、従来の倍の速度と帯域でサポートし、大幅なパフォーマンスの向上に成功しました。（詳細：ページ 2-22 参照）

Multi-VGA サポート

本マザーボードはより高いフレームレートにより最高のグラフィック性能をもたらす先進的グラフィック規格、Quad-CrossFire™ に対応します。デュアル PCIe x16 フルレーン構成またはトリプルグラフィックカードに対応します。（詳細：ページ 2-22 参照）

Serial ATA 3.0 Gb/s 技術と SATA-On-The-Go

Serial ATA (SATA) 3.0 Gb/s ストレージ規格をベースとする次世代ハードドライブをサポートしていますので、安定性が向上し、バスの帯域が倍増したことで高速データ転送を実現。バックパネル I/O にある外部SATA ポート（SATA-On-The-Go）でホットプラグ機能に対応しセットアップも簡単。写真や動画等のコンテンツを外部デバイスにバックアップするのに便利です。（詳細：ページ 2-26、2-29 参照）

Dual RAID ソリューション

オンボード RAID コントローラのデュアル RAID 機能により、Serial ATA デバイスを使用して最高の RAID ソリューションを選択することができます。AMD® SB600 チップセットにはハイパフォーマンス RAID 0、1、0+1 機能をサポートする Serial ATA コネクタ 4 基が搭載されています。Marvell® コントローラはSerial ATA コネクタを 2 基提供し、RAID 0、1 機能をサポート可能です。（詳細：2-29、2-31 参照）

IEEE 1394a サポート

IEEE 1394a インターフェースを搭載することで、IEEE 1394a 規格と互換性のある周辺機器（ビデオカメラ、VCR、プリンタ、TV、デジタルカメラ等）との接続が柔軟かつ高速になりました。（詳細：ページ 2-25、2-32 参照）

S/PDIF デジタルサウンド 対応

コアキシャル/光デジタル S/PDIF 出力ジャックを通じ、外付けのホームシアターオーディオシステムへ接続できます。デジタルオーディオをアナログフォーマットに変換しませんので、質の高いサウンドがお楽しみいただけます。（詳細：ページ 2-37 参照）

WiFi-AP Solo (WiFi-AP Edition のみ)

WiFi-AP Solo なら、AP モードまたは無線クライアントモード で無線ホームネットワークを構築することでお使いのPCが多機能マシンに変身します。LANゲーム、インターネット接続、プリンタの共有とアクセス、Skype の利用等、用途は多彩です。WiFi-AP Solo はPC がスリープ状態でも機能するため、Skype を長距離電.話の代替として利用できます。WiFi-AP Solo はオンボード機能ですので、WiFi AP を追加購入する必要がありません。

HD オーディオ

クリアな音質をお楽しみください! オンボード 8 チャンネルHDオーディオ（High Definition Audio、コードネーム Azalia）CODEC は、ハイクオリティの 192KHz/24bit オーディオ出力対応。同時に複数のオーディオストリームを異なる方向に送信します。この技術により、マルチチャンネルのネットワークゲーム中にヘッドフォンで会話が楽しめます。（詳細：ページ 2-25、2-26 参照）

1.3.2 ASUS AI Lifestyle

ASUS 静音サーマルソリューション

ASUS 静音サーマルソリューションはシステムをより安定させ、オーバークロック能力を向上させます。

ASUS Cool Mempipe (WiFi-AP Edition のみ)

ASUS Cool Mempipe は革新的なサーマルソリューションにより、他に例の無いほどのメモリのオーバークロックをサポートします。Cool Mempipe でメモリとシステムの温度を下げることにより、安定したコンピューティング環境を実現します。(詳細：2-18、2-19 参照)

ASUS Cool Mempipe は、DIMM_A1 と DIMM_B1 スロットに取り付けたメモリのみ、熱を逃がすことができます。

AI Gear 2

AI Gear 2 には CPU 周波数と Vcore 電圧を調節可能なプロファイルが用意されており、ノイズと電力消費を抑えることができます。システム構成に応じ、最適なモードを選択してください。(詳細：ページ 5-30 参照)

AI Nap

コンピュータを使用していない時、システムを最も低い電圧とノイズで動作させることができます。システムをウェークしOS 環境に戻すには、マウスをクリックするか、キーを押すだけです。(詳細：5-31 参照)

8+2 Phase Power Design (8+2 フェーズ電源設計)

重要なコンポーネントへ独立した電源を供給する ASUS 8+2 Phase Power Design (8+2 フェーズ電源設計) により、重い負荷がかかる場合やオーバークロックモードでも、メモリパフォーマンスを向上させ、CPU のレスポンスと安定性を確実なものにします。

ファンレス設計–Stack Cool 2

ファンレスでゼロノイズの冷却機能です。コンポーネントから出る熱を大幅に下げます。本製品ではPCB (printed circuit board) 上で熱を拡散するために特殊な設計を採用しています。

ファンレス設計–ヒートパイプ

冷却ファンは一般的なサーマルソリューションですが、ノイズと故障の問題がありました。ASUS はファンレスコンセプトを押し進め、部品寿命を問題としない静かで効果的な冷却環境をご提供致します。さらに、サイドフローファン、またはパッシブクーラーを取り付けることも可能で、このヒートパイプデザインは最も確実なファンレスサーマルソリューションと言えます。

ヒートパイプを取り外さないでください。チューブの破損の原因となります。

Q-Fan 2

ASUS Q-Fan 2 テクノロジは、効果的に CPU ファンとケースファンのスピードをシステムの負荷に応じてコントロールし、静音低温環境を実現します。
（詳細：ページ 4-31、5-33 参照）

ASUS Crystal Sound

Skype、オンラインゲーム、ビデオ会議などの、音声に関連するアプリケーションで、音質が向上します。

Noise Filter

コンピュータのファンやエアコン等の個々の定常ノイズ（肉声ではない信号）を検出し、録音中はそれらの音をカットします。（詳細：ページ 5-21 参照）

AI Audio 2

AI Audio 2 は、ピケットフェンス効果を取り込むことなく、全体のサウンドフィールドを拡張しバーチャルセンターチャンネルを作り出します。マルチチャンネルからのダウンミックスでダイアログ（会話）またはソロパフォーマンスを維持するため、臨場感溢れるハイクオリティオーディオを実現します。
（詳細：ページ 5-13 参照）

ASUS EZ DIY

ASUS EZ DIY 機能は、コンピュータのコンポーネントの取り付けや、BIOS 更新、設定データのバックアップに便利な機能が満載です。

ASUS Q-Shield

ASUS Q-Shield は従来の「爪」をなくした設計で、取り付けが非常に簡単です。より優れた電気伝導率により、**静電気と電磁波妨害によるダメージから大切なマザーボードを守ります。**

ASUS Q-Connector

ASUS Q-Connector を使用すれば、ケースフロントパネルケーブルの取り付け/取り外しが簡単にできます。（詳細：ページ 2-39 参照）

ASUS O.C. Profile

本マザーボードには、ASUS O.C. Profile 機能が搭載されており、複数の BIOS設定を保存・ロードすることができます。各 BIOS 設定はCMOSまたはファイルに保存することができ、BIOS設定の利用と共有が簡単に行えます。
（詳細：ページ 4-37 参照）

ASUS CrashFree BIOS 3

破損したBIOS データを BIOSファイルを含むUSBフラッシュメモリから 復旧することができます。（詳細：ページ 4-8 参照）

ASUS EZ Flash 2

OSをロードする前でも、予め設定したホットキーを押すだけでBIOSの更新が簡単に行えます。OSベースのユーティリティやブートディスクは不要です。
（詳細：ページ 4-5、4-36 参照）

便利なサポート DVD

このDVDには便利なチェックリストが収録されており、各ドライバが正常にインストールされているかを確認することができます。また、ディスク内に収録されている ASUS PC Probe II を使用すれば、コンピュータの重要なコンポーネントの状況を簡単に確認することができます。

ASUS MyLogo 2™

この機能を使用すると、自分で選んだブートロゴを表示することができます。
（詳細：ページ 4-33、5-9 参照）

ASUS Multi-language BIOS

オプションから言語選択が可能です。特定の BIOS メニューでは、より簡単な設定が可能になります。（詳細：ページ 4-12 参照）

1.3.3 ASUS インテリジェントオーバークロック機能

Precision Tweaker 2

ノースブリッジ電圧、サウスブリッジ電圧、DRAM 電圧を 0.02V 刻みで調節することができ、最高のオーバークロック設定をカスタマイズすることができます。

AI NOS™ (非遅延オーバークロックシステム)

Non-delay Overclocking System™ (AI NOS™) (非遅延オーバークロックシステム：NOS) はCPUの負荷を自動検知し、必要な時にだけCPU 速度を大幅にオーバークロックする技術です。（詳細：ページ 5-32 参照）

AI Booster

ASUS AI Booster は CPU スピードをWindows 環境でオーバークロックする機能です。BIOSを開く必要はありません。（詳細：ページ 5-34 参照）

C.P.R. (CPU Parameter Recall)

オーバークロック時にシステムがハングした場合、BIOSを初期設定値に自動再設定します。オーバークロックが原因でハングした場合は、シャットダウンし、再起動するだけです。ケースを開けてRTCデータをクリアする必要はありません。

システムの組み立てにおけるハードウェアのセットアップ手順と、マザーボードのジャンパやコネクタに関する説明

2 ハードウェア

Chapter 2

2.1 始める前に 2-1
2.2 マザーボードの概要 2-2
2.3 CPU 2-6
2.4 システムメモリ 2-12
2.5 拡張スロット 2-20
2.6 ジャンパ 2-24
2.7 コネクタ 2-25

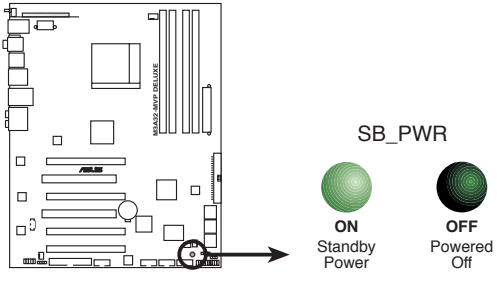
2.1 始める前に

マザーボードのパーツの取り付けや設定変更の前は、次の事項に注意してください。

- 各パーツを取り扱う前jに、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- 静電気による損傷を防ぐために、各パーツを取り扱う前に、静電気除去装置に触れるなど、静電気対策をしてください。
- ICに触れないように、各パーツは両手で端を持つようにしてください。
- 各パーツを取り外すときは、必ず静電気防止パッドの上に置くか、コンポーネントに付属する袋に入れてください。
- パーツの取り付け、取り外しを行う前に、ATX電源ユニットのスイッチがOFF の位置にあるか、電源コードが電源から抜かれていることを確認してください。電力が供給された状態での作業は、感電、故障の原因となります。

オンボード LED

スタンバイ LED が搭載されており、電力が供給されている間は緑のLEDが点灯します。マザーボードに各パーツを取り付けたり、取り外したりする際は、システムをOFFにし、電源ケーブルを抜いてください。下のイラストは、オンボードLEDの場所を示しています。



M3A32-MVP DELUXE Onboard LED

2.2 マザーボードの概要

マザーボードを取り付ける前に、ケースの構成を調べて、マザーボードがケースにフィットすることを確認してください。

マザーボードの取り付け、取り外しを行う前に、必ず電源コードを抜いてください。感電、故障の原因となります。

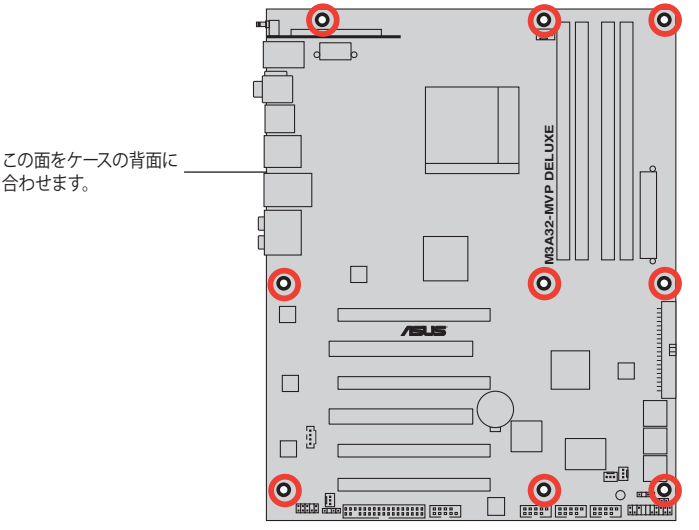
2.2.1 設置方向

マザーボードが正しい向きでケースに取り付けられているかを確認してください。下の図のように外部ポートをケースの背面部分に合わせます。

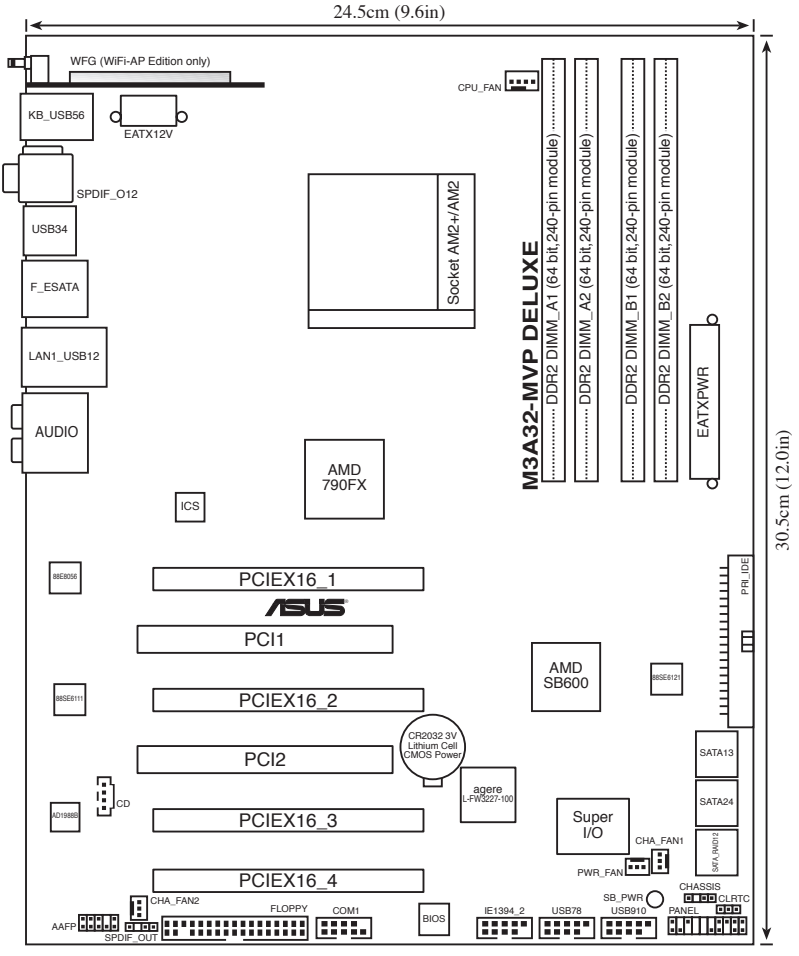
2.2.2 ネジ穴

ネジ穴は9カ所あります。ネジ穴の位置を追わせてマザーボードをケースに固定します。

ネジをきつく締めすぎないでください。マザーボードの破損の原因となります。



2.2.3 マザーボードのレイアウト



バックパネルコネクタと内部コネクタの詳細については、ページ2-25「2.7 コネクタ」をご参照ください。

2.2.4 レイアウトの内容

スロット		ページ
1.	DDR2 メモリスロット	2-12
2.	PCI スロット	2-22
3.	PCI Express x16 スロット	2-22

ジャンパ		ページ
1.	RTC RAM のクリア（3ピン CLRTC））	2-24

バックパネルコネクタ		ページ
1.	PS/2 キーボードポート（パープル）	2-25
2.	コアキシャル S/PDIF 出力ポート	2-25
3.	IEEE 1394a ポート	2-25
4.	LAN (RJ-45) ポート.	2-25
5.	センター/サブウーファポート（オレンジ）	2-25
6.	リアスピーカー出力ポート（ブラック）	2-25
7.	ライン入力ポート (ライトブルー)	2-25
8.	ライン出力ポート (ライム)	2-25
9.	マイクポート (ピンク)	2-25
10.	サイドスピーカー出力ポート (グレー)	2-25
11.	USB 2.0 ポート 1 と 2	2-26
12.	外部 SATA ポート	2-26
13.	USB 2.0 ポート 3 と 4	2-26
14.	光デジタル S/PDIF 出力ポート	2-26
15.	USB 2.0 ポート 5 と 6	2-26
16.	無線 LAN ポート *(WiFi-AP Edition のみ)*	2-27
17.	無線 LAN Activity LED *(WiFi-AP Edition のみ)*	2-27

内部コネクタ		ページ
1.	フロッピーディスクドライブコネクタ（34-1 ピン FLOPPY）	2-28
2.	IDE コネクタ（40-1 ピン PRI_IDE）	2-28
3.	AMD® SB600 Southbridge Serial ATA コネクタ (7ピン SATA1 [レッド]、SATA 2 [ブラック]、SATA 3 [レッド]、SATA 4 [ブラック])	2-29
4.	Marvell® 6121 Serial ATA RAID コネクタ (7ピン SATA_RAID1 [ブラック]、SATA_RAID2 [ブラック])	2-31
5.	USB コネクタ (10-1 ピン USB78、USB910)	2-32
6.	IEEE 1394a ポートコネクタ (10-1 ピン IE1394_2)	2-32
7.	CPU ファン、ケースファン、電源ファンコネクタ (4ピン CPU_FAN、3ピン CHA_FAN1、3ピン CHA_FAN2、3ピン PWR_FAN)	2-33
8.	ケース開閉検出コネクタ (4-1 ピン CHASSIS)	2-34
9.	ATX 電源 コネクタ (24ピン EATXPWR、8ピン ATX12V)	2-34
10.	フロントパネルオーディオコネクタ（10-1ピン AAFP)	2-35
11.	光学ドライブオーディオコネクタ（4ピン CD)	2-36
12.	Serial ポートコネクタ (10-1 ピン COM1)	2-36
13.	デジタルオーディオコネクタ (4-1 ピン SPDIF_OUT)	2-37
14.	システムパネルコネクタ (20-8 ピン PANEL) • システム電源 LED（2ピン PLED) • HDD アクティビティ LED（2ピン IDE_LED) • ビープ（Beep) スピーカー（4ピン SPEAKER) • ATX 電源ボタン/ソフトオフボタン（2ピン PWRSW) • リセットボタン (2ピン RESET)	2-38

2.3 CPU

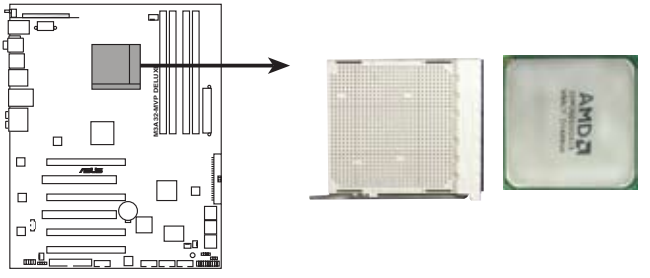
本製品には AMD® Socket AM2+ Phenom™ FX / Phenom / Athlon™ / Sempron™ プロセッサ、 または AMD® Socket AM2 Athlon 64 X2 / Athlon 64 FX / Athlon 64 / Sempron プロセッサ 用に設計された AM2+/AM2 ソケットが搭載されています。

AM2+/AM2ソケットのピン配列はAMD Opteron™プロセッサ用に設計された940ピンソケットとは異なります。お使いの CPU が AM2+/AM2 ソケットに対応していることをご確認ください。また、このCPUは取り付ける向きが決まっています。また、無理にはめ込もうとしないでください。破損の原因となります。

2.3.1 CPUを取り付ける

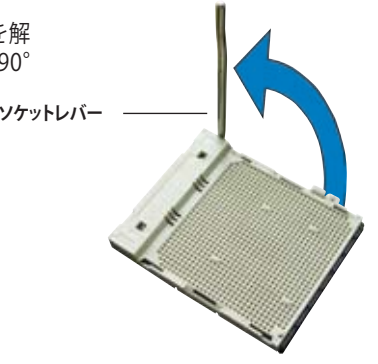
手順

1. マザーボードの CPU ソケットの位置を確認します。



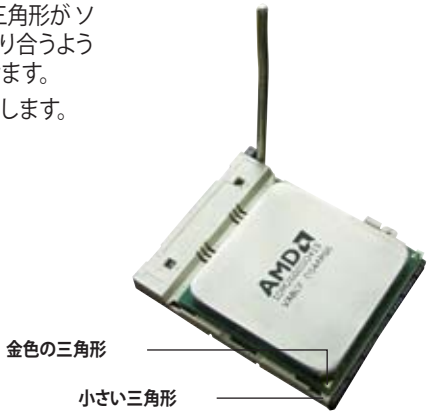
M3A32-MVP DELUXE CPU Socket AM2+/AM2

2. 脇にあるレバーを押し、ソケットを解除します。次に、ソケットレバーを90°ほど持ち上げます。



ソケットレバーを 90º ほど持ち上げないと、 CPU を正しく取り付けることができません。ご注意ください。

3. CPUに書かれている金色の三角形がソケットの三角の部分とぴったり合うようにCPUをソケットの上に載せます。
4. CPU をソケットにしっかり押します。



5. CPU がしっかりはまったら、ソケットのレバーを押し、CPU を固定します。レバーがしっかりはまると、カチッと音がします。
6. CPU ヒートシンクとファンをそのパッケージ付属のマニュアル等の指示に沿って取り付けます。

2.3.2 CPUにヒートシンクとファンを取り付ける

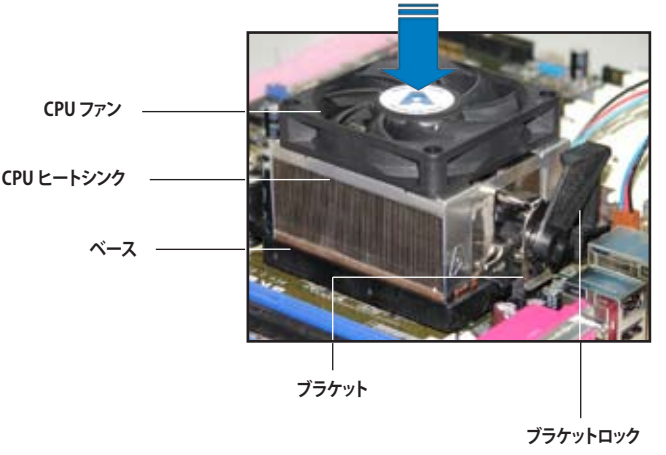
AMD® Phenom™ FX / Phenom X4 / Phenom X2 / Athlon™ 64 X2 / Athlon 64 FX / Athlon 64 / Sempron™ プロセッサには専用のヒートシンクとファンを使用してください。

必ずAMD公認のヒートシンクとファンを使用してください。

ヒートシンクとファンの取り付け手順

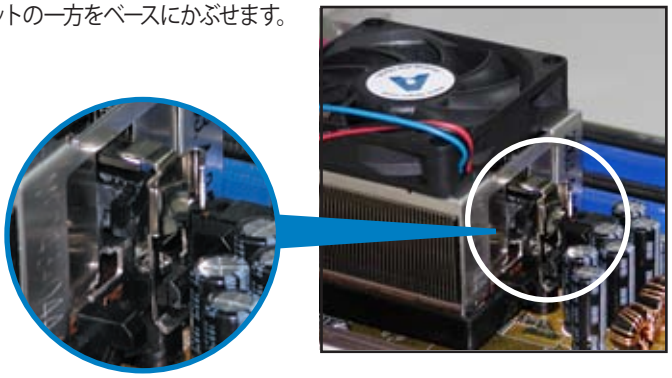
1. ヒートシンクがベースの位置と合っていることを確認しながら、ヒートシンクをCPUの上に置きます。

- ベースは既にマザーボードに取り付けられています。
- ベースを取り外す必要はありません。
- CPU ヒートシンクとファンを別々にご購入の場合は、サーマルグリースがCPU、ヒートシンク、ファンに塗布されているかを事前に必ず確認してください。

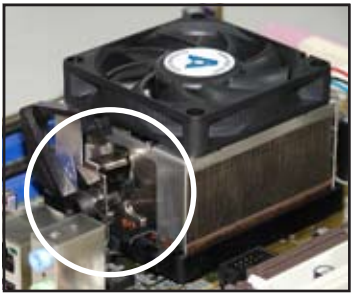


箱入りのCPU ヒートシンクには取り付け方法を記載した説明書等が付属しています。本マニュアルと内容が異なる場合は、付属の説明書等の指示に従ってください。

2. ブラケットの一方をベースにかぶせます。

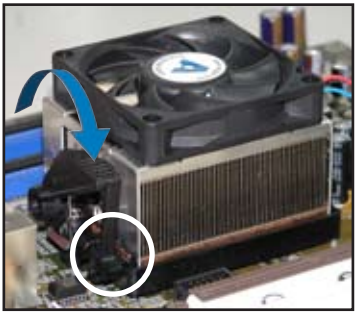


3. ブラケットのもう一方を（ブラケットロックに近い方）ベースにはめます。音がするまで、しっかりはめてください。

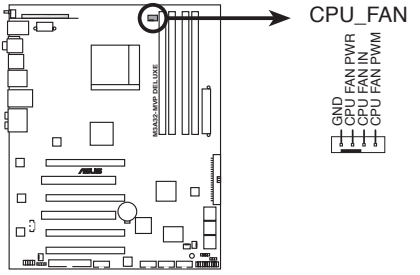


ヒートシンクとファンがベースにしっかりはまっていることを確認してください。はまっていないと、ブラケットが所定の位置に固定されません。

4. ブラケットロックを押し下げ、ヒートシンクとファンをベースに固定します。



5. CPUファンのケーブルをCPU_FANと表示されたマザーボード上のコネクタに接続します。



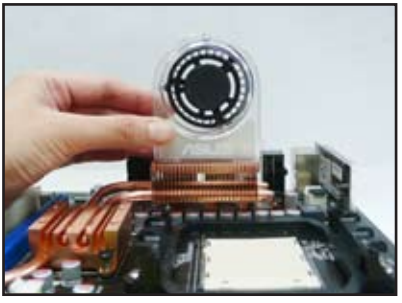
M3A32-MVP DELUXE CPU fan connector

- CPUファンのケーブルを必ず接続してください。接続しないと、ハードウェアのモニタリングエラーが発生することがあります。
- このコネクタは旧型 3 ピン CPU ファンにも対応しています。

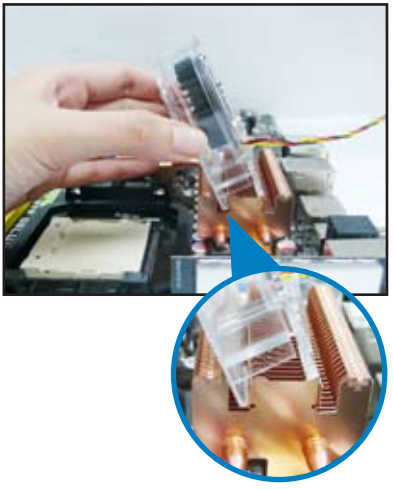
2.3.3 オプションファンを取り付ける

オプションファンは水冷クーラーを使用しているときだけ取り付けてください。アクティブクーラーに加えてオプションファンを取り付けると、エアーフローが乱れ、逆効果となります。

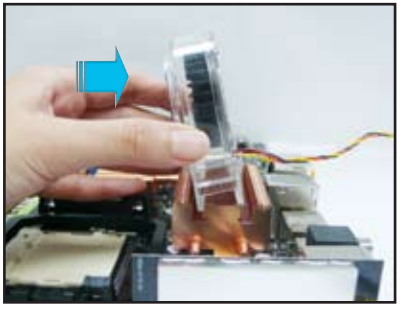
1. パイプとヒートシンクの上にファンを置きます。



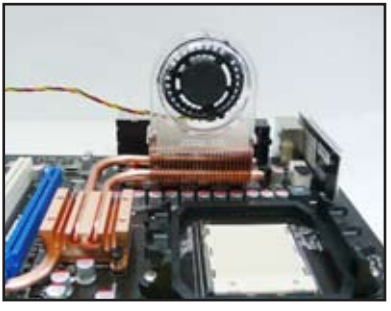
2. ヒートシンクの、溝があるエッジにファンを取り付けます。



3. ヒートシンクにしっかり固定されるまでファンをゆっくり押し下げます。次にファンケーブルを接続します。



4. 下はマザーボードにオプションファンを取り付けた写真です。



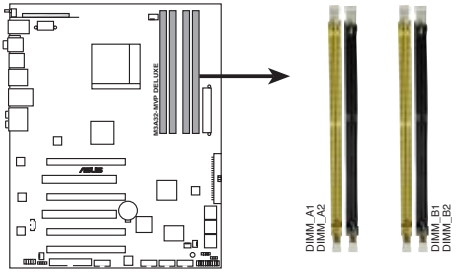
- オプションファンケーブルをマザーボードの CHA_FAN1/2 コネクタに接続してください。
- オプションファンとマザーボードコンポーネントの損傷を防ぐため、オプションファンは正しく取り付けてください。

2.4 システムメモリ

2.4.1 概要

本マザーボードには 4 つのダブルデータレート 2（DDR2）デュアルインラインメモリスロットが搭載されています。

次の図は、スロットの場所を示しています。



M3A32-MVP DELUXE 240-pin DDR2 DIMM slots

チャンネル	スロット
Channel A	DIMM_A1 と DIMM_A2
Channel B	DIMM_B1 と DIMM_B2

2.4.2 メモリ構成

256 MB、512 MB、1 GB、2 GB unbuffered ECC / non-ECC DDR2 メモリをメモリスロットに取り付けることができます。

推奨メモリ構成

モード	スロット			
	DIMM_A1 (イエロー)	DIMM_A2 (ブラック)	DIMM_B1 (イエロー)	DIMM_B2 (ブラック)
シングルチャンネル	–	–	使用	–
	使用	–	–	–
デュアルチャンネル (1)	使用	–	使用	–
デュアルチャンネル (2)	使用	使用	使用	使用

- サイズの異なるメモリを Channel A と Channel B に取り付けることができます。異なる容量のメモリをデュアルチャンネル構成で取り付けた場合、デュアルチャンネルアクセス領域はメモリ容量の合計値が小さい方のチャンネルに合わせて割り当てられ、サイズの大きなメモリの超過分に関してはシングルチャンネル用に割り当てられます。
- 同じ CAS レイテンシを持つメモリを取り付けてください。またメモリは同じベンダーからお求めになることをお勧めします。
- Windows® Vista 32bit/Windows® XP 32bit OS では Physical Address Extension(PAE)をサポートしないため、1 GBメモリを 4 枚取り付けても、システムは 3GB未満のシステムメモリしか認識しないことがあります。これは他の重要な機能用にアドレススペースが割り当てられるためです。
- Windows® Vista 32bit/Windows® XP 32bit OSでは、合計 3GB 未満のシステムメモリを取り付けることを お勧めします。
- 本マザーボードは 128 Mbit のメモリチップを搭載したメモリモジュールは動作保証致しかねます。

M3A32-MVP Deluxe Series
マザーボード QVL（メモリ 推奨ベンダーリスト）
DDR2-800MHz：AM2 CPU 用

サイズ	ベンダー	チップ No.	SS/DS	パーツ No.	メモリサポート		
					A*	B*	C*
512MB	KINGSTON	K4T51083QC	SS	KVR800D2N5/512	•	•	•
1024MB	KINGSTON	Heat-Sink Package	DS	KHX6400D2LL/1G	•	•	•
1024MB	KINGSTON	Heat-Sink Package	SS	KHX6400D2LLK2/1GN	•	•	•
1024MB	KINGSTON	V59C1512804QBF25	DS	KVR800D2N5/1G	•	•	•
1024MB	KINGSTON	Heat-Sink Package	SS	KHX6400D2ULK2/1G	•	•	•
2048MB	KINGSTON	Heat-Sink Package	DS	KHX6400D2ULK2/2G	•	•	•
512MB	Qimonda	HYB18T512800BF25F	SS	HYS64T64000HU-25F-B		•	•
1024MB	Qimonda	HYB18T512800BF25F	DS	HYS64T128020HU-25F-B	•	•	•
512MB	Hynix	HY5PS12821CFP-S5	SS	HYMP564U64CP8-S5			•
1024MB	Hynix	HY5PS12821CFP-S5	DS	HYMP512U64CP8-S5		•	
512MB	MICRON	D9GKX	SS	MT8HTF6464AY-80ED4	•	•	•
1024MB	MICRON	D9GKX	DS	MT16HTF12864AY-80ED4	•	•	•
512MB	CORSAIR	Heat-Sink Package	SS	CM2X512A-6400	•	•	•
1024MB	CORSAIR	Heat-Sink Package	DS	CM2X1024-6400C4	•	•	•
512MB	Crucial	Heat-Sink Package	SS	BL6464AA804.8FD	•	•	•
1024MB	Crucial	Heat-Sink Package	DS	BL12864AL804.16FD3		•	•
1024MB	Crucial	Heat-Sink Package	DS	BL12864AA804.16FD3	•	•	•
512MB	Apacer	Heat-Sink Package	DS	AHU512E800C5K1C	•		
512MB	A-DATA	AD29608A8A-25EG	SS	M2OAD6G3H3160G1E53	•	•	•
1024MB	A-DATA	AD26908A8A-25EG	DS	M2OAD6G3I4170I1E58	•	•	•
512MB	KINGMAX	KKA8FEIBF-HJK-25A	SS	KLDC28F-A8KI5	•		•
1024MB	KINGMAX	KKA8FEIBF-HJK-25A	DS	KLDD48F-ABKI5	•	•	
512MB	Transcend	HY5PS12821CFP-S5	SS	TS64MLQ64V8J	•		
1024MB	Transcend	HY5PS12821CFP-S5	DS	TS128MLQ64V8J	•		
512MB	Super Talent	Heat-Sink Package	SS	T800UA12C4	•	•	•
1024MB	Super Talent	Heat-Sink Package	DS	T800UB1GC4	•	•	
512MB	NANYA	NT5TU64M8BE-25C	SS	NT512T64U880BY-25C		•	•
1024MB	NANYA	NT5TU64M8BE-25C	DS	NT1GT64U8HB0BY-25C	•	•	•
512MB	PSC	A3R12E3HEF641B9A05	SS	AL6E8E63B8E1K	•	•	•
1024MB	PSC	A3R12E3HEF641B9A05	DS	AL7E8E63B-8E1K	•	•	
1024MB	Elixir	N2TU51280BE-25C	DS	M2Y1G64TU8HB0B-25C	•		

- A*: シングルチャンネルメモリ構成として、1 枚のモジュールを任意のスロットに取り付けることが可能。
- B*: 1 組のデュアルチャンネルメモリ構成として、2 枚 1 組のメモリをイエローのスロットまたはブラックのスロットに 取り付けることが可能。
- C*: 2 組のデュアルチャンネルメモリ構成として、4 枚のメモリをイエローとブラックのスロット両方に取り付けることが可能。

最新の DDR2-1066/800/667/533MHz QVL は、ASUSのWebサイト（http://www.asus.co.jp/）をご覧ください。

M3A32-MVP Deluxe Series
マザーボード QVL（メモリ 推奨ベンダーリスト）
DDR2-667MHz：AM2 CPU 用

サイズ	ベンダー	チップ No.	SS/DS	パーツ No.	メモリサポート		
					A*	B*	C*
512MB	KINGSTON	D6408TEBGGL3U	SS	KVR667D2N5/512	•	•	•
256MB	KINGSTON	HYB18T256800AF3S	SS	KVR667D2N5/256	•	•	•
256MB	KINGSTON	6SBI2D9DCG	SS	KVR667D2N5/256		•	•
2048MB	KINGSTON	E1108AB-6E-E	DS	KVR667D2N5/2G	•	•	•
256MB	Qimonda	HYB18T512160BF-3S	SS	HYS64T32000HU-3S-B		•	•
512MB	Qimonda	HYB18T512800BF3S	SS	HYS64T64000HU-3S-B	•	•	•
1024MB	Qimonda	HYB18T512800BF3S	DS	HYS64T128020HU-3S-B	•	•	
256MB	SAMSUNG	K4T51163QC-ZCE6	SS	M378T3354CZ0-CE6	•	•	•
512MB	SAMSUNG	ZCE6K4T51083QC	SS	M378T6553CZ0-CE6	•	•	•
256MB	SAMSUNG	K4T51163QC-ZCE6	SS	M378T3354CZ3-CE6		•	•
512MB	SAMSUNG	K4T51083QC	SS	M378T6553CZ3-CE6	•	•	•
1024MB	SAMSUNG	ZCE6K4T51083QC	DS	M378T2953CZ3-CE6		•	•
512MB	SAMSUNG	K4T51163QE-ZCE6	DS	M378T3354EZ3-CE6	•	•	•
256MB	SAMSUNG	K4T51083QE	SS	M378T6553EZS-CE6	•		•
1024MB	SAMSUNG	K4T51083QE	DS	M378T2953EZ3-CE6	•	•	•
256MB	Hynix	HY5PS121621CFP-Y5	SS	HYMP532U64CP6-Y5	•	•	•
1024MB	Hynix	HY5PS12821CFP-Y5	DS	HYMP512U64CP8-Y5	•	•	•
256MB	CORSAIR	MIII00605	SS	VS256MB667D2	•		•
512MB	CORSAIR	64M8CFEG	SS	VS512MB667D2	•	•	•
1024MB	CORSAIR	64M8CFEG	DS	VS1GB667D2	•	•	•
256MB	ELPIDA	E2508AB-6E-E	SS	EBE25UC8ABFA-6E-E	•	•	•
512MB	A-DATA	AD29608A8A-3EG	SS	M2OAD5G3H3166I1C52	•	•	•
1024MB	A-DATA	AD29608A8A-3EG	DS	M2OAD5G3I4176I1C52	•	•	•
2048MB	A-DATA	NT5TU128M8BJ-3C	DS	M2ONY5H3J4170I1C5Z	•	•	•
512MB	crucial	Heat-Sink Package	SS	BL6464AA663.8FD	•		
1024MB	crucial	Heat-Sink Package	DS	BL12864AA663.16FD	•	•	•
1024MB	crucial	Heat-Sink Package	DS	BL12864AL664.16FD	•	•	•
512MB	Apacer	AM4B5708GQJS7E0628F	SS	AU512E667C5KBGC	•		•
1024MB	Apacer	AM4B5708GQJS7E	DS	AU01GE667C5KBGC	•		•
512MB	Transcend	K4T51083QE	SS	TS64MLQ64V6J	•		
1024MB	Transcend	K4T51083QE	DS	TS128MLQ64V6J		•	•
256MB	Kingmax	N2TU51216AG-3C	SS	KLCB68F-36KH5	•	•	•
512MB	Kingmax	KKEA88B4LAUG-29DX	SS	KLCC28F-A8KB5	•	•	•
1024MB	Kingmax	KKEA88B4LAUG-29DX	DS	KLCD48F-A8KB5		•	•
512MB	Super Talent	Heat-Sink Package	SS	T6UA512C5	•	•	
1024MB	Super Talent	Heat-Sink Package	DS	T6UB1GC5	•	•	
2048MB	NANYA	NT5TU128M8BJ-3C	DS	NT2GT64U8HB0JY-3C	•	•	•
512MB	NANYA	NT5TU64M8BE-3C	SS	NT512T64U88B0BY-3C	•	•	•
512MB	PSC	A3R12E3GEF637BLC5N	SS	AL6E8E63B-6E1K	•	•	•
1024MB	PSC	A3R12E3GEF637BLC5N	DS	AL7E8E63B-6E1K	•	•	•
512MB	TwinMOS	TMM6208G8M30C	SS	8D-23JK5M2ETP	•		•

M3A32-MVP Deluxe Series
マザーボード QVL（メモリ 推奨ベンダーリスト）
DDR2-533MHz：AM2 CPU

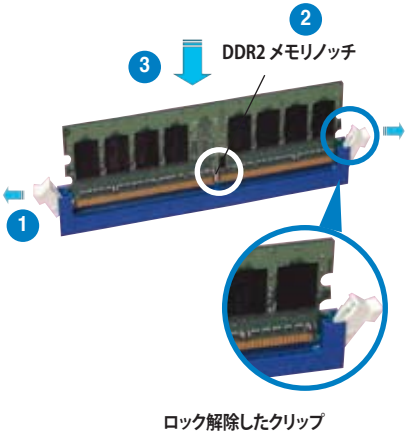
サイズ	ベンダー	チップ No.	SS/DS	パーツ No.	メモリサポート		
					A*	B*	C*
512MB	KINGSTON	HYB18T512800AF37	SS	KVR533D2N4/512	•	•	•
1024MB	KINGSTON	D6408TPAGGL3U	DS	KVR533D2N4/1G	•	•	
2048MB	KINGSTON	E1108AB-6E-E	DS	KVR533D2N4/2G	•	•	
512MB	Qimonda	HYB18T512800BF37	SS	HYS64T64000HU-3.7-B	•	•	•
1024MB	Qimonda	HYB18T512800BF37	DS	HYS64T128020HU-3.7-B	•	•	
256MB	SAMSUNG	K4T51163QC-ZCD5	SS	M378T3354CZ3-CD5	•	•	•
512MB	SAMSUNG	ZCD5K4T51083QC	SS	M378T6553CZ3-CD5	•	•	
1024MB	SAMSUNG	ZCD5K4T51083QC	DS	M378T2953CZ3-CD5	•	•	
256MB	Hynix	HY5PS121621CFP-C4	SS	HYMP532U64CP6-C4	•	•	•
1024MB	Hynix	HY5PS12821CFP-C4	DS	HYMP512U64CP8-C4	•	•	
256MB	CORSAIR	32M16CEDG	SS	VS256MB533D2	•	•	•
1024MB	CORSAIR	64M8CEDG	DS	VS1GB533D2	•	•	
512MB	ELPIDA	E5108AB-5C-E	SS	EBE51UD8ABFA-5C-E	•	•	
512MB	KINGMAX	E5108AE-5C-E	SS	KLBC28F-A8EB4	•	•	•
512MB	KINGMAX	KKEA88E4AAK-37	SS	KLBC28F-A8KE4	•	•	•
1024MB	KINGMAX	5MB22D9DCN	DS	KLBD48F-A8ME4		•	
512MB	Apacer	AM4B5708GQJS5D	SS	AU512E533C4KBGC	•	•	•
1024MB	Apacer	AM4B5708GQJS5D	DS	AU01GE533C4KBGC	•	•	
512MB	Super Talent	Heat-Sink Package	SS	T5UA512C4	•	•	
1024MB	Super Talent	Heat-Sink Package	DS	T5UB1G8C4	•	•	

2.4.3 メモリを取り付ける

メモリやその他のシステムコンポーネントを追加、または取り外す前に、コンピュータの電源プラグを抜いてください。プラグを差し込んだまま作業すると、マザーボードとコンポーネントが破損する原因となります。

手順

1. クリップを外側に押して、メモリスロットのロックを解除します。
2. メモリのノッチがスロットの切れ目に一致するように、メモリをスロットに合わせます。
3. クリップが所定の場所に戻りメモリが正しく取り付けられるまで、メモリをスロットにしっかり押し込みます。

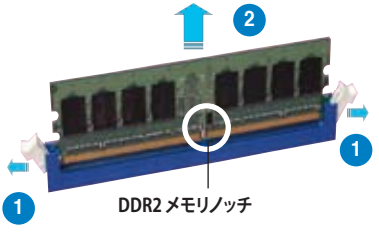


- DDR 2 メモリは取り付ける向きがあります。間違った向きでメモリを無理にスロットに差し込むと、メモリが損傷する原因となります。
- DDR2 メモリのスロットは DDR メモリをサポートしていません。DDR2 メモリのスロットに DDR メモリを取り付けないでください。

2.4.4 メモリを取り外す

手順

1. クリップを外側に同時に押してメモリのロックを解除します。



クリップを押しているとき、指でメモリを軽く引っぱります。無理な力をかけてメモリを取り外すとメモリが破損する恐れがあります。

2. スロットからメモリを取り外します。

2.4.5 ASUS Cool Mempipe を取り付ける

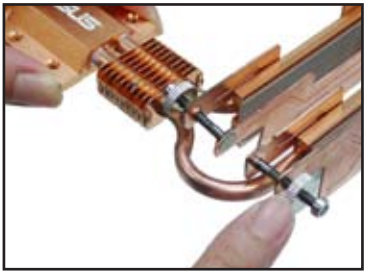
ASUS Cool Mempipe をマザーボードに取り付けることで、メモリモジュールの熱を効率的に逃がすことができます。

ASUS Cool Mempipe を取り付ける手順

1. マザーボードを９本のネジでケースに固定します。

2. 最初にメモリをスロット DIMM_A1/B1 に取り付けます。

3. ４つのナットを弛め、ヒートスプレッダを開きます。

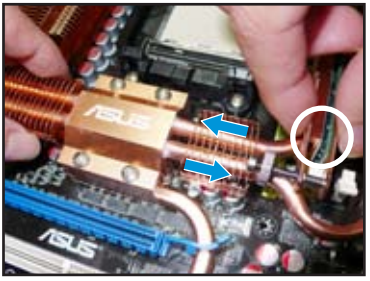


4. ヒートスプレッダの保護フィルム（４枚）を取り除きます。

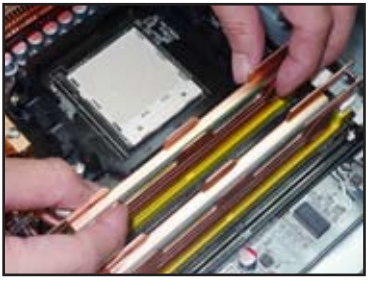
5. Cool Mempipe をノースブリッジヒートシンクに合わせます。メモリモジュールがヒートスプレッダの間に入るようにしてください。

6. ４本のネジで Cool Mempipe をノースブリッジヒートシンクに固定します。

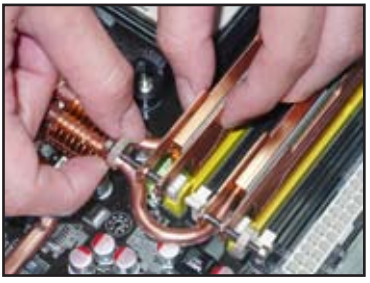
7. ヒートスプレッダがメモリモジュールと接するよう、ヒートパイプを調節します。



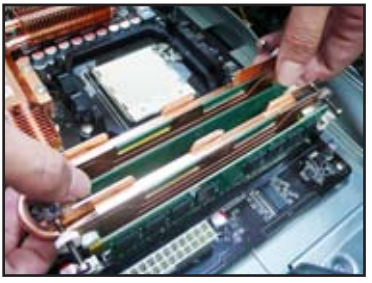
8. ヒートスプレッダでメモリモジュールをしっかり挟みます。



9. ヒートスプレッダを支え、4つのナットを締めます。**ナットを締め過ぎないようにしてください。**



10. 必要な場合、他のメモリモジュール2枚をスロット DIMM_A2/B2 に取り付けます。



Cool Mempipe を取り付けてから、メモリモジュールを DIMM_A2 と DIMM_B2 に取り付けてください。

2.5 拡張スロット

拡張カードを取り付ける場合は、このページに記載の拡張スロットに関する説明をお読みください。

拡張カードを追加したり取り外したりする前に、電源コードを抜いていることを確認してください。電源コードを接続したまま作業をすると、負傷をしたり、マザーボードコンポーネントが損傷したりする恐れがあります。

2.5.1 拡張カードを取り付ける

手順

1. 拡張カードを取り付ける前に、拡張カードに付属するマニュアルを読み、カードに必要なハードウェアの設定を行ってください。
2. コンピュータのケースを開けます（マザーボードをケースに取り付けている場合）。
3. カードを取り付けるスロットのブラケットを取り外します。ネジは後で使用するので、大切に保管してください。
4. カードの端子部分をスロットに合わせ、カードがスロットに完全に固定されるまでしっかり押します。
5. カードをネジでケースに固定します。
6. ケースを元に戻します。

2.5.2 拡張カードを設定する

拡張カードを取り付けた後、ソフトウェアの設定を行い拡張カードを使用できるようにします。

1. システムの電源をオンにし、必要であれば BIOS の設定を変更します。BIOS の設定に関する詳細は、Chapter 4 をご参照ください。
2. IRQ（割り込み要求）番号をカードに合わせます。次のページの表を参照してください。
3. 拡張カード用のソフトウェアドライバをインストールします。

PCI カードを共有スロットに挿入する際は、ドライバがIRQの共有をサポートすること、または、カードが IRQ 割り当てを必要としないことを確認してください。IRQ を要求する 2 つの PCI グループが対立し、システムが不安定になりカードが動作しなくなることがあります。詳細は次項の表をご参照ください。

2.5.3 割り込み割り当て

標準の割り込み割り当て

IRQ	優先順位	標準機能
0	1	システムタイマー
1	2	キーボードコントローラ
2	–	IRQ#9 にリダイレクト
4	12	通信ポート (COM1)*
5	13	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
6	14	フロッピーディスクコントローラ
7	15	不使用
8	3	システム CMOS/リアルタイムクロック
9	4	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
10	5	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
11	6	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
12	7	不使用
13	8	数値データプロセッサ
14	9	プライマリ IDE チャンネル

* 上記のIRQは **ISA** デバイス**または PCI** デバイスで使用されています。

本マザーボード用のIRQ割り当て

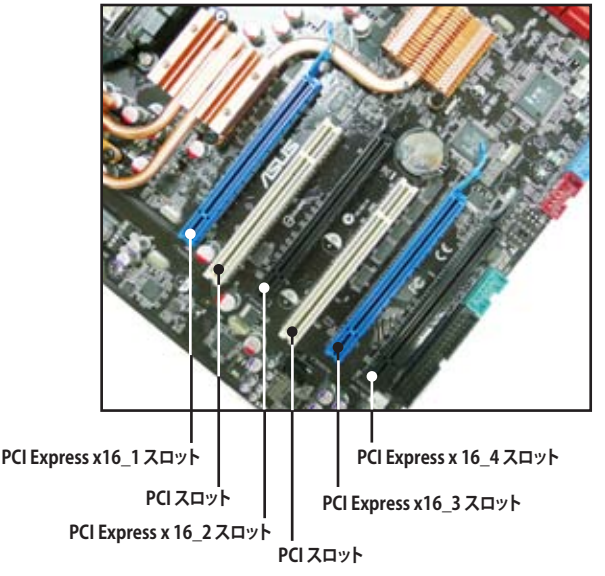
	A	B	C	D	E	F	G	H
PCIE x16_1	共有	共有	共有	共有	–	–	–	–
PCIE x16_2	共有	共有	共有	共有	–	–	–	–
PCIE x16_3	共有	共有	共有	共有	–	–	–	–
PCIE x16_4	共有	共有	共有	共有	–	–	–	–
USB 1.0 コントローラ 1	–	–	–	共有	–	–	–	–
USB 1.0 コントローラ 2	–	–	–	共有	–	–	–	–
USB 1.0 コントローラ 3	–	–	–	共有	–	–	–	–
USB 1.0 コントローラ 4	–	–	–	共有	–	–	–	–
USB 2.0 コントローラ	–	–	–	共有	–	–	–	–
HD オーディオ	共有	–	–	–	–	–	–	–
オンボード SATA	–	–	–	–		共有	–	–

2.5.4 PCI スロット

LAN カード、SCSI カード、USB カード等の PCI 規格準拠のカードをサポートしています。スロットの位置は下の写真を参考にしてください。

2.5.5 PCI Express x16 スロット（× 4）

本マザーボードは、PCI Express 規格準拠の ATI CrossFireX™ PCI Express x16 ビデオカード 4 枚をサポート可能です。ビデオカードを 4 枚取り付けることで、本マザーボードはクアッドディスプレイが可能になります。**スロットの位置は下の写真を参考にしてください。**



プライマリ PCI Express x16 スロット

プライマリ PCI Express x16 スロットは、PCI Express 規格準拠の PCI Express x16 ビデオカードをサポートしています。

ユニバーサル PCI Express x16 スロット（最大 x8 モード）

本マザーボードはまた、最大速度 8 GB/s でユニバーサル PCI Express x16 スロットをサポートしています。取り付けた PCI Express カードのタイプにより本スロットの動作周波数は変わります。詳細は下の表をご覧ください。

複数のビデオカードを取り付ける場合、システムの温度上昇を防ぐため、リアケースファンケーブルをマザーボード側の CHA_FAN1/2 と表示のあるコネクタに接続することをお勧めします。コネクタの位置についてはページ 2-33 をご覧ください。

ビデオカード構成	PCI Express 動作モード			
	PCIex16_1	PCIex16_2	PCIex16_3	PCIex16_4
シングル PCIe ビデオカード	x16	x1	x16	x1
デュアル PCIe ビデオカード	x16	x1	x16	x1
トリプル PCIe ビデオカード	x16	x1	x8	x8
	x8	x8	x16	x1
クアッドビデオカード	x8	x8	x8	x8

- ビデオカード 1 枚と x4 の PCIeカード 1 枚を同時に使用する場合は、両方のカードをブルーのスロットに取り付けてください。
- ビデオカード 2 枚をブルーのスロットに取り付け、他の x4 のPCIe カードを同時に使用する場合は、x4 の PCIe カードは最適なビデオパフォーマンスのために x1 モードにダウングレードします。BIOS 設定画面で PCIe のモードを 再び割り当てることができます。詳細はページ 4-24 をご覧ください。

2.6 ジャンパ

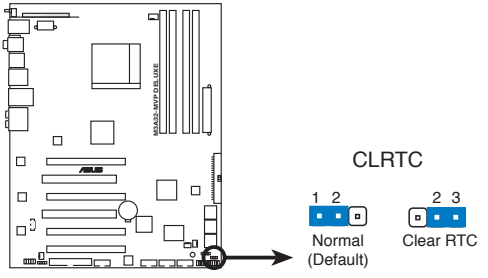
1. RTC RAM のクリア (3 ピン CLRTC)

このジャンパは、CMOSのリアルタイムクロック(RTC) RAMをクリアするものです。CMOS RTC RAMのデータを消去することにより、日、時、およびシステム設定パラメータをクリアできます。システムパスワードなどのシステム情報を含むCMOS RAMデータの保存は、マザーボードのボタン電池により行われています。

RTC RAMをクリアする手順

1. コンピュータの電源をオフにし電源コードをコンセントから抜きます。
2. マザーボード上のボタン電池を取り外します。
3. CLRTCのピン1-2（初期設定）にあるジャンパキャップをピン2-3に移動させます。5~10秒間そのままにして、再びピン1-2にキャップを戻します。
4. 電池を取り付けます。
5. 電源コードを差し込み、コンピュータの電源をオンにします。
6. 起動プロセスの間に<Del>キーを押し、BIOS設定に入ったらデータを再入力します。

RTC RAM をクリアしている場合を除き、CLRTCジャンパのキャップは取り外さないでください。システムの起動エラーの原因となります。

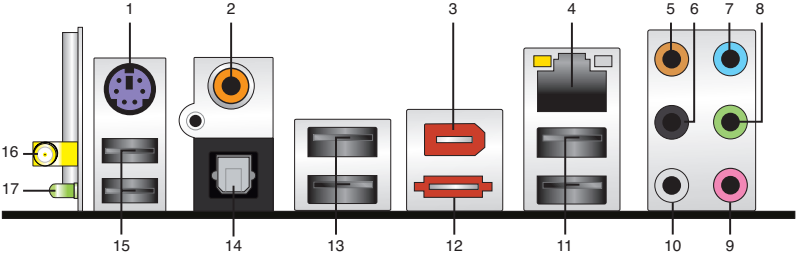


M3A32-MVP DELUXE Clear RTC RAM

- CPUのオーバークロックによりシステムがハングした場合は、RTCをクリアする必要はありません。C.P.R.（CPU Parameter Recall）機能を利用し、システムを停止して再起動すると、BIOS は自動的にパラメータ設定を初期設定値にリセットします。
- チップセットの制限により、C.P.R.（CPU Parameter Recall）機能を利用する前にAC電源をオフにする必要があります。システムを再起動する前に、電源をオフにして再びオンにする、または電源コードを抜き、再び接続する必要があります。

2.7 コネクタ

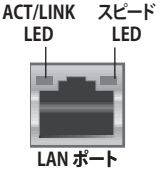
2.7.1 バックパネルコネクタ



1. **PS/2 キーボードポート(パープル)：**PS/2 キーボード用です。
2. **コアキシャル S/PDIF 出力ポート：**コアキシャル S/PDIF ケーブルを使って外部オーディオ出力デバイスを接続することができます。
3. **IEEE 1394a ポート：**オーディオ/動画デバイス、記憶装置、PC、ポータブルデバイス等の高速接続を可能にします。
4. **LAN (RJ-45) ポート：**Marvell® 88E1116 Gigabit LAN コントローラによるサポートにより、ネットワークハブを通して、LAN での Gigabit 接続をサポートします。LAN ポートLEDの表示については、下の表を参考にしてください。

LAN ポート LED

Activity/Link LED		スピード LED	
状態	説明	状態	説明
オフ	リンクなし	オフ	10 Mbps
オレンジ	リンク確立	オレンジ	100 Mbps
点滅	データ有効	グリーン	1 Gbps



5. **センター/サブウーファポート(オレンジ)：**センター/サブウーファスピーカーを接続します。
6. **リアスピーカー出力ポート(ブラック)：**このポートは4チャンネル、6チャンネル、8チャンネルのオーディオ構成で使用します。
7. **ライン入力ポート(ライトブルー)：**テープ、CD、DVD プレーヤー、またはその他のオーディオソースを接続します。
8. **ライン出力ポート(ライム)：**ヘッドフォンやスピーカーを接続します。4、6、8チャンネルの出力設定のときは、このポートはフロントスピーカー出力になります。
9. **マイクポート(ピンク)：**マイクを接続します。
10. **サイドスピーカー出力ポート(グレー)：**8チャンネルオーディオ構成でサイドスピーカーを接続します。

2、4、6、8チャンネル構成時のオーディオポートの機能については、以下のオーディオ構成表を参考にしてください。

オーディオ構成表

ポート	ヘッドセット 2チャンネル	4チャンネル	6チャンネル	8チャンネル
ライトブルー	ライン入力	ライン入力	ライン入力	ライン入力
ライム	ライン出力	フロントスピーカー出力	フロントスピーカー出力	フロントスピーカー出力
ピンク	マイク入力	マイク入力	マイク入力	マイク入力
オレンジ	–	–	センター／サブウーファ	センター／サブウーファ
ブラック	–	リアスピーカー出力	リアスピーカー出力	リアスピーカー出力
グレー	–	–	–	サイドスピーカー出力

11. **USB 2.0ポート1と2：**USB 2.0デバイスを接続することができます。
12. **外部 SATA ポート：**外部 Serial ATA ハードディスクドライブを接続します。

外部 SATA ポートは外部 Serial ATA 3.0 Gb/s デバイスに対応しています。ケーブルは長いほど多くの電源が必要です（最長 2 メートルまで）。ホットプラグ機能が利用できます。

外部 SATA ポートには専用のコネクタのみを接続してください。

13. **USB 2.0 ポート 3 と 4：** USB 2.0デバイスを接続することができます。
14. **光デジタル S/PDIF 出力ポート：** 光デジタル S/PDIF ケーブルを使って外部オーディオ出力デバイスを接続することができます。
15. **USB 2.0 ポート 5 と6：** USB 2.0デバイスを接続することができます。

WiFi-AP Edition モデルをご購入の場合のみ

WiFi-AP Solo の取り扱いについては WiFi-AP Solo ユーザーマニュアルをご参照ください。

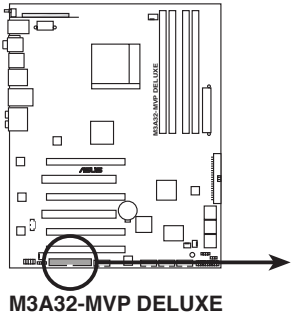
16. **無線 LAN ポート：**このポートはオンボード無線LAN モジュールに付属しており、無線ネットワークを構築し、他の無線デバイスとの情報交換が可能です。使用の際は、多方向アンテナを接続してください。
17. **無線 LAN Activity LED：** WiFi-AP Solo の専用 LEDです。

2.7.2 内部コネクタ

1. フロッピーディスクドライブコネクタ（34-1 ピン FLOPPY）

フロッピーディスクドライブ（FDD）ケーブル用コネクタです。ケーブルの一方をこのコネクタに挿入し、もう一方をフロッピーディスクドライブの背面に接続します。

誤ってケーブルを接続しないように、コネクタのピン5は取り外されています。



M3A32-MVP DELUXE
Floppy disk drive connector

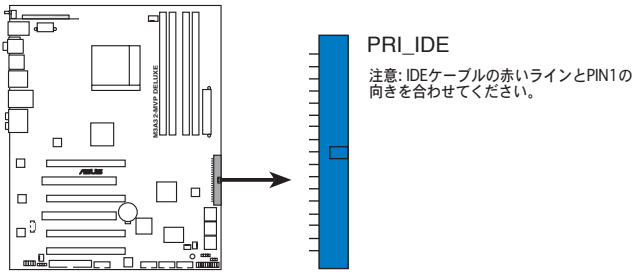
2. IDE コネクタ (40-1 ピン PRI_IDE)

Ultra DMA133/100/66 ケーブル用です。各 Ultra DMA 133/100/66 ケーブルには ブルー、ブラック、グレー の 3 つのコネクタがあります。マザーボードの IDE コネクタには ブルーを接続し、下からいずれかのモードを選択してください。

	ドライブジャンパ設定	デバイスのモード	ケーブルコネクタ
デバイス 1 台	Cable-Select/ マスター	-	ブラック
デバイス 2 台	Cable-Select	マスター	ブラック
		スレーブ	グレー
	マスター	マスター	ブラック/ グレー
	スレーブ	スレーブ	

- 誤ってケーブルを接続しないようにコネクタのピン20は取り外されています。
- Ultra DMA 100/66 IDE デバイスの場合は、80ピンタイプのIDEケーブルを使用します。

あるデバイスジャンパを「Cable-Select」に設定した場合は、他のデバイスジャンパも全て同じ設定にしてください。



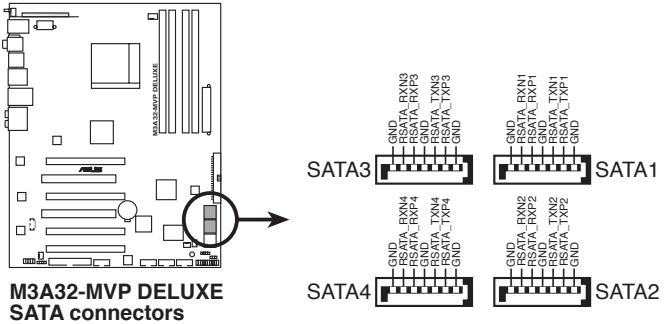
M3A32-MVP DELUXE IDE connector

3. AMD® SB600 Southbridge Serial ATA コネクタ (7ピンSATA1 [レッド]、SATA2 [ブラック]、SATA3 [レッド]、SATA4 [ブラック])

これらのコネクタは Serial ATA ハードディスクと光学ディスクドライブに使用する Serial ATA ケーブルを接続します。

SATA HDD を SATA1/2/3/4 コネクタに取り付けた場合は、オンボード AMD® SB600 コントローラで RAID 0、RAID 1、RAID 0+1 設定を構築することができます。

- これらのコネクタは初期設定で **[IDE] に設定されています。これらのコネクタで** Serial ATA RAID セットを構築する場合は、BIOS の「Onchip SATA Type」の項目を [RAID]に設定してください。詳細は「**4.3.6 Storage Configuration**」をご参照ください。
- RAID を構築する前に、セクション「**5.4 RAID**」、またはマザーボードサポート DVD に収録されているマニュアルをご参照ください。



M3A32-MVP DELUXE SATA connectors

- Serial ATA HDD を使用する前に Windows® XP Service Pack 1 をインストールする必要があります。Serial ATA RAID 機能 (RAID 0 と RAID 1) は Windows® XP または以降のバージョンを使用している場合のみ利用することができます。
- コネクタを Native IDE モードで使用する場合、プライマリ (ブート) HDD を SATA1/3 コネクタに接続してください。推奨される SATA HDD 接続については下の表をご覧ください。

Serial ATA HDD 接続

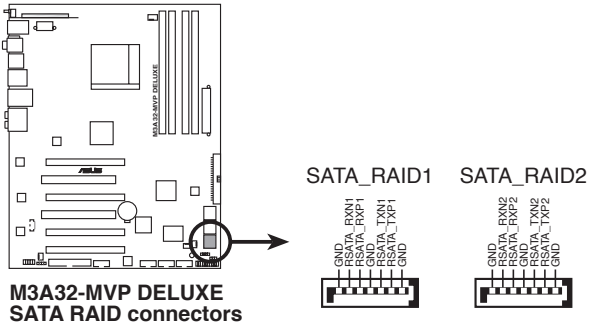
コネクタ	カラー	設定	用途
SATA 1/3	レッド	マスター	ブートディスク
SATA 2/4	ブラック	スレーブ	データディスク

SATAケーブルの直角部分を SATA デバイスに接続します。あるいは、オンボード SATA ポートに接続してビデオカードとの衝突を避けることもできます。

4. Marvell® 6121 Serial ATA RAID コネクタ (7ピン SATA_RAID1/2)

このコネクタは Serial ATA ケーブル用で、Serial ATA ハードディスクドライブに使用します。RAID 0 または RAID 1を構築するには、2台の内部 Serial ATA HDD を SATA_RAID1/2 コネクタに接続してください。

BIOS で「Marvell IDE/RAID function」の項目は **初期設定で [IDE] に設定されています。**この項目を [RAID] に設定することで、このコネクタを使用してRAID セットを構築することができます。詳細はセクション「**4.4.5 オンボードデバイス設定構成**」をご覧ください。

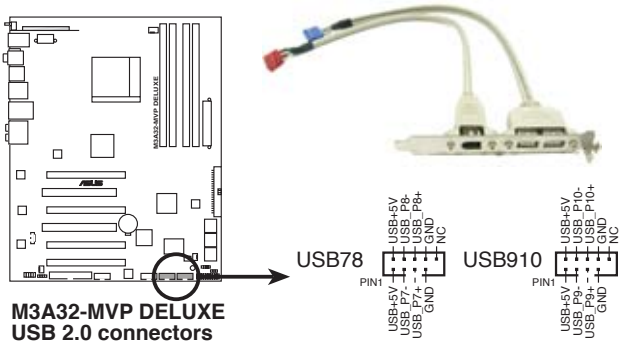


M3A32-MVP DELUXE SATA RAID connectors

Serial ATA ハードディスクを使用して RAID セットを作成する際は、Serial ATA ケーブルを接続し、Serial ATA HDD を取り付けていることをご確認ください。そうでない場合、Marvell RAID BIOS Configuration ユーティリティを開くことができず、POST 中に SATA BIOS セットアップ画面に入ることができません。

5. USB コネクタ (10-1 ピン USB 78、USB910)

USB 2.0 ポート用のコネクタです。USBケーブルをこれらのコネクタに接続します。このコネクタは最大 480 Mbps の接続速度を持つ USB 2.0 規格に準拠しています。



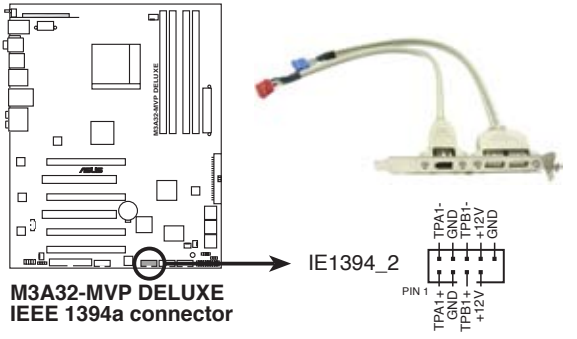
M3A32-MVP DELUXE
USB 2.0 connectors

1394 ケーブルを USB コネクタに接続しないでください。マザーボードが破損する原因となります。

ご使用のケースがフロントパネル USB ポートをサポートしている場合、**まずフロントパネル USB ケーブルをASUS Q-Connector (USB、ブルー)に接続し、Q-Connector (USB)をオンボードUSB** コネクタに取り付けると接続が短時間で行えます。

6. IEEE 1394a ポートコネクタ (10-1 ピン IE1394_2)

IEEE 1394a ポート用です。IEEE 1394a ケーブルをこのコネクタに接続します。



M3A32-MVP DELUXE
IEEE 1394a connector

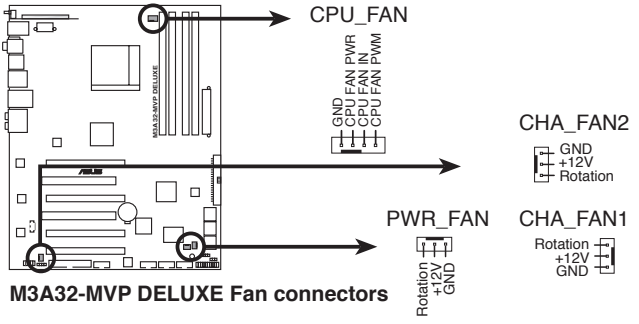
USBケーブルを IEEE 1394a コネクタに接続しないでください。マザーボードが破損する原因となります。

ご使用のケースがフロントパネル 1394 ポートをサポートしている場合、フロントパネル 1394 ケーブルをASUS Q-Connector (1394、レッド)に接続し、Q-Connector (1394) をオンボード1394 コネクタに取り付けると接続が短時間で行えます。

7. CPU ファンコネクタ、 ケースファンコネクタ、電源ファンコネクタ (4ピン CPU_FAN、3ピン CHA_FAN1、3ピン CHA_FAN2、3ピン PWR_FAN)

各ファンコネクタは+12Vで、 350 mA~2000 mA (最大 24 W) またはトータルで 1 A~7 A (最大 84 W) の冷却ファンをサポートします。ファンケーブルをマザーボードのファンコネクタに接続し、各ケーブルの黒いワイヤがコネクタのアースピンに接続されていることを確認します。

ケース内に十分な空気の流れがないと、マザーボードコンポーネントが破損する恐れがあります。組み立ての際にはシステムの冷却ファン (吸/排気ファン) を必ず搭載してください。また、吸/排気ファンの電源をマザーボードから取得することで、エアフローをマザーボード側で効果的にコントロールすることができます。また、これはジャンパピンではありません。ファンコネクタにジャンパキャップを取り付けないでください。



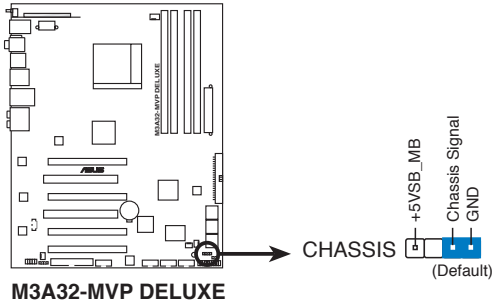
M3A32-MVP DELUXE Fan connectors

- CPU_FAN、CHA_FAN 1 コネクタのみが ASUS Q FAN2 機能に対応しています。
- ビデオカードを2枚取り付ける場合は、システムの温度上昇を防ぐため、リアケースファンケーブルをマザーボード側の CHA_FAN1 または CHA_FAN2 と表示のあるコネクタに接続することをお勧めします。

8. ケース開閉検出コネクタ (4-1 ピン CHASSIS

ケース開閉検出センサーまたはスイッチ用コネクタです。センサーまたはスイッチを接続してください。システムコンポーネントの取り外しや交換のときにケースを開けると、ケース開閉検出センサーまたはスイッチはこのコネクタに信号を送信します。信号はその後、ケース開閉検出イベントを発行します。

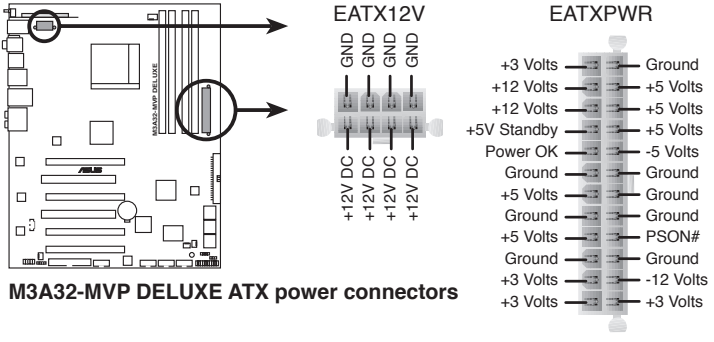
初期設定値では、「Chassis Signal」と「Ground」のピンの間はジャンパキャップにより、ショートされています。ケース開閉検出機能を使用する場合にのみ、ジャンパを取り外してケース開閉検出センサーを接続してください。



M3A32-MVP DELUXE
Chassis intrusion connector

9. ATX 電源コネクタ (24ピン EATXPWR、8ピン ATX12V)

ATX電源プ ラグ用のコネクタです。電源プラグは正しい向きでのみ、取り付けられるように設計されています。正しい向きでしっかりと挿し込んでください。

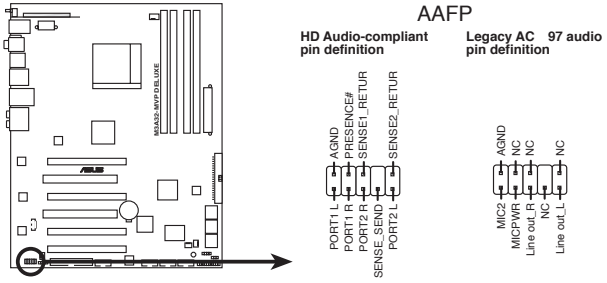


M3A32-MVP DELUXE ATX power connectors

- システムの快適なご利用のために、最低 600W ATX 12 V 仕様 2.0 (またはそれ以降) 対応電源ユニットを使用することをお勧めします。
- 8ピン ATX +12 V 電源プラグを必ず接続してください。システムが起動しなくなります。
- 大量に電力を消費するデバイスを使用する場合は、高出力の電源ユニットの使用をお勧めします。電源ユニットの能力が不十分だと、システムが不安定になる、またはシステムが起動できなくなる等の問題が発生する場合があります。
- **システムに最低限必要な電源が分からない場合は、**http://support.asus.com/PowerSupplyCalculator/PSCalculator.aspx?SLanguage=ja-jp の「電源用ワット数計算機」をご参照ください。
- ATX 12 V 仕様 2.0対応 (500W) の電源ユニットは、以下の条件でテストした結果、本マザーボードの使用上問題がありません。
  CPU：AMD FX-62
  メモリ：1024 MB DDR2-800 (× 4)
  ビデオカード：PCI Express x16 NVIDIA 7900GTX
  Serial ATA デバイス：SATA ハードディスクドライブ (2台)
  光学ドライブ：DVD-RW

10. フロントパネルオーディオコネクタ (10-1 ピン AAFP)

ケースのフロントパネルオーディオ I/O モジュール用コネクタで、HD オーディオ及び AC'97 オーディオをサポートしています。オーディオ I/O モジュールケーブルの一方をこのコネクタに接続します。

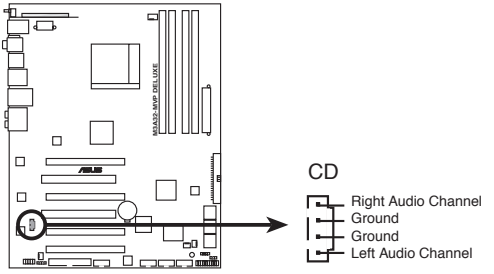


M3A32-MVP DELUXE Analog front panel connector

- HD オーディオ機能を最大限に活用するため、HD フロントパネルオーディオモジュールを接続することをお勧めします。
- HDフロントパネルオーディオモジュールを接続するには、BIOS で「**Front Panel Support Type**」の項目を [HD Audio]に設定します。AC'97 フロントパネルオーディオモジュールを接続するには、この項目を [AC97]に設定します。初期設定では、このコネクタは [HD Audio] に設定されています。詳細はセクション「**4.4.5 オンボードデバイス設定構成**」をご覧ください。

11. 光学ドライブオーディオコネクタ（4ピン CD）

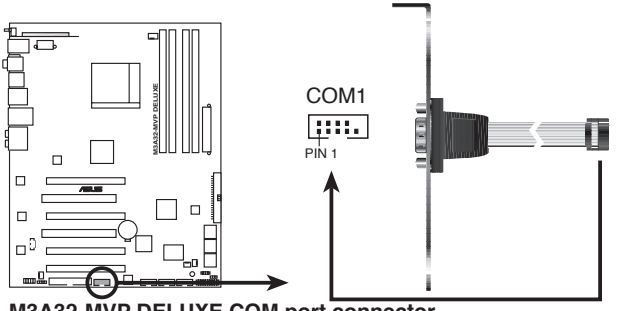
CD-ROM、TV チューナー、MPEG カード等のサウンドソースからステレオオーディオ入力を受信します。



M3A32-MVP DELUXE Internal audio connector

12. Serial ポートコネクタ (10-1 ピン COM1)

シリアル (COM) ポート用です。シリアルポートケーブルをこのコネクタに接続します。

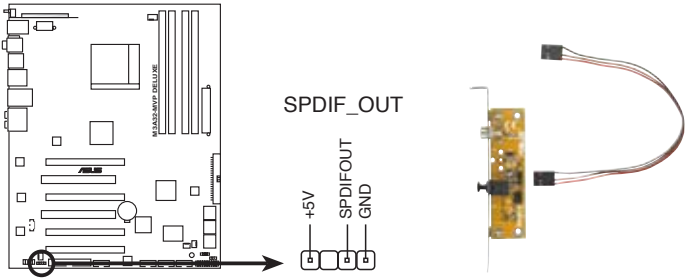


M3A32-MVP DELUXE COM port connector

COM モジュールは別売りとなっております。

13. デジタルオーディオコネクタ (4-1 ピン SPDIF_OUT)

このコネクタは追加のS/PDIFポート用で、S/PDIF 出力ケーブルをこのコネクタに接続します。

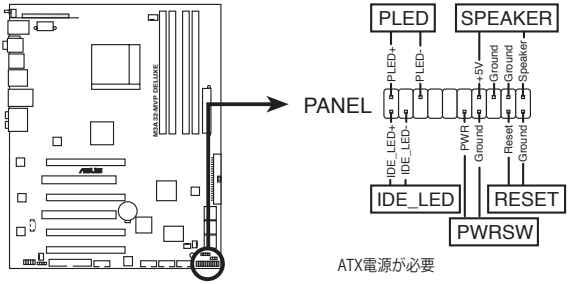


M3A32-MVP DELUXE Digital audio connector

S/PDIF モジュールは別売りとなっております。

14. システムパネルコネクタ (20-8 ピン PANEL)

これらのコネクタはケースに付属する各機能に対応しています。



M3A32-MVP DELUXE System panel connector

- **システム電源 LED (2 ピン PLED)**

  システム電源LED用です。ケース電源LEDケーブルを接続してください。システムの電源LEDはシステムの電源をオンにすると点灯し、システムがスリープモードに入ると点滅します。

- **HDD アクティビティ LED (2ピン IDE_LED)**

  HDDActivity LED用です。HDDActivity LEDケーブルを接続してください。IDE LEDは、データがHDDと読み書きを行っているときに点灯するか点滅します。

- **ビープ (Beep) スピーカー (4 ピン SPEAKER)**

  ケース取り付けのビープスピーカー用です。スピーカーはその鳴り方でシステムの不具合を報告し、警告を発します。

- **ATX 電源ボタン/ソフトオフボタン (2 ピン PWRSW)**

  システムの電源ボタン用です。電源ボタンを押すとシステムの電源がオンになります。また BIOSの設定によってはシステムをスリープモードまたはソフトオフモードにすることができます。システムがオンになっているときに電源スイッチを押すと、システムの電源はオフになります。

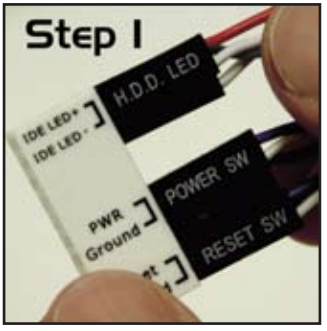
- **リセットボタン (2 ピン RESET)**

  ケースに付属のリセットボタン用です。システムの電源をオフにせずにシステムを再起動します。

ASUS Q-Connector (システムパネル)

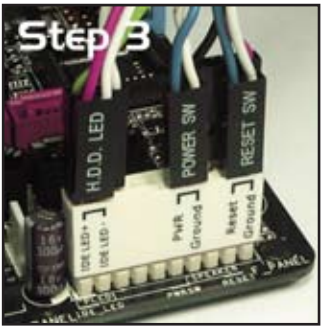
ASUS Q-Connector でケースフロントパネルケーブルの取り付け/取り外しが以下の手順で簡単に行えます。下は取り付け方法です。

1. フロントパネルケーブルを
   ASUS Q-Connector に接続します。
   向きはQ-Connector 上にある表示を参考にし、フロントパネルケーブルの表示と一致するように接続してください。



2. ASUS Q-Connector をシステムパネルコネクタに取り付けます。マザーボードの表示と一致するように取り付けてください。

3. フロントパネル機能が有効になりました。右は Q-connector を取り付けた写真です。



電源をオンにする手順から、音声による
POSTメッセージ、電源をオフにする手順

3 電源をオンにする

Chapter 3

3.1 初めて起動する 3-1
3.2 コンピュータの電源をオフにする 3-2

3.1 初めて起動する

1. すべての接続が終了したら、システムケースのカバーを元に戻してください。
2. すべてのスイッチをオフにしてください。
3. 電源コードをケース背面の電源コネクタに接続します。
4. 電源コードをコンセントに接続します。
5. 以下の順番でデバイスの電源をオンにします。
   a. モニター
   b. 外部デバイス類（ディジーチェインの最後のデバイスから）
   c. システム電源
6. システムの電源をオンにすると、システム前面パネルケースのシステム電源LEDが点灯します。ATX電源装置を搭載したシステムの場合、ATX電源ボタンを押すとシステムLEDが点灯します。モニターが「グリーン」規格に準拠している場合や、電源スタンバイ機能を搭載している場合、システムの電源をオンにすると、モニターのLEDが点灯もしくはオレンジからグリーンに切り替わります。

   次にシステムは、起動時の自己診断テスト (POST) を実行します。テストを実行している間、BIOSがビープ音を出すか、スクリーンにメッセージが表示されます。電源をオンにしてから30秒以内に何も表示されない場合は、電源オンテストの失敗です。ジャンパ設定と接続を確認してください。問題が解決されない場合は、販売店にお問い合わせください。

BIOS ビープ	説明
ビープ１回	VGA 検出 BIOS の「Quick Boot」設定が [Disabled] の時 キーボード未検出
長いビープ１回＋短いビープ２回、 数秒後同じパターンで繰り返し	メモリ未検出時
長いビープ１回＋短いビープ３回	VGA 未検出時
長いビープ１回＋短いビープ４回	ハードウェアモニタリング エラー

7. 電源をオンにした直後に、<Delete>キーを押すとBIOS設定に入ります。Chapter 4 の指示に従ってください。

3.2 コンピュータの電源をオフにする

3.2.1 OS シャットダウン機能を使用する

Windows® XPをご使用の場合

1. スタートボタンをクリックし、「シャットダウン」を選択します。
2. 「電源を切る」をクリックし、コンピュータの電源をオフにします。
3. Windows® がシャットダウンした後、電源装置がオフになります。

Windows® Vista ご利用の場合：

1. 「スタート」ボタンをクリックし、「シャットダウン」を選択します。
2. Windows® がシャットダウンした後、電源装置もオフになります。

3.2.2 電源スイッチのデュアル機能を使用する

システムがオンになっている間、電源スイッチを押してから４秒以内に離すとシステムはBIOS設定によりスリープモードまたはソフトオフモードに入ります。電源スイッチを４秒以上押すと、BIOS設定には関わらず、システムはソフトオフモードに入ります。
（詳細：ページ 4-28「**4.5 電源メニュー**」参照）

BIOS セットアップメニューでのシステム設定の変更方法と BIOS パラメータの詳細

4 BIOS セットアップ

Chapter 4

4.1 BIOS 管理更新 4-1
4.2 BIOS 設定プログラム 4-9
4.3 メインメニュー 4-12
4.4 拡張メニュー 4-16
4.5 電源メニュー 4-28
4.6 ブートメニュー 4-32
4.7 ツールメニュー 4-36
4.8 終了メニュー 4-38

4.1 BIOS 管理更新

次のユーティリティを使って、マザーボードのベーシックインプット/アウトプットシステム（BIOS）の管理更新を行います。

1. **ASUS Update**（Windows® 環境でBIOSを更新）
2. **ASUS EZ Flash 2**（DOS環境でBIOSを更新。フロッピーディスク/USBフラッシュメモリを使用）
3. **ASUS AFUDOS**（ブートフロッピーディスクを使用して BIOSを更新）
4. **ASUS CrashFree BIOS 3**（BIOS がダメージを受けた場合、ブートフロッピーディスク/USBフラッシュメモリ/サポート DVD を使用して BIOS を更新）

ユーティリティの詳細については、このページ以降の各説明を参照してください。

BIOS を復旧できるように、オリジナルのマザーボード BIOS ファイルをブートフロッピーディスク/ USBフラッシュメモリにコピーしてください。BIOS のコピーにはASUS Update または AFUDOS を使用します。

4.1.1 ASUS Update

ASUS Update は、Windows® 環境でマザーボードの BIOS を管理、保存、更新するユーティリティです。以下の機能を実行することができます。

- マザーボードの BIOSファイルを保存する
- インターネットから最新の BIOS ファイルをダウンロードする
- 最新のBIOSファイルにBIOSを更新する
- インターネットから直接BIOSを更新する
- BIOSのバージョン情報を表示する

ユーティリティはマザーボードに付属しているサポート DVD からインストールします。

ASUS Update でインターネットを使用した機能を使用するためには、インターネット接続が必要です。

ASUS Update をインストールする

手順

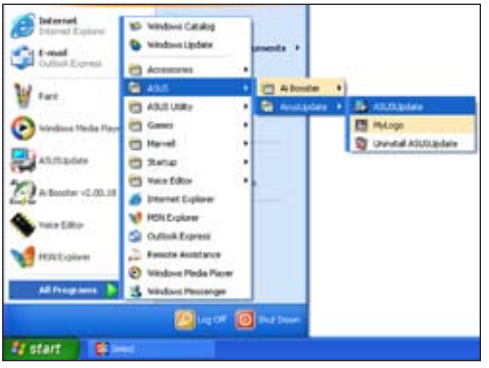
1. 光学ドライブにサポート DVD をセットします。ドライバメニューが表示されます。
2. Utility タブをクリックし、「**Install ASUS Update**」をクリックします。
3. ASUS Update ユーティリティがシステムにインストールされます。

このユーティリティを使用してBIOS を更新する場合は、すべての Windows® アプリケーションを終了してください。

インターネットを通してBIOSを更新する

手順

1. **スタートメニュー →プログラム→ASUS→ASUSUpdate→ASUSUpdate** をクリックします。ASUS Update ユーティリティを起動すると、ASUS Update メインウィンドウが表示されます。



Select the Update Method
1. Update/Save BIOS from/to a file
2. Update BIOS from the Internet -
Update system BIOS using a specified BIOS image file on ASUS Web Site
3. Download BIOS from the Internet -
Download a specified BIOS image file via Internet for later usage.
4. Check BIOS Information
Update BIOS from the Internet
Save current BIOS to a file
Update BIOS from a file
Update BIOS from the Internet
Download BIOS from the Internet
Check BIOS Information
Options

2. ドロップダウンメニューから、「**Update BIOS from the internet**」を選択し、「**Next**」をクリックします。

3. 最寄りの ASUS FTPサイトを選択するか、「**Auto Select**」をクリックし、「**Next**」をクリックします。

4. ダウンロードしたい BIOS バージョンを選択し、「**Next**」をクリックします。
5. 画面の指示に従って、更新プロセスを完了します。

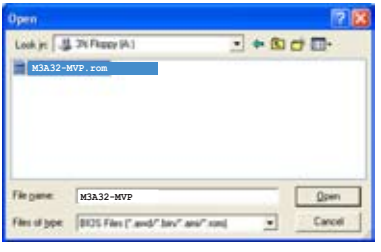
ASUS Update ユーティリティはインターネットから最新版に更新することができます。すべての機能を利用できるように、常に最新版をご使用ください。

BIOSファイルからBIOSを更新する

手順

1. **スタートメニュー → プログラム → ASUS → ASUSUpdate → ASUSUpdate** をクリックして、ASUS Update ユーティリティを起動すると、ASUS Update メインウィンドウが表示されます。
2. ドロップダウンメニューから「**Update BIOS from a file**」を選択し、「**Next**」をクリックします。

3. OpenダイアログからBIOSファイルを探し、「**Open**」をクリックします。
4. 画面の指示に従い、更新プロセスを完了します。



4.1.2 ブートフロッピーディスクを作成する

1. 次のいずれかの方法で、ブートフロッピーディスクを作成します。

   DOS 環境

   a. ドライブに1.44MBのフロッピーディスクを挿入します。
   b. DOSプロンプトで、**format A:/S** を入力し、<Enter>を押します。

   Windows® XP 環境

   a. 1.44 MBのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
   b. Windows® のデスクトップからスタートをクリックし、マイコンピュータを選択します。
   c. 3.5 インチフロッピーディスクドライブアイコンを選択します。
   d. マウスを右クリックし、コンテクストメニューからフォーマットを選択します。3.5 インチフロッピーディスクのフォーマットウィンドウが表示されます。
   e. フォーマットオプションから、「MS-DOSの起動ディスクを作成する」を選択し、「開始」をクリックします。

2. オリジナルまたは最新のマザーボードのBIOSファイルをブートフロッピーディスクにコピーします。

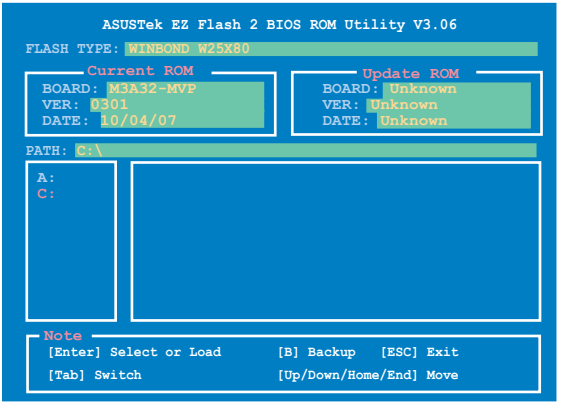
4.1.3 ASUS EZ Flash 2

ASUS EZ Flash 2 はブートフロッピーディスクや DOS ベースのユーティリティを使うことなく、BIOS を短時間で更新します。このユーティリティは内蔵の BIOS チップですので、システム起動時の自己診断テスト(POST)中に、<Alt> + <F2>を押すことで起動することができます。

EZ Flash 2 を使用して BIOS を更新する手順

1. ASUS Webサイト (www.asus.co.jp) にアクセスして、マザーボード用の最新の BIOS ファイルをダウンロードします。
2. BIOS ファイルをフロッピーディスクまたは USBフラッシュメモリに保存し、システムを再起動します。
3. EZ Flash 2 を 起動する方法には以下の2つがあります。
   (1) BIOS ファイルを保存したフロッピーディスク / USBフラッシュメモリをフロッピーディスクドライブまたは USB ポートに挿入します。

   POST 中に <Alt> + <F2> を押すと下の画面が表示されます。



   (2) BIOS セットアッププログラムで、Tools メニューに進み EZ Flash2 を選択して <Enter> を押します。
   <Tab> を使ってドライブを変更し<Enter> を押します。
4. BIOS ファイルが検出されると EZ Flash 2 がBIOS をアップデートし、システムが自動的に再起動されます。

- **FAT 32/16** フォーマットのUSBフラッシュメモリ、フロッピーディスク等のデバイスのみをサポートします。
- BIOS を更新中にシステムのシャットダウンやリセットを行わないでください。システム起動エラーの原因となります。

4.1.4 AFUDOS

AFUDOS ユーティリティは、BIOS ファイルを保存したブートフロッピーディスクを使用して、DOS 環境で BIOS ファイルを更新します。また、このユーティリティで現在の BIOS ファイルをバックアップ用に保存しておくこともできます。

現在のBIOSをコピーする

AFUDOS ユーティリティを使用して現在の BIOS ファイルをコピーします。

- フロッピーディスクは書き込み可能なもので、ファイルを保存するために少なくとも 1024KB の空き容量が必要です。
- 説明で使用しているBIOS の画面は一例です。実際の BIOS 画面とは、異なる場合があります。

1. マザーボードサポート DVD 内に収録されたAFUDOS ユーティリティ（afudos.exe）を ブートフロッピーディスクにコピーします。
2. ブートフロッピーディスクからシステムを起動し、プロンプトで以下のように入力します。

   afudos /o[filename]

   [filename]は自由に決めることができます。入力可能な名前は、8文字以下の英数字のファイル名と3文字の英数字の拡張子です。

3. <Enter>を押します。マザーボードのBIOSファイルがフロッピーディスクにコピーされます。

BIOS ファイルがコピーされると、DOS プロンプトに戻ります。

BIOSファイルを更新する

AFUDOSユーティリティを使用してBIOSファイルを更新する手順

1. ASUS Web サイト（www.asus.co.jp）にアクセスして、マザーボード用の最新の BIOS ファイルをダウンロードして、ブートフロッピーディスクに保存してください。

BIOSファイル名は紙などに書きとめてください。DOSプロンプトでBIOSファイル名を正確に入力する必要があります。

2. マザーボードサポート DVD 内に収録されたAFUDOS ユーティリティ（afudos.exe）をブートフロッピーディスクにコピーします。
3. ブートフロッピーディスクからシステムを起動し、プロンプトで以下のように入力します。

   afudos /i[filename]

   [filename] は、BIOS ファイル名です。.

```
A:\>afudos /iM3A32-MVP.ROM
```

4. ファイルが確認されると、BIOS の更新が開始されます。

```
A:\>afudos /iM3A32-MVP.ROM
AMI Firmware Update Utility - Version 1.19(ASUS V2.07(03.11.24BB))
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.

    WARNING!! Do not turn off power during flash BIOS
    Reading file ....... done
    Reading flash ...... done

    Advance Check ......
    Erasing flash ...... done
    Writing flash ...... 0x0008CC00 (9%)
```

BIOS の更新中にシステムのシャットダウンやリセットを行わないでください。**システムエラーの原因となります。**

5. BIOS の更新プロセスが完了すると、DOS プロンプトに戻ります。HDDからシステムを再起動してください。

```
A:\>afudos /iM3A32-MVP.ROM
AMI Firmware Update Utility - Version 1.19(ASUS V2.07(03.11.24BB))
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.

    WARNING!! Do not turn off power during flash BIOS
    Reading file ....... done
    Reading flash ...... done

    Advance Check ......
    Erasing flash ...... done
    Writing flash ...... done
    Verifying flash .... done

    Please restart your computer

A:\>
```

4.1.5 ASUS CrashFree BIOS 3

ASUS CrashFree BIOS 3 はBIOSの自動復旧ツールで、BIOS更新時に障害を起こした場合や破損した BIOS ファイルを復旧します。破損した BIOSファイルはサポート DVD、または BIOS ファイルを保存したフロッピーディスク/USBフラッシュメモリで更新することができます。

- **このユーティリティを使用する前に、サポート CDまたは BIOS を保存したフロ**ッピーディスク、USBフラッシュメモリをお手元にご用意ください。
- BIOS 更新プロセスの間ディスプレイに何も表示されなければ、システムは BIOS ファイルを含むデバイスを検出する際にビープ音で警告を発します。デバイスが検出され、更新プロセスが開始されるとビープ音は停止します。更新プロセスが 完了すると 4 回ビープ音が鳴ります。システム再起動後にディスプレイは元の状態に戻ります。

サポート DVD から BIOS を復旧する

手順

1. システムの電源をオンにします。
2. サポート DVD を光学ドライブに挿入します。
3. 下のメッセージが表示され、DVD の BIOS ファイルが自動的にチェックされます。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
```

BIOS が検出されると、BIOS ファイルを自動的に読み込み、破損した BIOS ファイルを更新します。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
Floppy found!
Reading file "M3A32-MVP.ROM". Completed.
Start flashing...
```

4. 更新作業が完了したらシステムを再起動してください。

USBフラッシュメモリからBIOS を復旧する

手順

1. BIOS ファイルを保存した USBフラッシュメモリを USB ポートにセットします。
2. システムをオンにします。
3. デバイスが検出されると自動的に BIOS ファイルを読み込み、BIOS の更新が開始されます。
4. 更新作業が完了したらシステムを再起動します。

- ASUS CrashFree BIOS 3 は FAT 32/16 フォーマットでシングルパーティションの USBフラッシュメモリのみをサポートします。デバイスサイズは 8GB 未満である必要があります。
- BIOS を更新している間に、システムのシャットダウンやリセットを行わないでください。システムの起動エラーの原因となります。

4.2 BIOS 設定プログラム

本マザーボードはプログラム可能な Low-Pin Count (LPC) チップを搭載しており、「4.1 BIOS 管理更新」で説明した付属ユーティリティを使用してBIOSの更新をすることが可能です。

BIOS 設定プログラムは、マザーボードを取り付けた時や、システムの再構成をした時、または"Run Setup"を促された時に使用します。本項では、この機能を使用してコンピュータの設定をする方法を説明します。

BIOS 設定プログラムを使用するように指示されていない場合でも、コンピュータの設定を変更することができます。例えば、セキュリティパスワード機能を有効にする、または、電源管理設定を変更することができます。これらの設定を変更するためには、コンピュータがこれらの変更を認識し、LPC チップのCMOS RAMに記録できるように、BIOS設定プログラムを使用してコンピュータの設定を変更する必要があります。

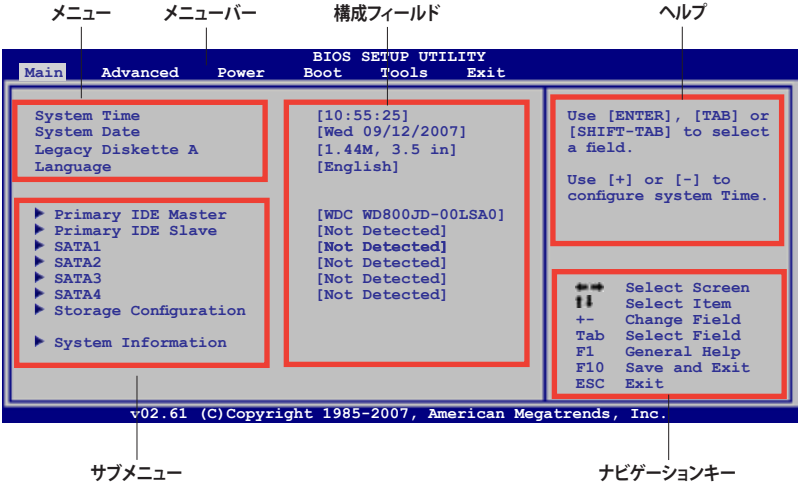
マザーボードのLPCチップにはBIOS設定プログラムが搭載されています。BIOS 設定プログラムはコンピュータを起動するときに実行することができます。起動時の自己診断テスト (POST) の間に<Del>キーを押すとBIOS 設定プログラムが起動します。

POST の終了後にBIOS 設定プログラムを実行したい場合は、<Ctrl+Alt+Delete>を押すか、ケースのリセットボタンを押してシステムを再起動します。システムをオフにし、それからまたオンにすることによって再起動することもできます。ただし、これは最初の2つの方法が失敗した場合の最後の手段として行ってください。

BIOS 設定プログラムは簡単に使用できるように設計されています。メニュー画面から、ナビゲーションキーを使用してさまざまなサブメニューをスクロールする、使用可能なオプションから設定を選択することができます。

- このマザーボードの BIOSの初期設定値はほとんどの環境で、最適なパフォーマンスを実現できるように設定されています。BIOS 設定を変更した後システムが不安定になったら、初期設定値をロードしてください。初期設定値に戻すには、終了メニューの下の「**Load Setup Defaults**」を選択します。(詳細は「**4.8 終了メニュー**」をご参照ください)
- 本書に掲載した BIOS の画面は一例であり、実際に表示される内容と異なる場合があります。
- 最新の BIOS はASUS Web サイト(www.asus.co.jp)からダウンロードしてください。

4.2.1 BIOS メニュー画面



4.2.2 メニューバー

スクリーン上部のメニューバーには、次の項目があります。

Main	基本システム設定の変更用
Advanced	拡張システム設定の変更用
Power	拡張電源管理 (APM/ACPI) 設定の変更用
Boot	システム起動設定の変更用
Tools	独自機能の設定オプション用
Exit	終了オプションと初期設定値のロード用

メニューバーの項目を選択するには、キーボードの右または左の矢印キーを使って、項目をハイライト表示させます。

4.2.3 ナビゲーションキー

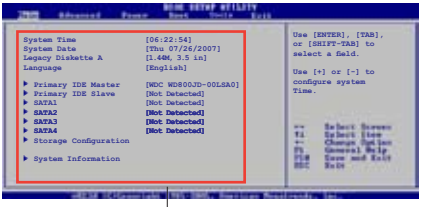
BIOS メニュー画面の右下には、メニューの操作をするためのナビゲーションキーの説明が表示されています。ナビゲーションキーを使用してメニューの項目を選択し、設定を変更します。

掲載した BIOS の画面は一例であり、実際に表示される内容と異なる場合があります。

4.2.4 メニュー

メニューバーをハイライト表示すると、そのメニューの設定項目が表示されます。例えば、メインを選択するとメインのメニューが表示されます。

メニューバーの他の項目 (Advanced、Power、Boot、Exit) には、それぞれのメニューがあります。



メインのメニュー

4.2.5 サブメニュー

サブメニューの項目の前には、黒い三角形が付いています。サブメニューを表示するためには、項目を選択し <Enter> を押します。

4.2.6 構成フィールド

構成フィールドには設定された値が表示されています。設定の変更が可能な項目は、フィールドの値を変更することができます。ユーザーによる変更が可能でない項目は、選択することができません。

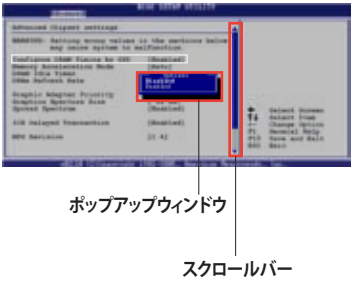
各値はカッコで囲まれており、選択するとハイライト表示されます。フィールドの値を変更するには、選択し <Enter> を押してオプションのリストを表示させます。詳細は「**4.2.7 ポップアップウィンドウ**」をご参照ください。

4.2.7 ポップアップウィンドウ

項目を選択し <Enter> を押すと、設定可能なオプションと共にポップアップウィンドウが表示されます。

4.2.8 スクロールバー

設定項目が画面に収まりきらない場合は、スクロールバーがメニュー画面の右側に表示されます。上/下矢印キー、または <Page Up>/<Page Down> キーで、スクロールすることができます。



ポップアップウィンドウ

スクロールバー

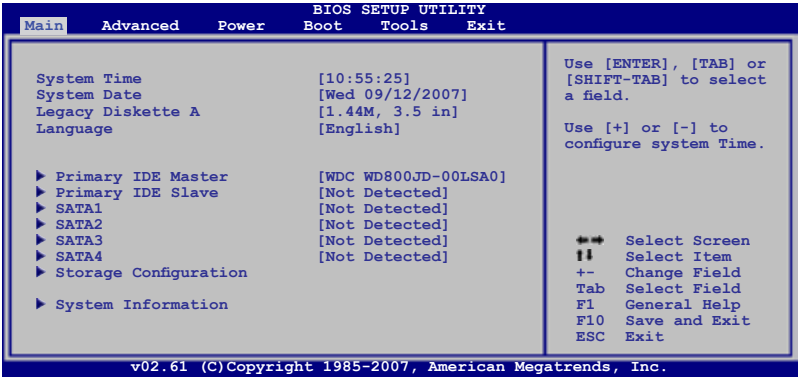
4.2.9 ヘルプ

メニュー画面の右上には、選択した項目の簡単な説明が表示されます。

4.3 メインメニュー

BIOS 設定プログラムに入ると、メインメニューが表示され、システム情報の概要が表示されます。

メニュー画面の情報および操作方法については、「**4.2.1 BIOS メニュー画面**」をご参照ください。


BIOS SETUP UTILITY
Main Advanced Power Boot Tools Exit
System Time [10:55:25]
System Date [Wed 09/12/2007]
Legacy Diskette A [1.44M, 3.5 in]
Language [English]
▶ Primary IDE Master [WDC WD800JD-00LSA0]
▶ Primary IDE Slave [Not Detected]
▶ SATA1 [Not Detected]
▶ SATA2 [Not Detected]
▶ SATA3 [Not Detected]
▶ SATA4 [Not Detected]
▶ Storage Configuration
▶ System Information
Use [ENTER], [TAB] or [SHIFT-TAB] to select a field.
Use [+] or [-] to configure system Time.
Select Screen
Select Item
+- Change Field
Tab Select Field
F1 General Help
F10 Save and Exit
ESC Exit
v02.61 (C)Copyright 1985-2007, American Megatrends, Inc.

4.3.1 System Time [xx:xx:xx]

システム時間を設定します。

4.3.2 System Date [Day xx/xx/xxxx]

システム日付を設定します。

4.3.3 Legacy Diskette A [1.44M, 3.5 in.]

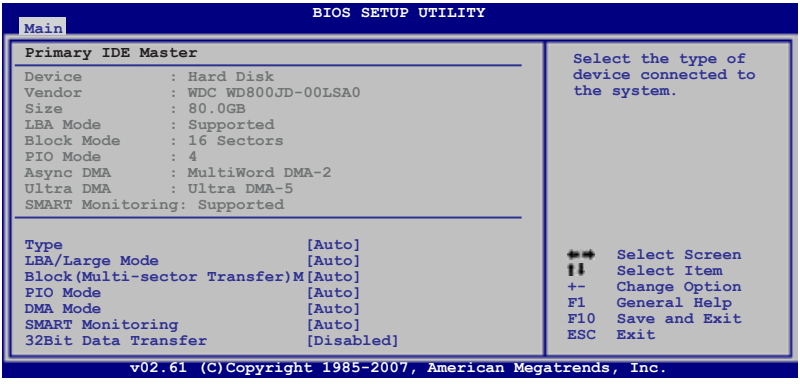
フロッピーディスクドライブのタイプを設定します。
設定オプション：[Disabled] [720K, 3.5 in.] [1.44M, 3.5 in.]

4.3.4 Language [English]

BIOS で表示する言語を選択することができます。
設定オプション：[**Japanese**] [Chinese(BIG5)] [Chinese(GB)] [Français] [German] [English]

4.3.5 Primary IDE Master/Slave、SATA1~4

セットアップ中に BIOS は自動的に IDE デバイスを検出します。デバイスを選択し、<Enter>を押すと IDE デバイスの情報が表示されます。



BIOSは、Device、Vendor、Size、LBA Mode、Block Mode、PIO Mode、Async DMA、Ultra DMA、SMART Monitoring の各値を自動的に検出します。これらの項目の値は変更することはできません。また、システムに IDE デバイスが接続されていない場合は N/A と表示されます。

Type [Auto]

IDEデバイスのタイプを選択します。[Auto]に設定すると、適切な IDE デバイスタイプを自動的に選択します。光学ドライブを接続している場合は[CDROM]を選択します。デバイスがZIP、LS-120、MOドライブのどれかであれば、[ARMD] (ATAPI リムーバブルメディアデバイス)を選択します。
設定オプション: [Not Installed] [Auto] [CDROM] [ARMD]

この項目は **Primary IDE Master/Slave** のみで表示されます。

LBA/Large Mode [Auto]

LBAモードの設定。デバイスがこのモードをサポートしている場合、[Auto]に設定すると、LBA モードが有効になります。デバイスが LBA モードでフォーマットされていない場合は無効になります。
設定オプション: [Disabled] [Auto]

Block (Multi-sector Transfer) M [Auto]

マルチセクタ転送の設定。[Auto]に設定すると、デバイスがマルチセクタ転送機能をサポートしていれば、デバイス間のデータ転送をマルチセクタで行います。[Disabled]に設定すると、デバイス間のデータ転送は1セクタごとに行います。
設定オプション: [Disabled] [Auto]

PIO Mode [Auto]

PIOモードを選択します。
設定オプション： [Auto] [0] [1] [2] [3] [4]

DMA Mode [Auto]

DMA モードを設定します。
設定オプション: [Auto] [SWDMA0] [SWDMA1] [SWDMA2] [MWDMA0] [MWDMA1] [MWDMA2] [UDMA0] [UDMA1] [UDMA2] [UDMA3] [UDMA4] [UDMA5]

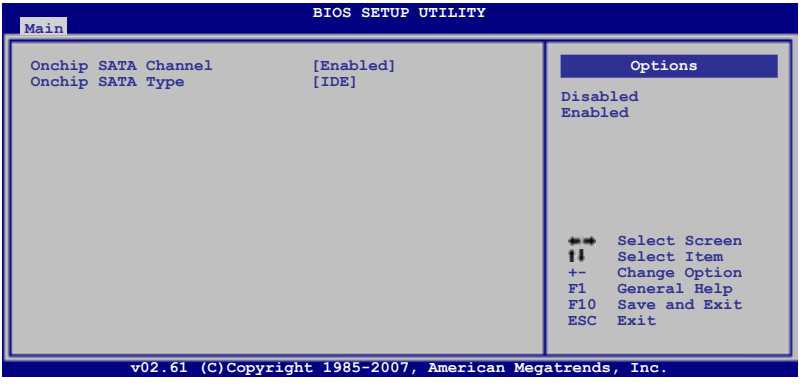
SMART Monitoring [Auto]

SMARTによる監視、分析、報告機能を設定します。
設定オプション: [Auto] [Disabled] [Enabled]

32Bit Data Transfer [Disabled]

32-bit データ転送を設定します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

4.3.6 Storage Configuration



Onchip SATA Channel [Enabled]

オンチップ SATA チャンネルを設定します。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

次の項目は「**OnChip SATA channel**」の項目を [Enabled] に設定した場合のみ表示されます。

Onchip SATA Type [IDE]

サウスブリッジチップセットがサポートする Serial ATA コネクタの構成を設定することができます。

AHCI により、オンボードのストレージドライバで Serial ATA の拡張機能が有効になります。これにより、ドライブ内部のコマンドの順序を最適化し、ランダムアクセス時のストレージパフォーマンスが向上します。

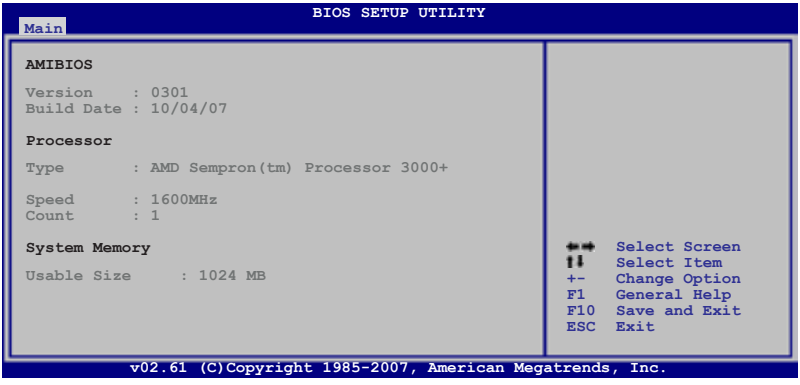
Serial ATA HDD で RAID 0、RAID1、RAID 0+1 構成を構築する場合は、この項目を [RAID] に設定します。

Serial ATA HDD を Parallel ATA 物理ストレージデバイスとして使用する場合は、初期設定 [IDE] のままにします。

Serial ATA HDD で AHCI (Advanced Host Controller Interface) を使用する場合は、この項目を [AHCI] に設定します。

4.3.7 システム情報

システム仕様の概要です。BIOS はさまざまな情報を自動的に検出します。



AMI BIOS

自動検出された BIOS 情報を表示します。

Processor

自動検出された CPU の仕様を表示します。

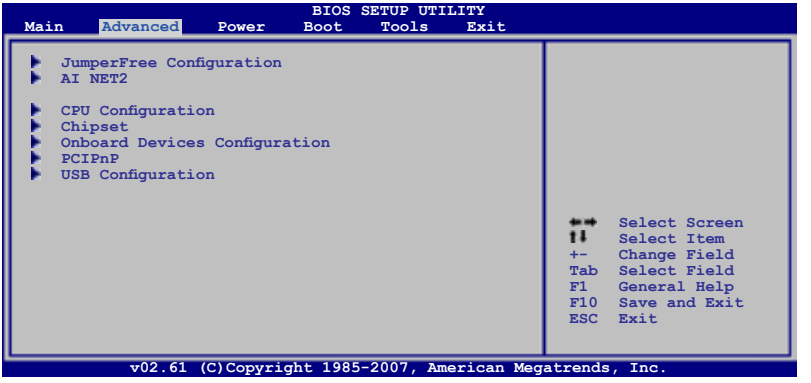
System Memory

自動検出されたシステムメモリの容量を表示します。

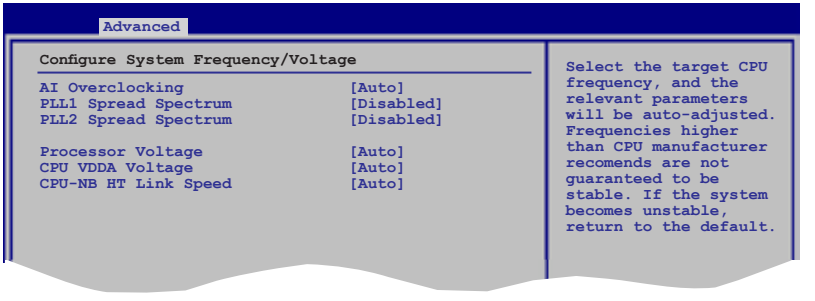
4.4 拡張メニュー

CPUとその他のシステムデバイスの設定を変更します。

拡張メニューの設定変更は、システムの誤動作の原因となることがあります。十分に注意してください。



4.4.1 Jumperfree Configuration


Advanced
Configure System Frequency/Voltage
AI Overclocking [Auto]
PLL1 Spread Spectrum [Disabled]
PLL2 Spread Spectrum [Disabled]
Processor Voltage [Auto]
CPU VDDA Voltage [Auto]
CPU-NB HT Link Speed [Auto]
Select the target CPU frequency, and the relevant parameters will be auto-adjusted. Frequencies higher than CPU manufacturer recomends are not guaranteed to be stable. If the system becomes unstable, return to the default.

AI Overclocking [Auto]

CPUオーバークロックオプションを選択してCPU内部周波数を設定することができます。

Manual	オーバークロックの値を手動で設定します。
Auto	システムに対して最適な設定をロードします。
Standard	システムに対して標準的な設定にします。

以下の項目の中には「**AI Overclocking**」を [Manual] または [Standard] に設定すると表示されるものがあります。項目は選択したオプションにより異なります。

FSB Frequency [XXX]

FSB 周波数を表示します。<+> と <-> キー、または数字を直接入力して周波数を調整してください。設定できる値は 200 から 600 の範囲です。

PCIE Frequency [XXX]

PCI Express 周波数を設定します。<+> と <-> キーを使用して、または直接数字を入力して周波数を調整してください。設定できる値は 100 から 150 の範囲です。

PLL1 Spread Spectrum [Disabled]

設定オプション：[Disabled] [Enabled]

PLL2 Spread Spectrum [Disabled]

設定オプション：[Disabled] [Enabled]

Processor Frequency Multiplier [Auto]

この項目はユーザー設定できません。

Processor Voltage [Auto]

直接数字を入力してプロセッサの電圧を設定することができます。設定できる値は 0.0125V 刻みで 0.8000V から 1.6875V です。

CPU のコア電圧を調節する際は CPU に付属の取扱説明書などをよくお読みください。設定値が高すぎた場合、CPUの故障の原因となります。また設定値が低すぎた場合、システムが不安定になります。

CPU VDDA Voltage [Auto]

CPU VDDA 電圧を設定します。
設定オプション：[Auto] [2.50V] [2.6V] [2.7V] [2.8V]

CPU-NB HT Link Speed [Auto]

CPU-Northbridge リンクスピードを設定します。
設定オプション：[200 MHz] [400 MHz] [600 MHz] [800 MHz] [1 GHz] [Auto]

設定オプションは CPU モデルにより異なります。

DDR Voltage [Auto]

直接数字を入力して DDR2 電圧を設定することができます。設定できる値は 0.02V 刻みで 1.80V から 2.50V です。

メモリの電圧を調節する際は、DDR2 メモリに付属の取扱説明書などをよくお読みください。設定値が高すぎた場合、メモリの故障の原因となります。

Northbridge Voltage [Auto]

ノースブリッジの電圧を設定します。以下の 3 つの項目は、**Northbridge Voltage** を [Manual] に設定すると表示されます。設定オプション：[Auto] [Manual]

HyperTransport Voltage [Auto]
設定オプション：[Auto] [1.20V] [1.30V] [1.40V] [1.50V]

Core/PCIe Voltage [Auto]
直接数字を入力してコア電圧/PCI Express 電圧を設定することができます。設定できる値は 0.02V 刻みで 1.10V から 1.40V です。

NB PCIE PLL [Auto]
設定オプション：[Auto] [1.8V] [1.9V] [2.0V] [2.1V]

Southbridge Voltage [Auto]

直接数字を入力してサウスブリッジの電圧を設定します。設定できる値は 0.02V 刻みで 1.20V から 1.40V です。

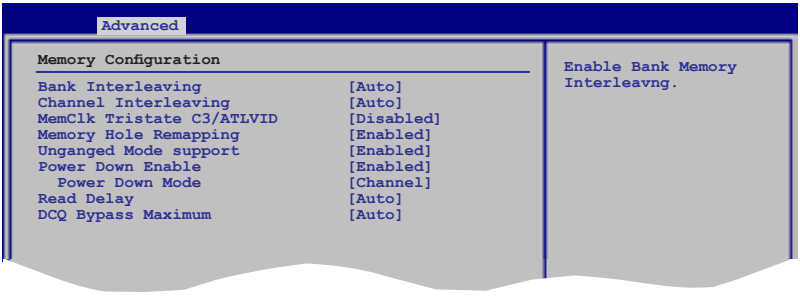
- **Processor Voltage、DDR Voltage、Core/PCIe Voltage、Southbridge Voltage** の 設定値が高すぎた場合、CPU、メモリモジュール、チップセットの故障の原因となります。ご注意ください。
- 上記の項目の値の中には、異なる色で表示され、危険なレベルの高電圧設定を知ることができるものがあります。詳細は下の表をご参照ください。
- 高電圧設定でもシステムを安定して動作させるには、より上位の冷却システムが必要となります。

	ブルー	イエロー	ピンク	レッド
プロセッサ電圧	0.8000V~1.6000V	該当なし	該当なし	1.6125V~1.6875V
DDR 電圧	1.80V~1.98V	2.00V~2.18V	2.20V~2.38V	2.40V~2.50V
コア/PCI Express 電圧	1.10V~1.28V	該当なし	該当なし	1.30V~1.40V
サウスブリッジ電圧	1.20V~1.28V	該当なし	該当なし	1.30V~1.40V

AMD Auto Xpress [Auto]

AMD では、プラットフォームパフォーマンスを向上させるため、この項目を有効にすることを推奨しています。
設定オプション：[Auto] [Disabled] [Enabled]

Memory Configuration



Bank Interleaving [Auto]
設定オプション：[Disabled] [Auto]

Channel Interleaving [Auto]
設定オプション：[Disabled] [Auto] [Address buts 6] [Address bits 12] [Hash*, XOR of Address bits [20:16, 6]] [Hash*, XOR of Address bits [20:16, 9]]

MemClk Tristate C3/ATLVID [Disabled]
設定オプション：[Disabled] [Enabled]

Memory Hole Remapping [Enabled]
設定オプション：[Disabled] [Enabled]

Unganged Mode Support [Enabled]
設定オプション：[Disabled] [Enabled]

Power Down Enable [Enabled]
DDR パワーダウンモードを設定します。
設定オプション：[Disabled] [Enabled]

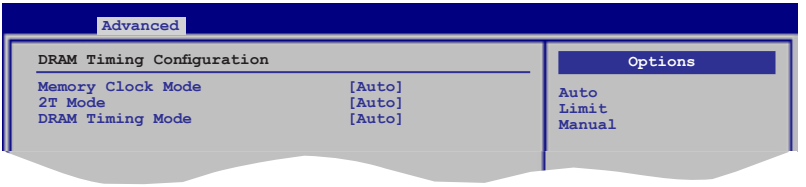
Power Down Mode [Channel]

DDR パワーダウンモードを設定します。この項目は「Power Down Enable」を有効にすると表示されます。
設定オプション：[Channel] [Chip Select]

Read Delay [Auto]
設定オプション：[Auto] [0.5 Memory CLKs] [1.0 Memory CLKs] [1.5 Memory CLKs] [2.0 Memory CLKs] [2.5 Memory CLKs] [3.0 Memory CLKs] [3.5 Memory CLKs] [4.0 Memory CLKs]

DCQ Bypass Maximum [Auto]
設定オプション：[Auto] [0x] [1x] [2x]~[14x] [15x]

DRAM Timing Configuration



Memory Clock Mode [Auto]
設定オプション：[Auto] [Limit] [Manual]

Memclock Value [200 MHz]

「Memory Clock Mode」を [Limit] または [Manual] にすると表示されます。
設定オプション：[200 MHz] [266 MHz] [333 MHz] [400 MHz]

2T Mode [Auto]
設定オプション：[Auto] [Disabled] [Enabled]

DRAM Timing Mode [Auto]
設定オプション：[Auto] [DCT 0]

AI Clock Skew for Channel A [Auto]

設定オプション：[Auto] [Advance 900ps] [Advance 750ps] [Advance 600ps] [Advance 450ps] [Advance 300ps] [Advance 150ps] [Normal] [Delay 150ps] [Delay 300ps] [Delay 450ps] [Delay 600ps] [Delay 750ps] [Delay 900ps]

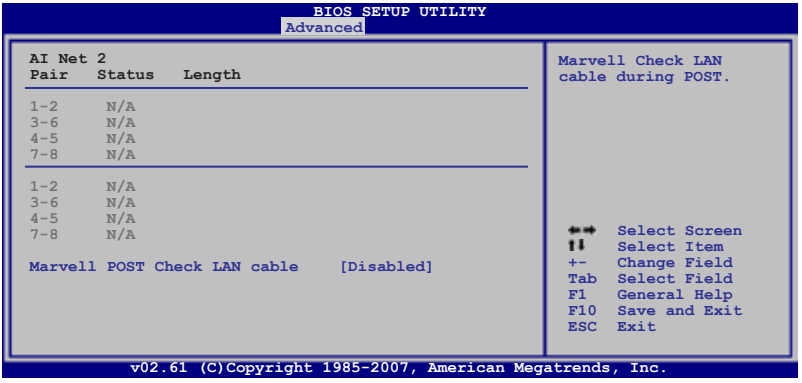
Current Clock Skew [Advance450ps]
チャンネル A の現在のクロックスキューを表示します。

AI Clock Skew for Channel B [Auto]

設定オプション：[Auto] [Advance 900ps] [Advance 750ps] [Advance 600ps] [Advance 450ps] [Advance 300ps] [Advance 150ps] [Normal] [Delay 150ps] [Delay 300ps] [Delay 450ps] [Delay 600ps] [Delay 750ps] [Delay 900ps]

Current Clock Skew [Advance450ps]
チャンネル B の現在のクロックスキューを表示します。

4.4.2 AI Net 2

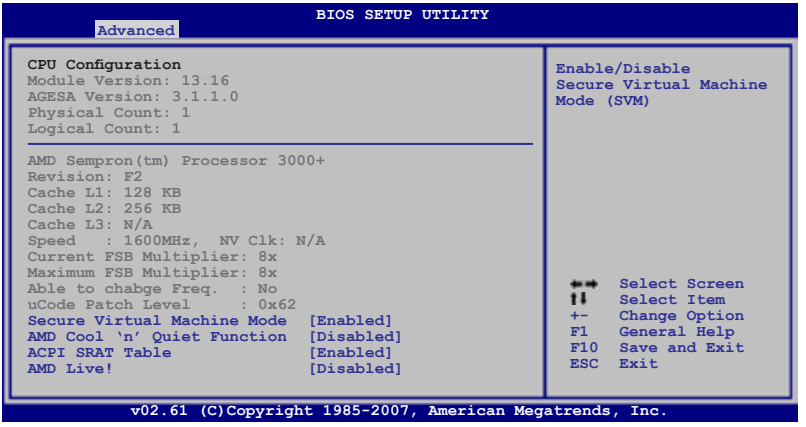


Marvell POST Check LAN Cable [Disabled]

LAN ケーブルを POST 中にチェックするかを設定します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

4.4.3 CPU の設定

BIOS が自動的に検出するCPU 関連の情報です。



Secure Virtual Machine Mode [Enabled]

Secure Virtual Machine モードを設定します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

AMD Cool 'n' Quiet Function [Disabled]

AMD Cool 'n' Quiet テクノロジを設定します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

ACPI SRAT Table [Enabled]

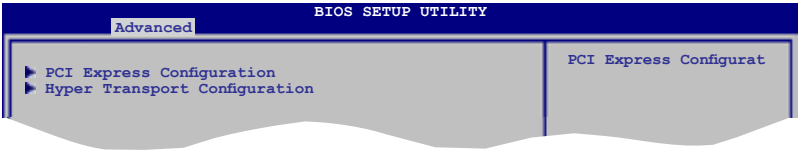
ACPI SRAT テーブルの構築を設定します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

AMD Live! [Disabled]

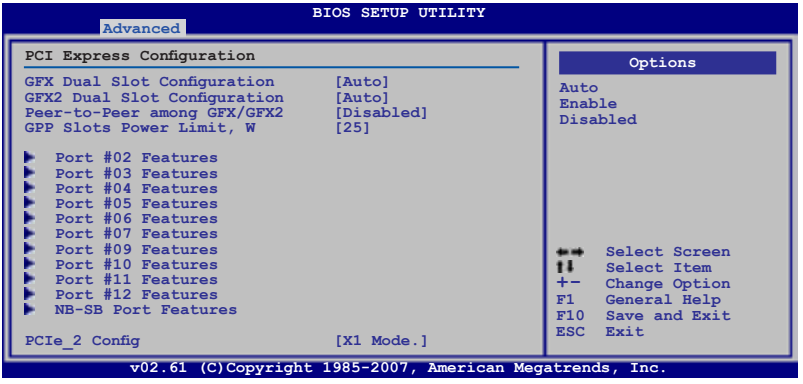
AMD® Live! Technology を設定します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

4.4.4 チップセット

チップセットの設定を変更します。項目を選択し、<Enter> を押すとサブメニューを表示させることができます。



PCI Express Configuration



GFX Dual Slot Configuration [Auto]

設定オプション: [Auto] [Enable] [Disabled]

GFX2 Dual Slot Configuration [Auto]

設定オプション: [Auto] [Enable] [Disabled]

Peer-to-Peer among GFX/GFX2 [Disabled]

設定オプション: [Enable] [Disabled]

GPP Slots Power Limit, W [25]

<+> と <-> キーを使用して、または直接数字を入力して値を調整してください。設定できる値は 0 から 255 の範囲です。

Port #02/03/11/12 Features

Gen2 High Speed Mode [Disabled]

設定オプション: [Disabled] [Software Switch] [Autonomous Switch]

Link ASPM [Disabled]

設定オプション: [Disabled] [L0s] [L1] [L0s & L1]

Link Width [Auto]

設定オプション: [Auto] [x1 Mode] [x2] [x4] [x8 Mode]

Slot Power Limit, W [75]

<+> と <-> キーを使用して、または直接数字を入力して値を調整してください。設定できる値は 0 から 255 の範囲です。

Port #04/05/06/07/09/10 Features

Gen2 High Speed Mode [Disabled]

設定オプション：[Disabled] [Software Switch] [Autonomous Switch]

Link ASPM [Disabled]

設定オプション：[Disabled] [L0s] [L1] [L0s & L1]

NB-SB Port Features

NB-SB link ASPM [Disabled]

設定オプション：[Disabled] [L1]

NP NB-SB VC1 Traffic Support [Disabled]

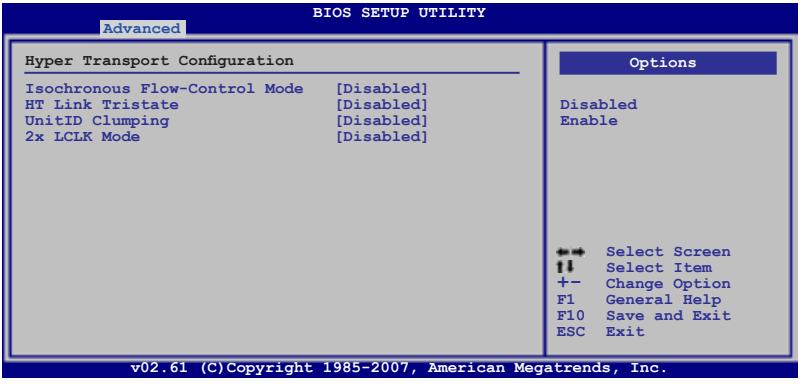
設定オプション：[Enabled] [Disabled]

PCIe_2/PCIe_4 Config [X1 Mode.]

設定オプション：[X1 Mode.] [X8 Mode.]

- この項目はPCIe x4カードをPCIEX16_2/4スロットに取り付けると表示されます。
- この項目を [X8 Mode] に設定すると、PCIEX16_2/4 スロットは PCIEX16_1/3 スロットと帯域幅を共有します。

Hyper Transport Configuration



Isochronous Flow-Control Mode [Disabled]

設定オプション：[Disabled] [Enable]

HT Link Tristate [Disabled]

設定オプション：[Disabled] [CAD/CTL] [CAD/CTL/CLK]

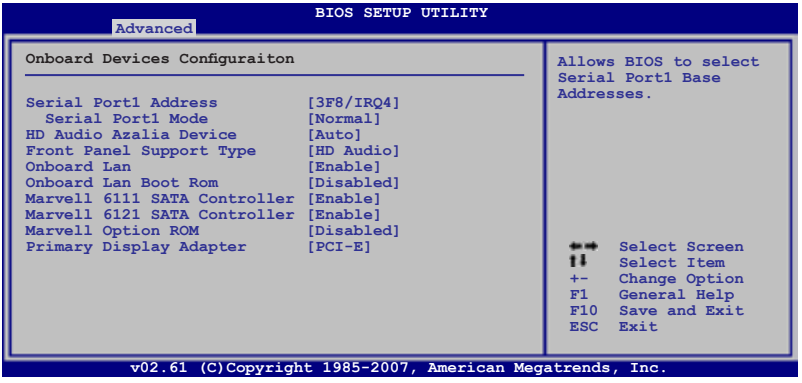
UnitID Clumping [Disabled]

設定オプション：[Disabled] [UnitID 2/3] [UnitID B/C] [UnitID 2/3&B/C]

2x LCLK Mode [Disabled]

設定オプション：[Disabled] [Enable]

4.4.5 オンボードデバイス設定構成



Serial Port1 Address [3F8/IRQ4]

Serial Port1 ベースアドレスを選択します。
設定オプション: [Disabled] [3F8/IRQ4] [2F8/IRQ3] [3E8/IRQ4] [2E8/IRQ3]

Serial Port1 Mode [Normal]
この項目は「**Serial Port1 Address**」を無効にした場合表示されません。
設定オプション: [Normal] [IrDA] [ASK IR]

HD Audio Azalia Device [Auto]

HD オーディオを設定します。下の項目は、この項目を [Auto] に設定した場合のみ表示されます。
設定オプション: [Auto] [Disabled]

Front Panel Support Type [HD Audio]
フロントパネルオーディオモジュールがサポートするオーディオ規格により、フロントパネルオーディオコネクタ (AAFP) モードを AC'97 または HD オーディオに設定することができます。
設定オプション: [AC97] [HD Audio]

Onboard Lan [Enable]

設定オプション: [Enable] [Disabled]

Onboard Lan Boot Rom [Disabled]
この項目は「**Onboard Lan**」を有効にすると表示されます。
設定オプション: [Enable] [Disabled]

Marvell 6111 SATA Controller [Enable]

設定オプション: [Enable] [Disabled]

Marvell 6121 SATA Controller [Enable]

設定オプション: [Enable] [Disabled]

Marvell 6121 Option Rom [Disabled]
この項目は「**Marvell 6121 SATA Controller**」を有効にすると表示されます。
設定オプション：[Enable] [Disabled]

Marvell IDE/RAID function [IDE]

この項目は「**Marvell 6121 Option Rom**」を有効にすると表示されます。

Serial ATA HDD から RAID 0、RAID 1、RAID 0+1 構成を構築する場合、この項目を [RAID] に設定してください。

Serial ATA HDD を Parallel ATA 物理記憶デバイスとして使用する場合、初期設定 [IDE] を使用してください。

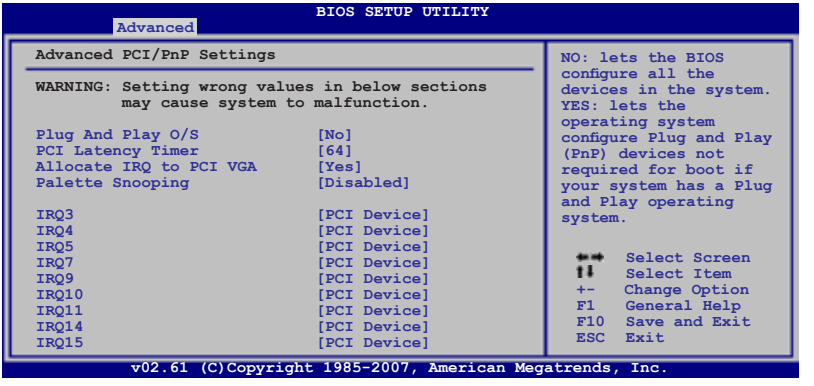
Primary Display Adapter [PCI-E]

プライマリブートデバイスとして使用するグラフィックコントローラを選択します。
設定オプション：[PCI-E] [PCI]

4.4.6 PCI PnP

PCI/PnP デバイスの設定を変更します。

PCI PnP メニューの設定変更は、システムの誤動作の原因となることがあります。十分に注意してください。


BIOS SETUP UTILITY
Advanced
Advanced PCI/PnP Settings
WARNING: Setting wrong values in below sections may cause system to malfunction.
Plug And Play O/S [No]
PCI Latency Timer [64]
Allocate IRQ to PCI VGA [Yes]
Palette Snooping [Disabled]
IRQ3 [PCI Device]
IRQ4 [PCI Device]
IRQ5 [PCI Device]
IRQ7 [PCI Device]
IRQ9 [PCI Device]
IRQ10 [PCI Device]
IRQ11 [PCI Device]
IRQ14 [PCI Device]
IRQ15 [PCI Device]
NO: lets the BIOS configure all the devices in the system. YES: lets the operating system configure Plug and Play (PnP) devices not required for boot if your system has a Plug and Play operating system.
Select Screen
Select Item
+- Change Option
F1 General Help
F10 Save and Exit
ESC Exit
v02.61 (C)Copyright 1985-2007, American Megatrends, Inc.

Plug And Play O/S [No]

[No] にすると、システム内の全てのデバイスはBIOSにより構成されます。[Yes] にし、Plug and Play OSをインストールしている場合は、起動に不要な Plug and Play デバイスは全てOSにより構成されます。
設定オプション：[No] [Yes]

PCI Latency Timer [64]
設定オプション: [32] [64] [96] [128] [160] [192] [224] [248]

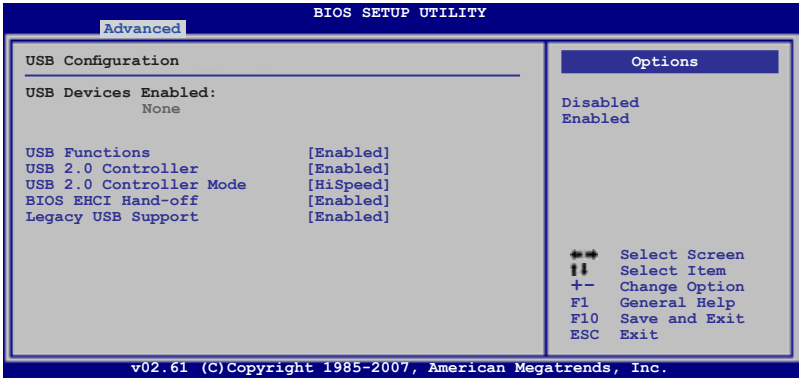
Allocate IRQ to PCI VGA [Yes]
設定オプション: [Yes] [No

Palette Snooping [Disabled]
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

IRQ3/4/5/7/9/10/11/14/15 [PCI Device]
設定オプション: [PCI Device] [Reserved]

4.4.7 USB 設定

USB関連の機能を変更することができます。項目を選択し <Enter> を押して設定オプションを表示させてください。



「**USB Devices Enabled**」の項目には自動検出した値が表示されます。USB デバイスが検出されない場合は「None」と表示されます。

USB Functions [Enabled]
USB の各機能を設定します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

次の項目は「**USB Functions**」を [Enabled] に設定すると表示されます。

USB 2.0 Controller [Enabled]
USB 2.0 コントローラを設定します。
設定オプション: [Enabled] [Disabled]

USB 2.0 Controller Mode [HiSpeed]

USB 2.0 コントローラのモードを設定します。HiSpeed (480 Mbps) または FullSpeed (12 Mbps) から選択します。
設定オプション: [FullSpeed] [HiSpeed]

BIOS EHCI Hand-off [Enabled]

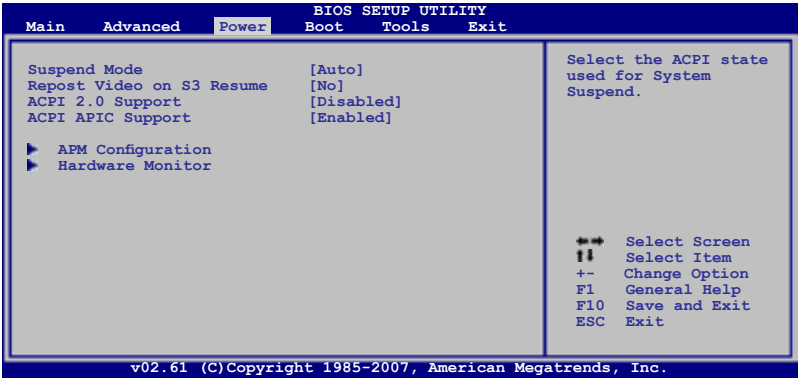
[Enabled]に設定することによって、EHCI ハンドオフ機能のない OS でも問題なく動作させることができます。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Legacy USB Support [Enabled]

レガシーUSB デバイスの設定です。[Auto] に設定すると、起動時に USB デバイスを検出します。USB デバイスが検出されると、USBコントローラのレガシーモードが有効になり、検出されないとレガシー USB のサポートは無効になります。
設定オプション: [Disabled] [Enabled] [Auto]

4.5 電源メニュー

ACPI と APM 機能の設定の変更を行います。項目を選択し、<Enter>を押すと設定オプションが表示されます。



4.5.1 Suspend Mode [Auto]

システムのサスペンドに使用される、ACPI の状態を選択します。
設定オプション: [S1 (POS) Only] [S3 Only] [Auto]

4.5.2 Repost Video on S3 Resume [No]

S3/STR レジュームで VGA BIOS POST を呼び出します。
設定オプション: [No] [Yes]

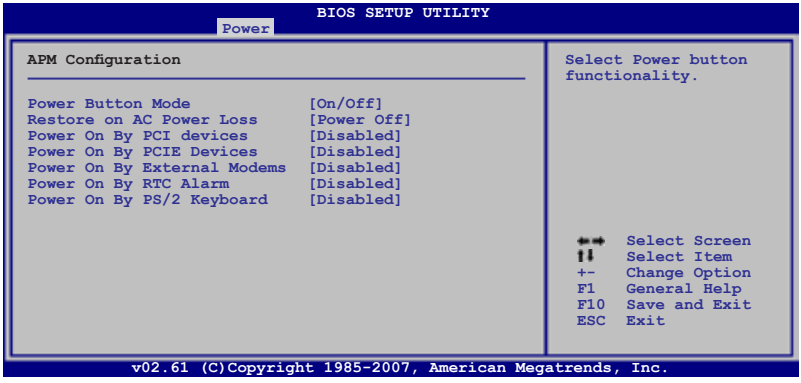
4.5.3 ACPI 2.0 Support [Disabled]

ACPI v2.0 基準に適合させるために、ACPI テーブルのリストを拡張します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

4.5.4 ACPI APIC Support [Enabled]

APIC が、ACPI をサポートするかどうかを設定します。[Enabled] に設定すると、ACPI 設定内のRSDT ポインタリストにAPIC テーブルのポインタが追加されます。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

4.5.5 APM の設定


BIOS SETUP UTILITY
Power
APM Configuration
Power Button Mode [On/Off]
Restore on AC Power Loss [Power Off]
Power On By PCI devices [Disabled]
Power On By PCIE Devices [Disabled]
Power On By External Modems [Disabled]
Power On By RTC Alarm [Disabled]
Power On By PS/2 Keyboard [Disabled]
Select Power button functionality.
Select Screen
Select Item
+- Change Option
F1 General Help
F10 Save and Exit
ESC Exit
v02.61 (C)Copyright 1985-2007, American Megatrends, Inc.

Power Button Mode [On/Off]

電源ボタンの機能を設定します。
設定オプション: [On/Off] [Suspend]

Restore On AC Power Loss [Power Off]

[Power Off]に設定すると、停電などで電力が遮断された場合に再通電時に電源をオフにします。また、[Power On]に設定すると、再通電時に電源をオンにします。[Last State]に設定すると、再通電時に、直前の電源状態に戻ります。
設定オプション: [Power Off] [Power On] [Last State]

Power On By PCI Devices [Disabled]

PCI デバイスを使用して S5状態から PME ウェイクアップ する機能を設定します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Power On By PCIE Devices [Disabled]

PCI Express デバイスを使用してウェイクアップする機能を設定します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Power On By External Modems [Disabled]

コンピュータがソフトオフモードになっているときに、外部モデムが受信した場合に、コンピュータの電源をオンにするかどうかを設定します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

コンピュータがオフになっている間に外部モデムをオフにしてから再びオンにすると、初期ストリングがシステム電源をオンにします。

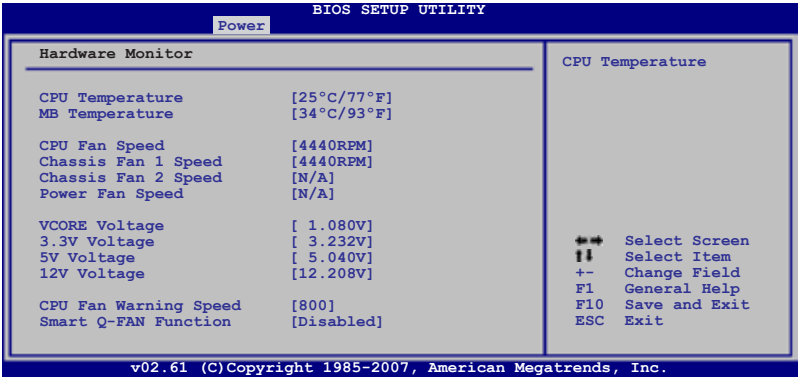
Power On By RTC Alarm [Disabled]

ウェイクアップイベントを形成する RTC の設定をします。この項目を [Enabled] に設定すると、アラームの日時が設定可能になります。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Power On By PS/2 Keyboard [Disabled]

キーボードの特定のキーを使用してシステムの電源をオンにします。この機能は、+5V SB リード線で最低1A を供給する ATX 電源を必要とします。
設定オプション: [Disabled] [Space Bar] [Power Key] [Ctrl-Esc]

4.5.6 ハードウェアモニタ



CPU Temperature [xxxºC/xxxºF]
MB Temperature [xxxºC/xxxºF]

オンボードハードウェアモニタは マザーボード、CPUの温度を自動的に検出して表示します。[Ignored] にすると表示されなくなります。

CPU Fan/ Chassis Fan 1、2/Power Fan Speed [xxxxRPM] または [Ignored] / [N/A]

ファンスピードを自動的に検出して回転数/分 (RPM) の単位で表示します。マザーボードにファンが取り付けられていない場合、このフィールドには[N/A] と表示されます。

Vcore Voltage、3.3V Voltage、5V Voltage、12V Voltage

オンボード電圧レギュレータを通じ、自動的に電圧出力を検出して表示 します。
表示しない場合は [Ignored] を選択します。

CPU Fan Warning Speed [800]

CPU ファンの警告スピードを設定します。
設定オプション: [Disabled] [800] [1200] [1600]

Smart Q-FAN Function [Disabled]

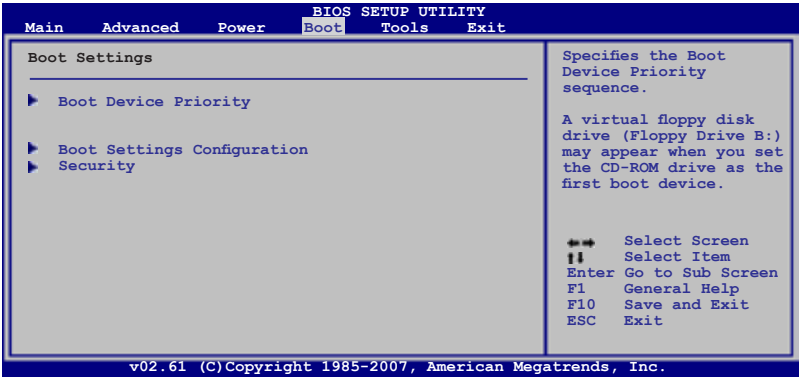
Smart Q-Fan 機能を設定します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

次の「**Q-Fan Profile**」の項目は「**Smart Q-FAN Function**」を [Enabled]に設定すると表示されます。

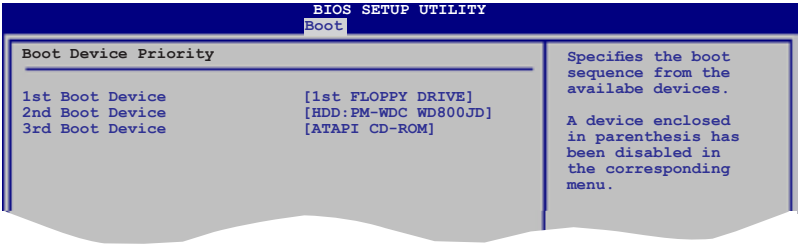
Q-Fan Profile [Optimal]
CPU Q-Fan のパフォーマンスを設定します。[Optimal] に設定すると、CPU ファンを CPU 温度に合わせて自動的に調節します。[Silent Mode] に設定すると、ファン速度を最低限に抑え、静音環境を実現します。[Performance Mode] に設定すると、CPU ファン速度は最大になります。
設定オプション：[Optimal] [Silent Mode] [Performance Mode]

4.6 ブートメニュー

システムをブートする際のオプションを変更します。<Enter> を押してサブメニューを表示します。

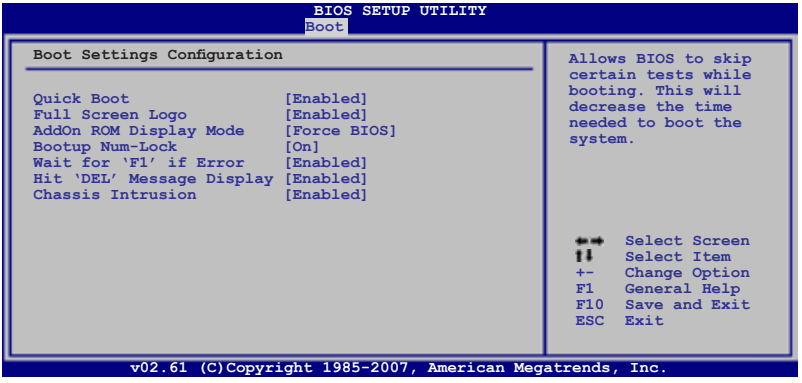

BIOS SETUP UTILITY
Main Advanced Power Boot Tools Exit
Boot Settings
Boot Device Priority
Boot Settings Configuration
Security
Specifies the Boot Device Priority sequence.
A virtual floppy disk drive (Floppy Drive B:) may appear when you set the CD-ROM drive as the first boot device.
Select Screen
Select Item
Enter Go to Sub Screen
F1 General Help
F10 Save and Exit
ESC Exit
v02.61 (C)Copyright 1985-2007, American Megatrends, Inc.

4.6.1 ブートデバイスの優先順位


BIOS SETUP UTILITY
Boot
Boot Device Priority
1st Boot Device [1st FLOPPY DRIVE]
2nd Boot Device [HDD:PM-WDC WD800JD]
3rd Boot Device [ATAPI CD-ROM]
Specifies the boot sequence from the availabe devices.
A device enclosed in parenthesis has been disabled in the corresponding menu.

1st ~ xxth Boot Device [xxx Drive]
ブートさせるデバイスの優先順位を指定します。画面に表示されるデバイスの数は、ブート可能なデバイスの数です。
設定オプション：[xxx Drive] [Disabled]

4.6.2 起動設定


BIOS SETUP UTILITY
Boot
Boot Settings Configuration
Quick Boot [Enabled]
Full Screen Logo [Enabled]
AddOn ROM Display Mode [Force BIOS]
Bootup Num-Lock [On]
Wait for 'F1' if Error [Enabled]
Hit 'DEL' Message Display [Enabled]
Chassis Intrusion [Enabled]
Allows BIOS to skip certain tests while booting. This will decrease the time needed to boot the system.
Select Screen
Select Item
+- Change Option
F1 General Help
F10 Save and Exit
ESC Exit
v02.61 (C)Copyright 1985-2007, American Megatrends, Inc.

Quick Boot [Enabled]

起動中にいくつかの自己診断テスト(POST)をスキップして、システムの起動をスピードアップさせます。[Disabled] に設定しているときは、BIOS はすべての POST 項目を実行します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Full Screen Logo [Enabled]

フルスクリーンロゴの表示/非表示を切り替えます。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

ASUS MyLogo2™ 機能をご利用になる場合は「Full Screen LOGO」の項目を [Enabled] に設定してください。

AddOn ROM Display Mode [Force BIOS]

オプション ROM に対するディスプレイのモードを設定します。
設定オプション: [Force BIOS] [Keep Current]

Bootup Num-Lock [On]

電源をオンにしたときの、NumLock の状態を選択します。
設定オプション: [Off] [On]

Wait for 'F1' If Error [Enabled]

[Enabled] に設定するとシステムはエラー発生時に<F1> キーを押すまで待機します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Hit 'DEL' Message Display [Enabled]

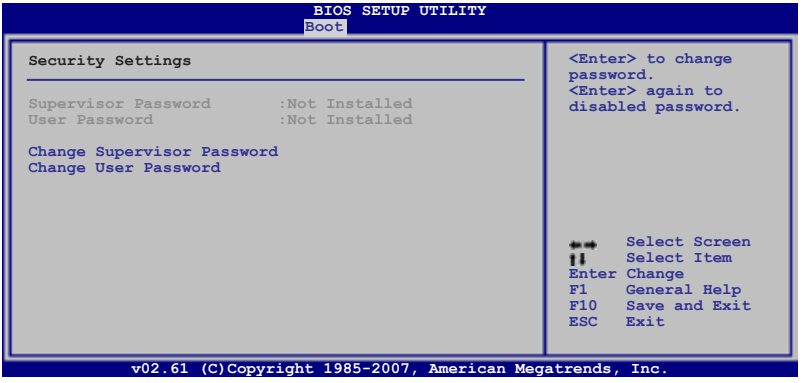
[Enabled] に設定すると、POST 中に「Press DEL to run Setup (Delete キーでBIOSメニューを表示)」というメッセージが表示されます。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Chassis Intrusion [Enabled]

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

4.6.3 セキュリティ

システムセキュリティ設定を変更します。項目を選択し、<Enter> を押すと設定オプションが表示されます。



Change Supervisor Password

管理者パスワードの設定または変更を行います。画面上部に表示されている「Supervisor Password」は、初期設定値は「Not Installed」になっています。パスワードを設定すると、「Installed」に変更されます。

管理者パスワードの設定手順

1. 「Change Supervisor Password」を選択し、<Enter>を押します。
2. 「password box」で、6 文字以上の英数字からなるパスワードを入力し、<Enter>を押します。
3. パスワードの確認を要求されたら、もう一度パスワードを入力します。

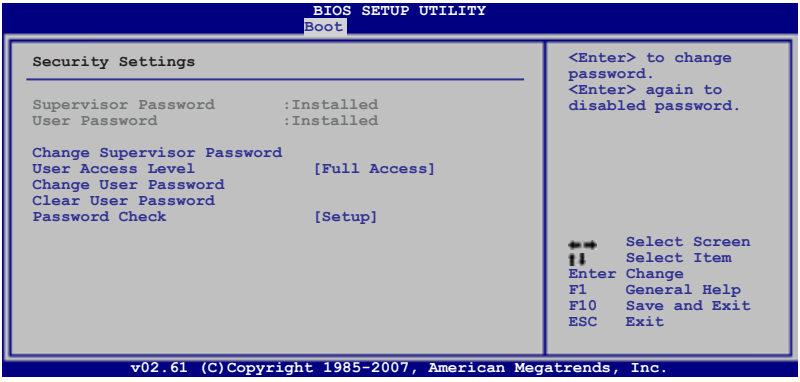
パスワードの設定が完了すると、「Password Installed」というメッセージが表示されます。

管理者パスワードを変更する場合は、設定と同じ手順に従います。

管理者パスワードの消去は、「Change Supervisor Password」を選択し、<Enter> を押します。消去すると「Password Uninstalled」というメッセージが表示されます。

管理者パスワードを忘れた場合、CMOS リアルタイムクロック(RTC) RAM を消去してパスワードをクリアすることができます。RTC RAM を消去する方法については、ページ 2-24「2.6 ジャンパ」をご参照ください。

管理者パスワードを設定すると、他のセキュリティ設定を変更するための項目が表示されます。



User Access Level [Full Access]

BIOSメニューへのアクセス制限の選択。
設定オプション: [No Access] [View Only] [Limited] [Full Access]

[No Access]、BIOSメニューへのユーザーのアクセスを拒否します。

[View Only]、アクセスは許可しますが設定の変更はできません。

[Limited]、日時など、限られた設定のみを変更することができます。

[Full Access]、すべての項目を表示、変更することができます。

Change User Password

ユーザーパスワードの設定または変更をします。画面上部に表示されている「User Password」は初期設定値では「Not Installed」になっています。パスワードを設定すると、「Installed」に変更されます。

ユーザーパスワードの設定手順

1. 「Change User Password」を選択し、<Enter>を押します。
2. 「password box」で、6 文字以上の英数字からなるパスワードを入力し、<Enter>を押します。
3. パスワードの確認を要求されたら、もう一度パスワードを入力します。

パスワードの設定が完了すると、「Password Installed」というメッセージが表示されます。

ユーザーパスワードを変更する場合は、設定と同じ手順で行います。

Clear User Password

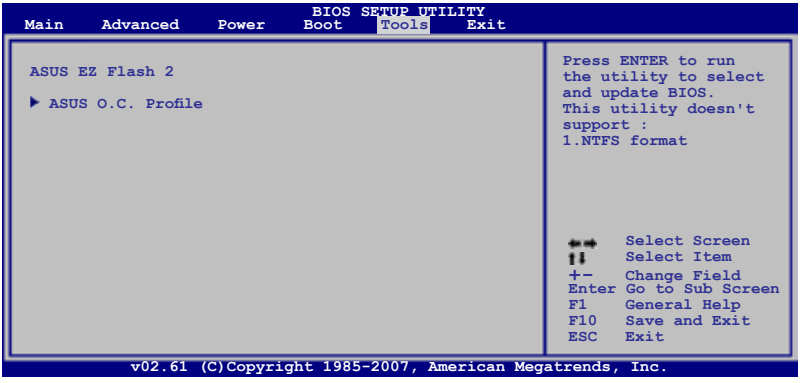
ユーザーパスワードをクリアします。

Password Check [Setup]

この項目を[Setup] に設定すると、BIOS はBIOSメニューへのアクセス時に、ユーザーパスワードの入力を要求します。[Always] に設定すると、BIOS はBIOSメニューへのアクセス時と、システムの起動時に、ユーザーパスワードの入力を要求します。
設定オプション： [Setup] [Always]

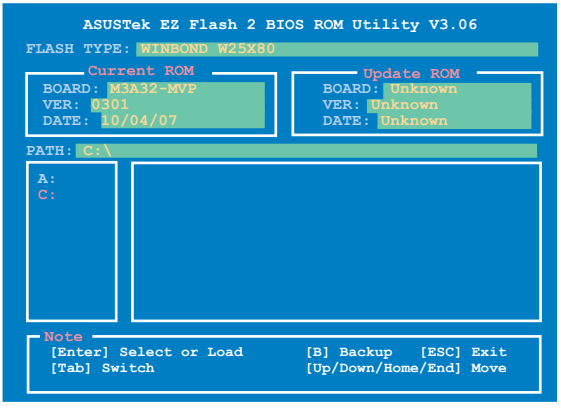
4.7 ツールメニュー

独自機能のオプション設定をします。項目を選択し <Enter> を押してサブメニューを表示させます。



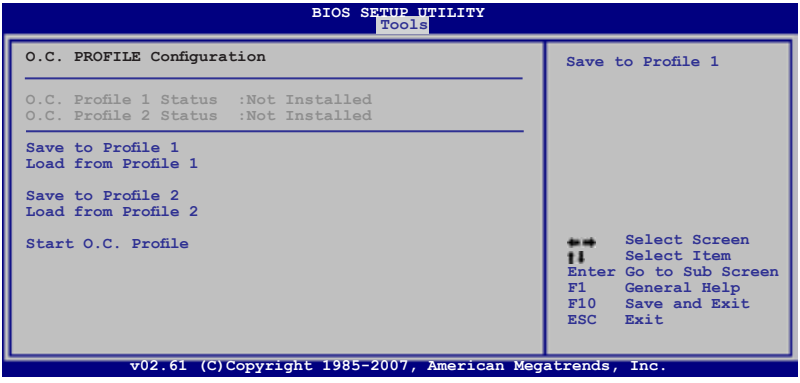
4.7.1 ASUS EZ Flash 2

ASUS EZ Flash 2 を起動します。<Enter>を押すと、確認メッセージが表示されます。左右矢印キーを使って [OK] または [Cancel] を選択し <Enter> を押して選択を決定します。詳細はページ 4-5 のセクション 4.1.3 をご参照ください。



4.7.2 ASUS O.C. Profile

複数の BIOS 設定を保存/ロードすることができます。



Save to Profile 1/2

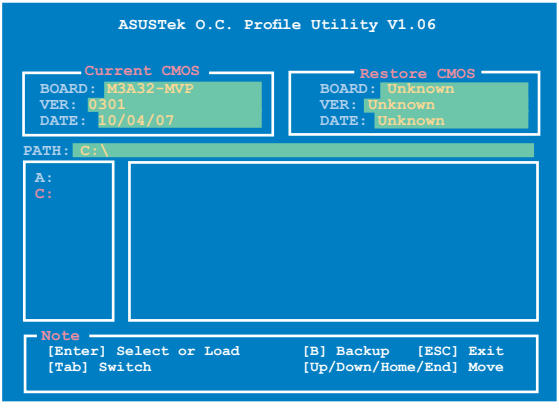
BIOS ファイルを BIOS Flash に保存します。<Enter> を押してファイルを保存します。

Load from Profile 1/2

BIOS Flash に保存したBIOS 設定をロードすることができます。<Enter> を押してファイルをロードしてください。

Start O.C. Profile

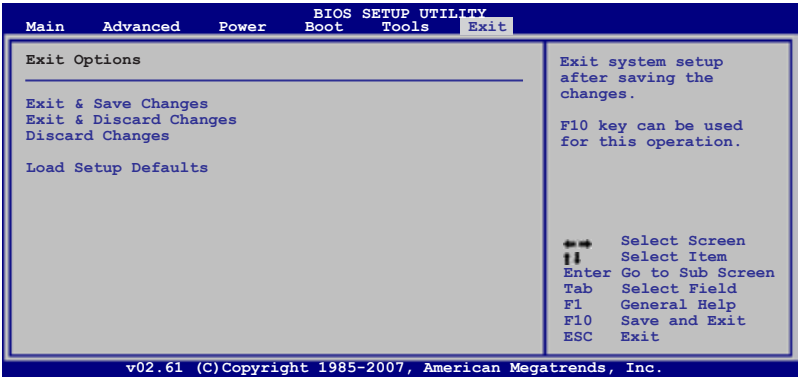
ユーティリティを起動して CMOS を保存、ロードします。<Enter> を押してユーティリティを起動します。



- USBフラッシュメモリやフロッピーディスクなどのデバイスを FAT 32/16 フォーマットでのみサポートします。
- BIOS の更新中はシステムのシャットダウンやリセットを行わないでください。システム起動エラーの原因となります。

4.8 終了メニュー

BIOS 設定の保存や取り消しのほか、初期設定値の読み込みを行います。



<Esc> を押してもこのメニューは終了しません。終了メニューからいずれかの項目を選択するか、<F10> を押して終了します。

Exit & Save Changes

BIOSの設定が終了したら、「Exit menu」からこのオプションを選択し、設定をCMOS RAM に保存して終了します。オンボード用のバックアップで搭載されているバッテリは、コンピュータの電源がオフになっているときでもBIOSの設定内容を保存します。この項目を選択すると、確認ウィンドウが表示されます。「YES」を選択すると、変更を保存して終了します。

設定を保存せずに<ESC>でBIOSメニューを終了しようとすると、終了する前に変更を保存しますかと尋ねるメッセージが表示されます。その場合は<Enter> 押して変更を保存します。

Exit & Discard Changes

BIOSメニューで行った設定を保存したくないときに、この項目を選択します。ただし、システムの日付、システム時間、パスワード以外の設定を変更した場合は、終了する前に確認のメッセージが表示されます。

Discard Changes

BIOSメニューで設定した変更を破棄し、以前保存したときの値を復旧します。このオプションを選択した後には、確認のメッセージが表示されます。確認のメッセージの表示で「YES」を選択すると変更を取り消し、以前保存したときの値がロードされます。

Load Setup Defaults

セットアップメニューのそれぞれの値に、初期設定値をロードします。このオプションを選択するか、<F5> を押すと確認画面が表示されます。「YES」を選択して初期設定値をロードします。Exit & Save Changes を選択するか、他の変更を行ってから設定を保存します。

サポート DVD のコンテンツ

5 ソフトウェア

Chapter 5

5.1 OS をインストールする 5-1
5.2 サポート DVD 情報 5-1
5.3 ソフトウェア情報 5-9
5.4 RAID 5-36
5.5 RAID ドライバディスクを作成する 5-49

5.1 OS をインストールする

このマザーボードは Windows® XP/64-bit XP/Vista/64-bit Vista OSをサポートしています。ハードウェアの機能を最大限に活用するために、OS を定期的にアップデートしてください。

- ここで説明するセットアップ手順は一例です。詳細については、OSのマニュアルをご参照ください。
- 互換性とシステムの安定性のために、ドライバをインストールする前に、Windows® 2000 は Service Pack 4 、Windows® XPは Service Pack 2 以降のサービスパック適用済みのOS であることをご確認ください。

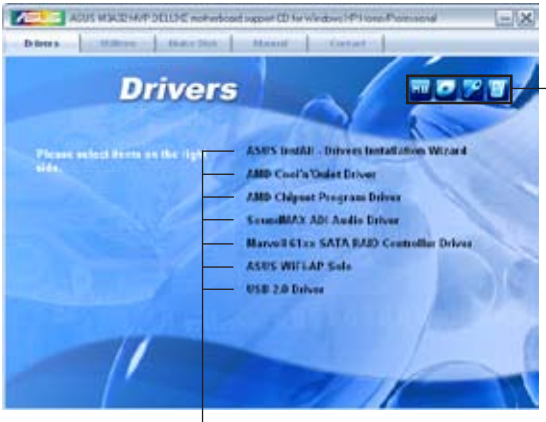
5.2 サポート DVD 情報

マザーボードに付属のサポート DVD には、マザーボードを利用するために必要なドライバ、アプリケーション、ユーティリティが収録されています。

サポート DVD の内容は、予告なしに変更する場合があります。最新のものは、ASUS Webサイト (www.asus.co.jp)でご確認ください。

5.2.1 サポート DVD を実行する

サポート DVD を光学ドライブに入れます。OSの Autorun 機能が有効になっていれば、ドライバメニューが自動的に表示されます。



サポート DVDとマザーボードの情報を表示できます。

インストールする項目を選択

Autorun が有効になっていない場合は、サポート DVD の BINフォルダから ASSETUP.EXE を探してください。ASSETUP.EXE をダブルクリックすれば、ドライバメニューが表示されます。

5.2.2 ドライバメニュー

Drivers メニューには、インストールが可能なドライバが表示されます。必要なドライバを上から順番にインストールしてご利用ください。

Drivers
Please select items on the right side.
ASUS InstAll - Drivers Installation Wizard
AMD Cool'n'Quiet Driver
AMD Chipset Program Driver
SoundMAX ADI Audio Driver
Marvell 61xx SATA RAID Controller Driver
ASUS WiFi-AP Solo
USB 2.0 Driver

ASUS InstAll - Drivers Installation Wizard

ASUS InstAll でドライバをインストールします。

AMD Cool 'n' Quiet Driver

AMD Cool 'n' Quiet™ テクノロジドライバをインストールします。

AMD Chipset Program Driver

AMD 790FX チップセット用 AMD® チップセットドライバをインストールします。

SoundMAX ADI Audio Driver

SoundMAX® ADI オーディオドライバ・アプリケーションをインストールします。

Marvell 61xx SATA RAID Controller Driver

Marvell® Serial ATA RAID コントローラドライバをインストールします。

ASUS WiFi-AP Solo *(WiFi-AP Edition のみ)*

ASUS WiFi-AP Solo ドライバをインストールします。

USB 2.0 Driver

USB 2.0 ドライバをインストールします。

5.2.3 ユーティリティメニュー

マザーボードで使用できるアプリケーションやユーティリティをインストールします。

ASUS InstAll - Installation Wizard for Utilities

ASUS InstAll でユーティリティをインストールします。

AMD OverDrive Utility (AOD)

AMD® OverDrive™ ユーティリティをインストールします。

ASUS Cool 'n' Quiet Utility

ASUS Cool 'n' Quiet™ ソフトウェアをインストールします。

ASUS Update

ASUS Web サイトから最新バージョンの BIOSをダウンロードするツールです。このユーティリティを使用するにはインターネット接続が必要です。

ASUS Update を使用する際は ASUS Web サイトに接続しますので、インターネット接続のセットアップが必要です。

ASUS PC Probe II

ファン速度、CPU 温度、システム電圧をモニタし、何か問題がある場合に警告します。このユーティリティを使えば、コンピュータをいつでも正常な状態に維持できます。

ASUS AI Suite

ASUS AI Suite をインストールします。

Marvell Yukon VCT Application

Marvell® Yukon Virtual Cable Tester™ (VCT) アプリケーションをインストールします。

Adobe Reader V7.0

PDF（Portable Document Format）ファイルの閲覧、プリントができる Adobe® Acrobat® Reader V7.0 をインストールします。

Microsoft DirectX 9.0c

Microsoft® DirectX 9.0c ドライバをインストールします。Microsoft DirectX® 9.0c は、コンピュータのグラフィックスとサウンドを拡張するマルチメディアテクノロジです。DirectX®はコンピュータのマルチメディア機能を向上させるので、TVや映画、ビデオキャプチャ、ゲームをよりお楽しみいただけます。アップデートはMicrosoft Webサイト(www.microsoft.co.jp)で。

Anti-Virus Utility

コンピュータウイルスからパソコンを守ります。詳細はオンラインヘルプをご参照ください。

Anti-Virus Utility Download

お使いのアンチウイルスユーティリティのバージョンを更新する際に使用します。

InterVideo MediaOne Gallery

InterVideo MediaOne Gallery ユーティリティをインストールします。

DVD Copy5 Trial

WinDVD Copy5 Trial ユーティリティをインストールします。

Ulead PhotoImpact 12 SE
Ulead PhotoImpact 12 SE ユーティリティをインストールします。

CyberLink PowerBackup
CyberLink PowerBackup ユーティリティをインストールします。

Corel Snapfire Plus SE
Corel Snapfire Plus SE ユーティリティをインストールします。

5.2.4 Make disk メニュー

NVIDIA® nForce™ 590-SLI または Silicon Image SATA/RAID ドライバディスクを作成します。

Make ATI RAID/AHCI x86_x64_WinXP Driver
Windows® XP OS 用の ATI RAID/AHCI ドライバディスクを作成します。

Make ATI RAID/AHCI Vista Driver
Windows® Vista™ 用の ATI RAID/AHCI ドライバディスクを作成します。

Marvell 61xx 32/64bit SATA RAID Driver
32/64bit システム用の Marvell 6121 SATA RAID ドライバディスクを作成します。

5.2.5 マニュアルメニュー

サードパーティ製のコンポーネント、または各アプリケーションのユーザーマニュアルを見ることができます。

ほとんどのマニュアルファイルは PDF になっています。PDFファイルを見るには、UtilitiesタブのAdobe® Acrobat® Reader V7.0をインストールしてください。

5.2.6 コンタクトインフォメーション

ASUS コンタクトインフォメーション。また、このマニュアルの表紙裏にも記載してあります。

5.2.7 その他の情報

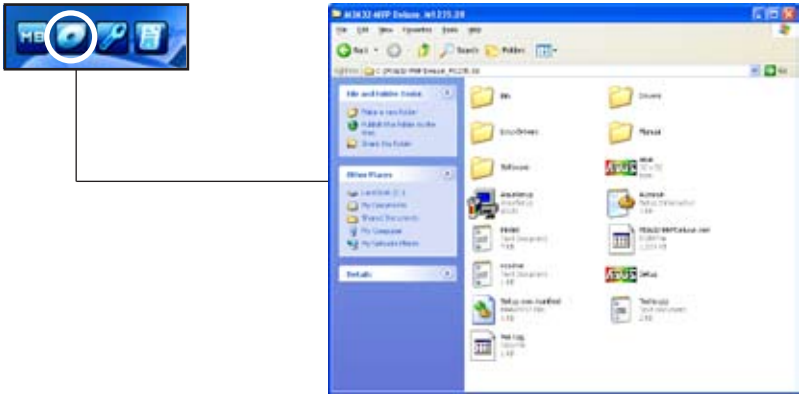
画面右上のアイコン。マザーボード、サポート DVD の内容に関する追加情報です。

マザーボード情報

マザーボードの全般仕様を表示。

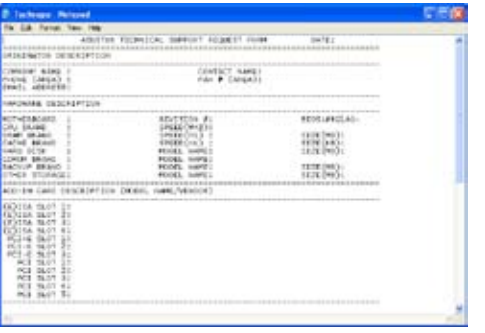
DVD をブラウズする

サポート DVD のコンテンツを表示。(グラフィカル形式)



テクニカルサポートフォーム

Technical Support Request Form を表示。テクニカルサポートをご依頼の際に記入してください。



ファイルリスト

サポート DVD のコンテンツを表示します。(テキスト形式)

5.3 ソフトウェア情報

サポート DVD のほとんどのアプリケーションはウィザードを使って簡単にインストールすることができます。詳細はオンラインヘルプまたはアプリケーションのReadme ファイルをご参照ください。

5.3.1 ASUS MyLogo2™

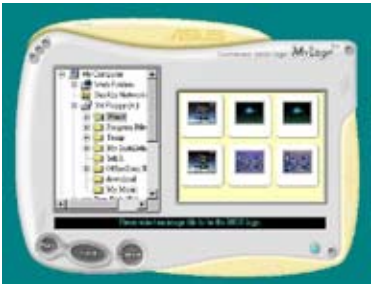
ASUS MyLogo2™ で起動ロゴを設定することができます。起動ロゴとは起動時の自己診断テスト (POST) の間に、表示される画像のことです。サポート DVD からASUS Update ユーティリティをインストールすると自動的に ASUS MyLogo2™ もインストールされます。（詳細 5.2.3「**ユーティリティメニュー**」参照）

- ASUS MyLogo2™をご利用になる前に、**AFUDOS ユーティリティを使ってオリジナルBIOSファイルのコピーを作成するか、ASUS Webサイトから最新バージョンのBIOSを入手してください。**（詳細 4.1.4「**AFUDOS**」参照）
- ASUS MyLogo2 **をご利用になる場合は、BIOS の「Full Screen Logo」の項目を [Enabled] にしてください。(詳細 4.6.2「起動設定」参照）**
- **オリジナルのブートロゴは GIF、BMP フォーマットで作成することができます。**
- ファイルサイズは150 K 未満です。

ASUS MyLogo2™ を起動する

1. ASUS Update ユーティリティを起動します。（詳細 4.1.1 「**ASUS Update** 」）
2. ドロップダウンメニューから「**Options**」を選択し、「**Next**」をクリックします。
3. BIOSを更新する前に起動ロゴを置き換えるために、「**Launch MyLogo**」をチェックして「**Next**」をクリックします。
4. ドロップダウンメニューから「**Update BIOS**」を選択し、「**Next**」をクリックします。
5. 指示に従って新しいBIOS ファイルを検索し「**Next**」をクリックすると、ASUS MyLogo 2 のウィンドウが表示されます。
6. 左ウィンドウ枠から、起動ロゴとして使用する、画像を含むフォルダを選択します。

7. ロゴ画像が右ウィンドウ枠に表示されたら、画像を選択してクリックし、拡大します。



8. Ratio box の値を選択し、画像のサイズを調整します。

9. 画面がASUS Update ユーティリティに戻ったら、オリジナルのBIOSをフラッシュして新しい起動ロゴをロードします。
10. BIOSを更新した後、コンピュータを再起動すると、POST中に新しい起動ロゴが表示されます。

5.3.2 Cool 'n' Quiet!™ Technology

本製品は、CPU 速度、電圧、電力をCPU のパフォーマンスに合わせて調節する AMD Cool 'n' Quiet!™ Technology を搭載しています。

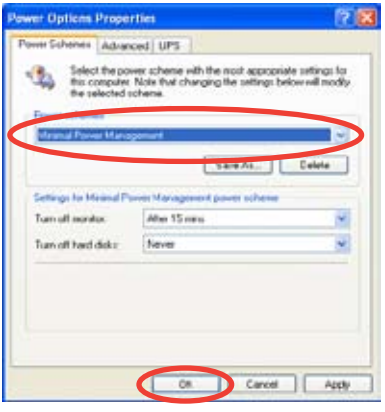
Cool 'n' Quiet!™ Technology を使う

手順

1. システムを起動し POST中に<Del>を押して BIOS に入ります。
2. 「Advanced」→「CPU Configuration」→「AMD Cool 'n'Quiet function」の順に進み、「AMD Cool 'n'Quiet function」を[Enabled]に設定します。（詳細「**4.4 拡張メニュー**」参照）
3. 変更を保存しBIOSから退出します。
4. コンピュータを再起動し、電源オプションの設定を行ってください。

Windows® 2000/XP

1. Windows® 2000/XP の場合は、「スタートボタン」→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
2. コントロールパネルはクラシック表示です。
3. 「画面」アイコンをダブルクリックし、「スクリーン セーバ」タブを選択します。
4. 「電源ボタン」をクリックすると、次のダイアログボックスが表示されます。
5. 「電源設定」のリストボックスから「最小の電源管理」を選択します。
6. 「OK」をクリックして設定を完了させてください。



- この機能をご使用になる前に、AMD Cool 'n' Quiet!™ ドライバとアプリケーションをインストールしてください。
- AMD Cool 'n' Quiet!™ 機能を利用するには、モニターチップ搭載の AMD ヒートシンクとファンが必要です。
- ヒートシンクとファンを別々に購入した場合は、ASUS Q-Fan 機能をご利用ください。システムの負荷に応じ、CPU ファンスピードを自動的に調節することができます。

Cool 'n' Quiet!™ ソフトウェアを起動する

リアルタイムで CPU 周波数や電圧を確認することができる Cool 'n' Quiet!™ は、サポート DVD からご利用になれます。

サポート DVD から、Cool 'n' Quiet!™ をインストールしてください。
（詳細 5.2.3 「**ユーティリティメニュー**」参照）

Cool 'n' Quiet!™ を起動する

1. Windows® 2000をご利用の場合は「スタートボタン」→「すべてのプログラム」→「ASUS」→「Cool &Quiet」→「 Cool & Quiet」の順にクリックしてください。
2. Windows® XP をご利用の場合は「スタートボタン」→「すべてのプログラム」→「ASUS」→「Cool &Quiet」→「 Cool & Quiet」の順にクリックしてください。
3. Cool 'n' Quiet!™ 画面に現在のCPU 周波数と CPU 電圧が表示されます。

5.3.3 AI Audio 2 (SoundMAX® HD オーディオユーティリティ)

ADI AD1988 High Definition Audio CODEC は、AudioESP™ ソフトウェア採用の SoundMAX® オーディオを通して 8 チャンネルオーディオを提供し、PCで最高のオーディオをお楽しみいただけます。このソフトウェアは、高品質なオーディオ合成/レンダリング、3D サウンドポジショニング、拡張音声入力技術を採用しています。

インストールウィザードに従って、サポートDVDから ADI AD1988 Audio Driver をインストールし、SoundMAX® をご利用ください。

セットアップには4チャンネル、または 6チャンネル、8チャンネルスピーカーが必要です。

SoundMAX® をインストールするとタスクバーに SoundMAX®/ SoundMAX® BlackHawk アイコンが表示されます。

A. SoundMAX BlackHawk (AI Audio 2)

Windows® Vista OS をご使用の場合は、タスクバーから SoundMAX® BlackHawk アイコンをダブルクリックします。ダブルクリックすると SoundMAX® コントロールパネルが表示されます。

Enabling AI Audio 2

電源ボタン をクリックし、デジタル信号処理を有効にします。
AI Audio 2 は、Sonic Focus 社の新型 SoundMAX® BlackHawk で、マルチメディアの幅がより広がります。

Fidelity Compensation

電源ボタンをクリックするとユーティリティが起動します。圧縮されたオーディオストリームを圧縮前のオリジナルに近い状態に再現する際、圧縮処理の過程で失われた本来のサウンドをオーディオ出力としてリアルに再現します。

Sound Field Expansion

AI Audio 2 はリアルなフロント/リアサウンド環境により、ステレオサウンドの領域をマルチメディアチャンネルの領域まで拡張します。

Surround Virtualization

ステレオスピーカーまたはヘッドフォンでの使用を想定しクリアなボーカル機能を追加しました。これによりサラウンドサウンドの仮想化を図ります。

SoundMAX BlackHawk (AI Audio2) は Windows® Vista™ OS でのみ利用可能です。

Playback Settings

再生の際の各種設定を行うには、コントロールパネル上の **Playback** ボタンをクリックします。**Speakers** や **SPDIF Interface** の音量調節やオーディオのミュートが可能です。

Preset settings

ドロップダウンメニューを展開し、DSP（Digital Signal Processing）設定を選択します。スライダーを移動すれば、**Voice Clarity**、**Dynamics**、**Brilliance**、**Deep Bass** の各値を変更することができます。設定を保存するには、**Save** をクリックします。設定を保存しない場合は **Reset** をクリックします。

Surround settings

ステレオスピーカーの設定を変更することができます。スライダーを移動して、視聴位置や、センターチャンネルボリュームを変更することができます。**Test Speakers** ボタンを押すと、スピーカーテストを実行することができます。

Port settings

このタブをクリックすると、スピーカー用にはリアパネルポート構成が、SPDIF インターフェース用にはリアパネルデジタルポート構成が表示されます。

Recording Settings

録音設定を変更するには、コントロールパネル上の **Recording** ボタンをクリックします。スライダーを左右に移動させることで、**Microphone** や **Line In** のスピーカーの遅延を調節することができます。

Record testing

このタブをクリックすると、テスト録音が実行され、サンプルをスピーカーまたは SPDIF インターフェースで再生することができます。

Port settings

このタブをクリックすると、マイクまたはライン入力用のリアパネルポートが表示されます。

ANDREA settings

No Filtering、Speakerphone、Voice Recording、Directional Beam 等のエンハンストマイク入力機能を選択することができます。

More Settings

詳細設定をするには、 をクリックします。

Equalizer

DSP プリセット周波数を全てカスタマイズ設定することができます。

Speakers

Speaker Trim と **Speaker Delay** を調節します。

Bass

Bass management を調節します。

Preferences

ユーティリティのオプション、バージョン情報、AudioESP 等を表示します。

B. SoundMAX

Windows® XP OS をご使用の場合は、タスクバーから SoundMAX® アイコンをダブルクリックします。ダブルクリックすると SoundMAX® コントロールパネルが表示されます。

Audio Setup Wizard

SoundMAX® コントロールパネルの アイコンをクリックすると、簡単にオーディオ設定が行えます。画面の指示に従ってHDオーディオをお楽しみください。

Jack configuration
コンピュータのオーディオポートを設定します。画面は設定したオーディオデバイスによって異なります。

Adjust speaker volume
スピーカーの音量調整をします。Test ボタンをクリックし、実際に音を聞いて確認します。

Adjust microphone volume
マイクのボリュームを調節します。文を読むように指示が出ます。声に合わせてAudioWizard がボリュームを調節します。

Audio preferences

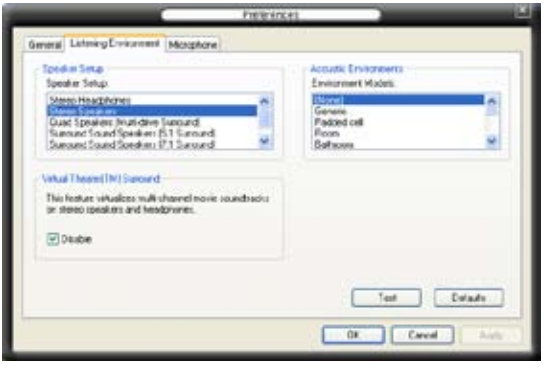
アイコンをクリックすると Preferences 画面へ移動します。この画面では様々なオーディオ設定の変更が可能です。

General options

タブをクリックして、プレイバック/レコーディングデバイスを選択し、AudioESP™ 機能、デジタル出力の設定を切り替えます。

Listening Environment options

Listening Environment タブをクリックし、スピーカーや音響の設定、Virtual Theater Surround 機能の切り替えが可能です。



Microphone options

Microphone タブをクリックし、マイク入力設定を最適化します。

Enhanced Microphone Features

Noise Filtering

Noise Filter 機能を有効にします。コンピュータのファンやエアコン等の個々の定常ノイズ (肉声ではない信号) を検出し、録音中はそれらの音をカットします。

Directional Array

マイクを向けた方向からの音のみを入力します。オンラインゲームやMSN、Skype 等、マイクを使用する際にご利用ください。

Speaker Phone

音声のエコーを減らす能力に優れており、スピーチエンジン上での影響を最小限にします。電話会議等にご利用ください。

- Directional Array と Speaker Phone 機能は ASUS Array Mic と併用した場合のみ機能します。
- Windows Vista をご利用の場合は手動で Directional Array と Speaker Phone 機能を有効にする必要があります。「**コントロールパネル**」→「**Sound**」→「**Recording**」タブを開き、「**Microphone**」を選択したら「**Microphone Enhancement**」タブを開いて「**Array Mic** 」にチェックを入れてください。

5.3.4 ASUS PC Probe II

PC Probe II は、重要なコンピュータのコンポーネントを監視し、問題が検出されると警告するユーティリティです。ファン回転数、CPU温度、システム電圧を中心に監視します。PC Probe II はソフトウェアベースなので、コンピュータに電源を入れた時から監視を開始します。このユーティリティで、コンピュータをいつでも正常に動作させることができます。

PC Probe II をインストールする

手順

1. サポート DVD を光学ドライブに入れます。OSの Autorun 機能が有効になっていれば、ドライバインストールタブが自動的に表示されます。

Autorun が有効になっていない場合は、サポート DVD ASUS PC Probe IIフォルダから setup.exe を探してください。setup.exe をダブルクリックすれば、インストールが開始されます。

2. 「**Utilities**」タブ→「**ASUS PC Probe II**」の順にクリックします。
3. 画面の指示に従ってインストールを終了させます。

PC Probe II を起動する

インストール終了後、または Windows® デスクトップからいつでもPC Probe II を起動することができます。

PC Probe II を Windows® デスクトップから起動させる：「**スタート**」→「**すべてのプログラム**」→「**ASUS**」→「**PC Probe II**」→「**PC Probe II v1.xx.xx**」の順にクリックすると、PC Probe II のメイン画面が表示されます。

アプリケーションを起動すると、PC Probe II アイコンが Windows® タスクバーに表示されます。アイコンをクリックすることで、アプリケーションを起動・終了できます。

PC Probe II を使う

メインウィンドウ

PC Probe II メインウィンドウでは、システムの現状を確認し、設定を変更することができます。初期設定値では Preference が表示されます。ウィンドウ右の三角をクリックすることで、Preference を閉じることができます。

三角をクリックして Preference を閉じる

ボタン	機能
CONFIG	設定画面を開く
	レポート画面を開く
DMI	Desktop Management Interface 画面を開く
PCI	Peripheral Component Interconnect 画面を開く
WMI	Windows Management Instrumentation 画面を開く
USAGE	HDD、メモリ、CPU 使用率画面を開く
	Preference 画面を表示/非表示
	アプリケーションを最小化
	アプリケーションを閉じる

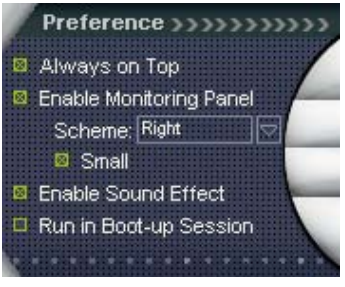
警告センサ

システムセンサーが問題を検出すると、下の絵のようにメイン画面の右側が赤色になります。

センサー用のモニターパネルも赤色になります。「ハードウェアモニターパネル」参照。

Preference

メイン画面の Preference で使用中のアプリケーションをカスタマイズすることができます。ボックスをクリックして設定を切り替えます。



ハードウェアモニターパネル

ファン回転数、CPU 温度、電圧などのシステムセンサーの現在値を表示します。

ハードウェアモニターパネルには2種類ディスプレイモードがあります：6 角形 (大)と長方形 (小)です。Preference で「Enable Monitoring Panel」の項目にチェックした場合は、モニターパネルがデスクトップに表示されます。

6 角形 (大)

長方形 (小)

モニターパネルの位置を変える

モニターパネルのデスクトップ上の位置を変更する場合は、Scheme のボタンをクリックして、リストボックスからポジションを選択します。選択したら「OK」をクリックします。

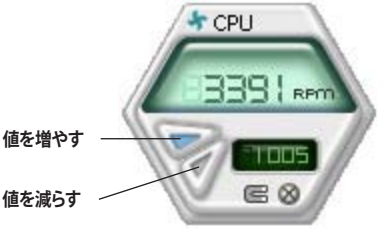
モニターパネルを分解する

モニターパネルは、磁気効果のため全て一緒に動きます。分解する場合は、U字型のマグネットアイコンをクリックします。

センサーの基準値を調節する

ボタンをクリックしてセンサーの基準値を調節します。また、Config画面でも設定可能です。

長方形 (小) のモニターパネルでは基準値を調節することはできません。



警告センサーモニター
コンポーネントの値が基準値以外になると赤色になります。

6角形(大)

長方形(小)

WMI ブラウザ

WMI をクリックして、WMI (Windows Management Instrumentation)ブラウザを表示します。様々な Windows® 管理情報を表示します。左側のパネルの項目をクリックし、右側のパネルに表示させます。WMI Information の(+)をクリックして情報を表示させます。

右下の角をドラッグして画面の大きさを調節することができます。

DMI ブラウザ

DMI をクリックして、DMI (Desktop Management Interface) ブラウザを表示します。様々なデスクトップ/システム情報を表示します。DMI Information の(+)をクリックして情報を表示させます。

PCI ブラウザ

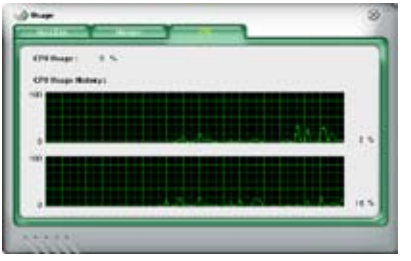
PCI をクリックして、PCI (Peripheral Component Interconnect) ブラウザを表示します。システム上のPCI デバイス情報を表示します。PCI Information の (+) をクリックして情報を表示させます。

Usage

CPU、HDD空き容量、メモリ使用率をリアルタイムで表示します。USAGE をクリックしてUsage を開きます。

CPU

リアルタイムの CPU 使用率が線グラフで表示されます。CPU の Hyper-Threading 機能が有効に設定されている場合は、2 つの論理プロセッサ用に 2 つの線グラフが表示されます。



Hard Disk

HDDの使用率を表示します。パネルの左側には論理ドライブが表示されます。クリックすると右側に情報が表示されます。円グラフのブルーの部分は使用領域、ピンクの部分は空き領域です。

Memory usage
物理メモリの使用率を表示します。円グラフのブルーの部分は使用領域、ピンクの部分は空き領域です。

PC Probe II 設定

CONFIG をクリックしてセンサーの基準値を確認・調節します。

Config には 2 つのタブがあります：Sensor/Threshold と Preferenceです。Sensor/Threshold タブでは、センサーを有効にし、基準値を調節します。Preference タブでは警告センサーをカスタマイズし温度を変更します。

5.3.5 ASUS AI Suite

ASUS AI Suite では、AI Gear 2、AI N.O.S.、AI Booster、AI Nap、Q-Fan 2 の各ユーティリティを簡単に起動することができます。

AI Suite をインストールする

手順

1. Autorun 機能が有効に設定されている場合は、サポートDVD を光学ドライバにセットすると Drivers インストールタブが表示されます。
2. **Utilities** タブ→ **AI Suite** の順にクリックします。
3. 画面の指示に従ってインストールを完了させます。

AI Suite を起動する

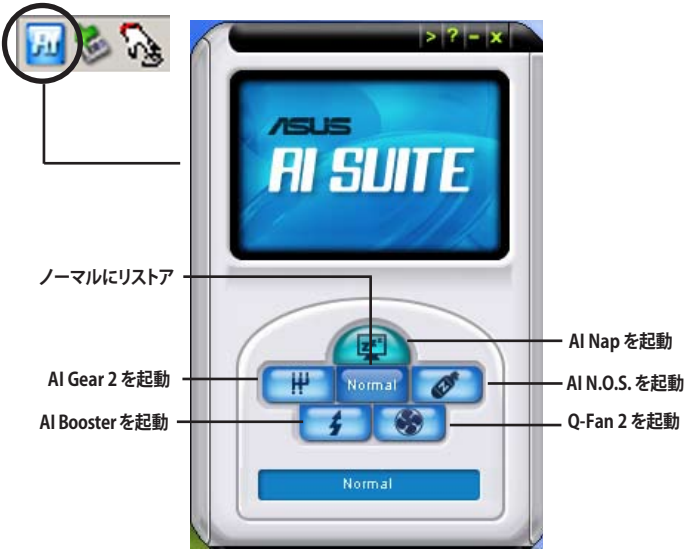
AI Suite をインストールしたらいつでも起動可能です。

Windows® デスクトップから AI Suite を起動する方法。
「スタート」→「すべてのプログラム」→「ASUS」→「AI Suite」→「AI Suite v1.xx.xx」
の順にクリックすると AI Suite のメインウィンドウが表示されます。

アプリケーションを起動したら、AI Suite アイコンが Windows® タスクバー に表示されます。このアイコンをクリックしてアプリケーションの終了やリストアを行います。

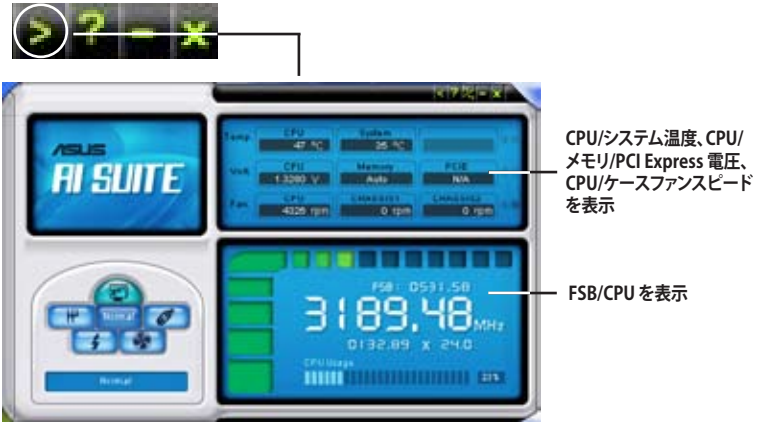
AI Suite を使う

AI N.O.S.、AI Gear 2、AI Nap、AI Booster、Q-Fan 2 アイコンをクリック、ユーティリティを起動します。ノーマルアイコンをクリックするとシステムがノーマル状態にリストアされます。



その他のボタン

メインウィンドウの右端にある をクリックしてモニターウィンドウを開きます。



右上の をクリックして摂氏と華氏を切り換えます。

5.3.6 ASUS AI Gear 2

ASUS AI Gear 2 の 4 つのパフォーマンスオプションからコンピューティングの必要に応じてパフォーマンス設定を選択することができます。このユーティリティで簡単にプロセッサ周波数、VCore 電圧を調整し、システムノイズや電源消費を最小限に抑えることができます。

付属のサポート CD から AI Suite をインストール後、Windows OSのタスクバーにある AI Suite アイコンをダブルクリックし、メイン画面で AI Gear 2 ボタンをクリックして起動します。

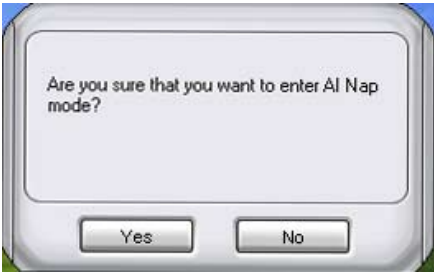
ギアを入れてパフォーマンス設定を選択します。

5.3.7 ASUS AI Nap

コンピュータを使用していない時の電源消費を最小限に抑えます。

付属のサポートCDからAI Suiteをインストール後、Windows OSのタスクバーのAI Suiteアイコンをダブルクリックし、メイン画面でAI Napボタンをクリックして起動します。

確認画面で「**Yes**」をクリックしてください。



システム電源またはマウスボタンを押し、確認画面で「**Yes**」をクリックしてAI Napモードから退出します。

電源ボタンの機能を「**AI Nap**」からシャットダウンに切り替えるには、タスクバー上の「**AI Suite**」アイコンを右クリックし、「**AI Nap**」を選択した後「**Use power button**」をクリックしてください。

5.3.8 ASUS AI N.O.S.

ASUS Non-delay Overclocking System 機能はシステムの負荷を判断し自動的にパフォーマンスを引き上げます。

付属のサポートDVD から AI Suite をインストールしたら、 Windows OS タスクバーの AI Suite アイコンをダブルクリックし、メイン画面で AI N.O.S. ボタンをクリックして起動します。

ドロップダウンメニューボタン

ドロップダウンメニューボタンをクリックし、「**Disable**」または「**Manual**」を選選択します。

N.O.S. モードを選択

「**Apply**」をクリックして設定を保存します。

5.3.9 ASUS Q-Fan 2

ASUS Q-Fan 2 機能では、CPU ファンとケースファンのパフォーマンスを適切なレベルに設定することができます。この機能を有効にすると各ファンは温度に応じて自動的に減速・加速します。

付属のサポート CD から AI Suite をインストールした後、Windows® OS のタスクバーにあるAI Suite のアイコンをダブルクリックし、メイン画面にある Q-Fan 2 ボタンをクリックして起動します。

ドロップダウンメニューボタンをクリックし、**CPU Q-Fan 2** または **CHASSIS Q-Fan 2** を選択してください。Enabled にチェックを入れるとこの機能が有効になります。

有効にするにはチェックを入れます。

ドロップダウンメニューボタン

Profile リストが表示されますので、**ドロップダウンメニューボタンをクリックし、選択肢**からモードを1つ選択します。
「Optimal」モードは温度に応じてファンスピードを調節します。
「Silent」モードはファンスピードを下げ動作音を抑えます。
「Performance」モードではファンスピードは最速になります。

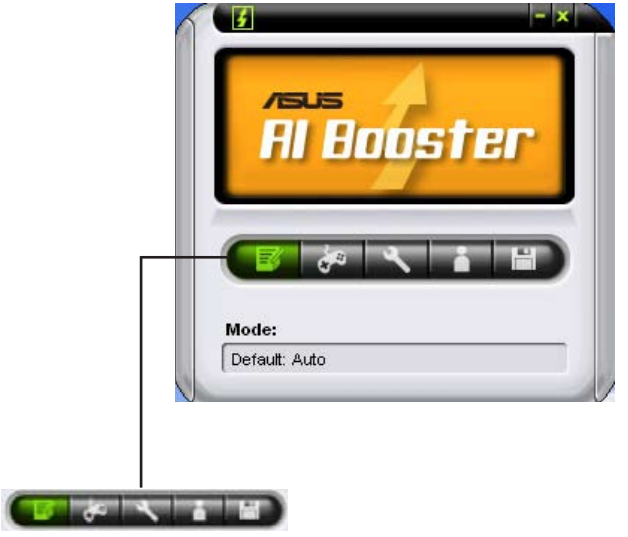
Q-Fan 2 モードを選択してください。

「Apply」ボタンをクリックし設定を保存します。

5.3.10 ASUS AI Booster

ASUS AI Booster は CPU 速度を WIndows® 環境でオーバークロックします。

付属のサポートDVD から AI Suite をインストールしたら、Windows OS タスクバーの AI Suite アイコンをダブルクリックし、メイン画面で AI Booster ボタンをクリックし起動します。



タスクバーのオプションで初期設定値の適用や、CPU/メモリ/PCI-E 周波数の手動調節、またオーバークロック設定の作成と適用が可能です。

5.3.11 AMD OverDrive (AOD)

AMD® OverDrive™ ユーティリティにより WIndows® 環境でシステム設定、オーバークロック設定が行えます。これらの設定は、システムを再起動するとBIOS には保存されません。

5.4 RAID

本マザーボードはRAID コントローラを２基搭載しており、Serial ATA ハードディスクドライブ で RAID の構築が可能です。

- **AMD SB600 Southbridge RAID** はハイパフォーマンス SATA RAID コントローラを搭載しており、４つの独立した Serial ATA チャンネルで RAID 0、RAID 1、RAID 0+1 を構築することができます。
- **Marvell® 6121 RAID** はハイパフォーマンス SATA RAID コントローラを搭載しており、２つの独立した Serial ATA チャンネルで RAID 0 、RAID 1 を構築することができます。

5.4.1 RAID の定義

RAID 0 (データストライピング):
HDDに対しパラレル方式でデータを読み/書きします。それぞれのハードディスクの役割はシングルドライブと同じですが、転送率はアレイに参加している台数倍に上り、データへのアクセス速度を向上させます。セットアップには、最低２台のHDD（同じモデル、同容量）が必要です。

RAID 1 (データミラーリング):
１台目のドライブから、２台目のドライブに、同じデータイメージをコピーし保存します。ドライブが１台破損しても、ディスクアレイマネジメントソフトウェアが、アプリケーションを正常なドライブに移動することによって、完全なコピーとして残ります。システム全体のデータプロテクションとフォールト・トレランスを向上させます。セットアップには、最低２台の新しいHDD、または、既存のドライブと新しいドライブが必要です。既存のドライブを使う場合、新しいドライブは既存のものと同じサイズかそれ以上である必要があります。

RAID 10 (RAID 0+1)：
データストライピングとデータミラーリングをパリティ（冗長データ）なしで結合したもの。RAID 0とRAID1構成のすべての利点が得られます。セットアップには、最低4台のHDDが必要です。

RAID 構成がされているHDD からシステムをブートする場合は、OS をインストール時にドライバを組み込む必要があります。サポート DVD からフロッピーディスクに、RAIDドライバをコピーしてご利用ください。（詳細 5.5 「**RAID ドライバディスクを作成する**」参照）

5.4.2 Serial ATA ハードディスクを取り付ける

本製品は、Serial ATA ハードディスクをサポートします。最適なパフォーマンスのため、ディスクアレイを作成する場合は、モデル、容量が同じハードディスクをご使用ください。

手順

1. SATA ハードディスクをドライブベイに取り付けます。
2. SATA 信号ケーブルを接続します。
3. SATA 電源ケーブルを各ドライブの電源コネクタに接続します。

5.4.3 AMD® RAID

本製品は、AMD SB600 サウスブリッジチップセットを通して、Serial ATA ハードディスクドライブで RAID 0、RAID 1、RAID 0+1 構成が構築可能です。

BIOSでRAID を設定する

RAIDを作成する前に、BIOSのセットアップで、RAID を設定してください。

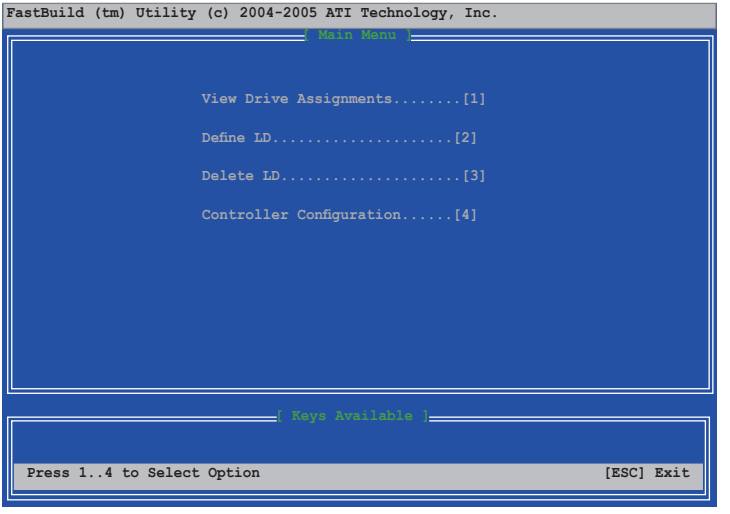
1. 内部 Serial ATA HDD をSATA_1/2/3/4 と表示された SATA コネクタに接続します。
2. システムを起動し、POST で <Del> を押してBIOS に入ります。
3. 「Main Menu」で「Storage Configuration」を開き、「OnChip SATA Type」を[RAID]に設定します。
3. <F10> を押し、設定の変更を保存し、終了します。

このセクションのRAID BIOS セットアップ画面は一例です。実際の画面とは異なる場合があります。

AMD® FastBuild™ ユーティリティを開く

手順

1. コンピュータを起動します。
2. POSTで <Ctrl+F> を押し、ユーティリティのメインメニューを開きます。



メインメニューでは、実行するオペレーションを選択することができます。メインメニューのオプションには以下のものが含まれます。

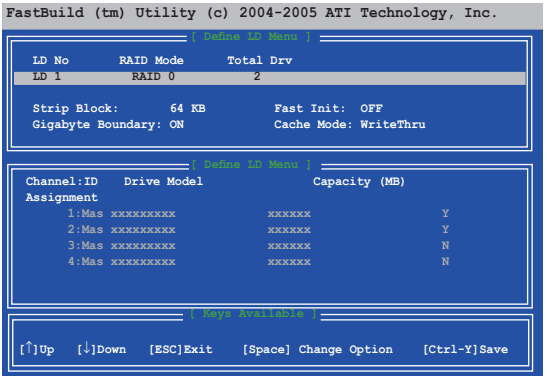
View Drive Assignments - HDD の状態を表示
Define LD - RAID 0、RAID 1、RAID 0+1 を作成
Delete LD - 選択した RAID セットとパーティションを削除
Controller Configuration - システムリソースの構成を表示

オプションに入るには <1>、<2>、<3>、<4> のいずれかを押します。<ESC> を押してユーティリティを終了します。

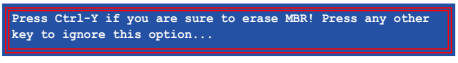
RAID 0（ストライピング）

設定方法

1. メインメニューで <2> を押し、「Define LD」メニューに入ります。
2. <Enter>を押すと次の画面が表示されます。



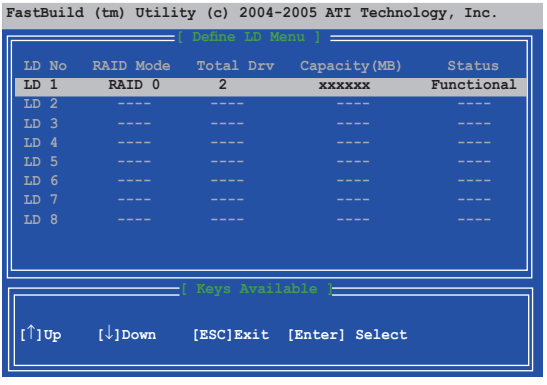
3. LD1 の項目をハイライト表示させ、<Space> を押してRAID 0 を選択します。
4. 下矢印キーで Assignment の項目に移動し、任意の2つのドライブに Y を設定します。
5. <Ctrl+Y> を押して設定を保存します。次のメッセージが表示されます。



MBR を消去するには <Ctrl+Y> を押してください。続けるには任意のキーを押してください。

容量を入力するには<Ctrl+Y> を押してください。続けるには任意のキーを押してください。

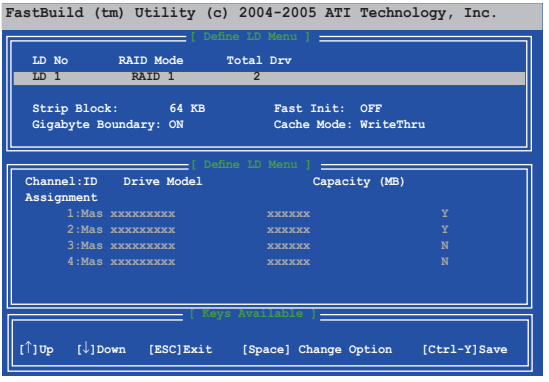
6. 以下の画面が表示されます。



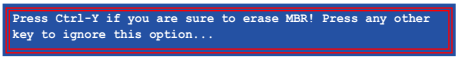
RAID 1 (ミラーリング)

設定方法

1. メインメニューで <2> を押して、「Define LD」メニューに入ります。
2. <Enter>を押すと次の画面が表示されます。



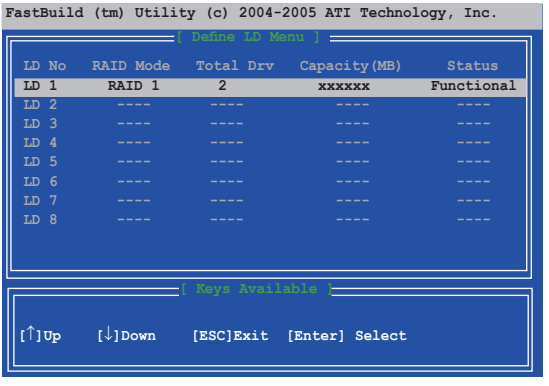
3. LD1 の項目をハイライト表示させ、<Space> を押して RAID 1を選択します。
4. 下矢印キーで Assignment の項目に移動し、任意の2つのドライブに Y を設定します。
5. <Ctrl+Y> を押して設定を保存します。次のメッセージが表示されます。



MBR を消去するには <Ctrl+Y> を押してください。続けるには任意のキーを押してください。

容量を入力するには<Ctrl+Y> を押してください。続けるには任意のキーを押してください。

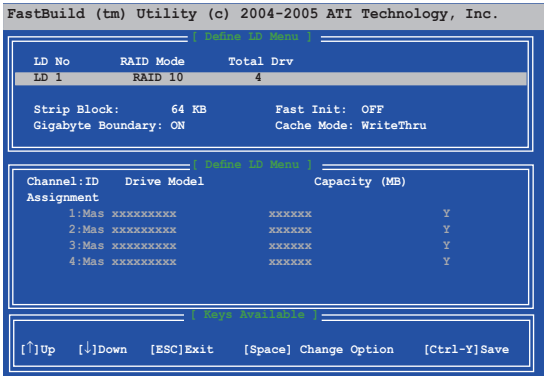
6. 以下の画面が表示されます。



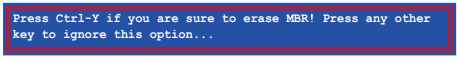
RAID 10 (RAID 0+1)

設定方法

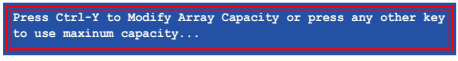
1. メインメニューで <2> を押して、「Define LD」メニューに入ります。
2. <Enter>を押すと次の画面が表示されます。



3. LD1 の項目をハイライト表示させ、<Space> を押して RAID 10 を選択します。
4. 下矢印キーで Assignment の項目に移動し、任意の 4 つのドライブに Y を設定します。
5. <Ctrl+Y> を押して設定を保存します。次のメッセージが表示されます。

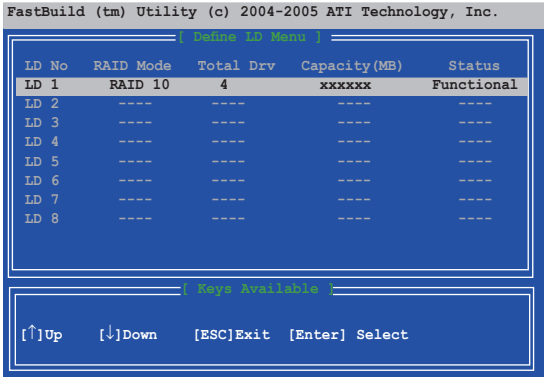


MBR を消去するには <Ctrl+Y> を押してください。続けるには任意のキーを押してください。



容量を入力するには<Ctrl+Y> を押してください。続けるには任意のキーを押してください。

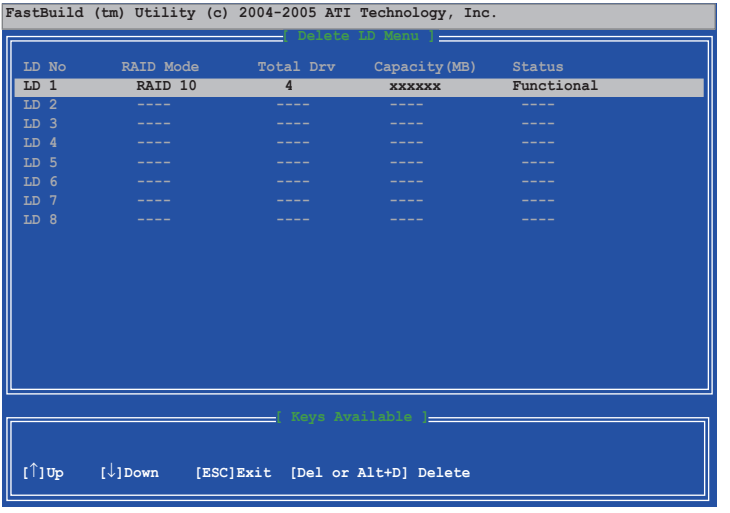
6. 以下の画面が表示されます。



RAID を削除する

手順

1. メインメニューで <3> を押して、「Delete LD」メニューに入ります。
2. 削除する RAID 項目を選択し <Del> または <Alt+D> を押します。


FastBuild (tm) Utility (c) 2004-2005 ATI Technology, Inc.
{ Delete LD Menu }
LD No RAID Mode Total Drv Capacity(MB) Status
LD 1 RAID 10 4 xxxxxx Functional
LD 2 ---- ---- ---- ----
LD 3 ---- ---- ---- ----
LD 4 ---- ---- ---- ----
LD 5 ---- ---- ---- ----
LD 6 ---- ---- ---- ----
LD 7 ---- ---- ---- ----
LD 8 ---- ---- ---- ----
{ Keys Available }
[↑]Up [↓]Down [ESC]Exit [Del or Alt+D] Delete

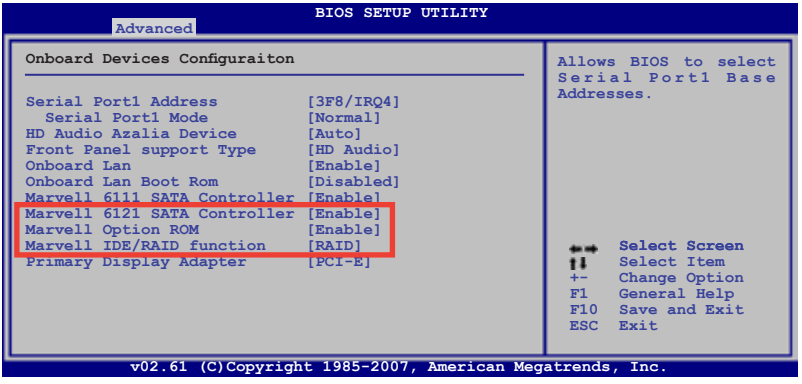
5.4.4 Marvell® RAID

Marvell® 6121 Serial ATA コントローラでは Serial ATA HDD で RAID 0、RAID 1 の構築が可能です。

BIOSでRAIDを設定する

RAIDを作成する前に、BIOSのセットアップ画面で RAID を設定してください。

1. 内部 Serial ATA HDD を SATA_RAID1/2 と表示された SATA コネクタに接続します。
2. システムを起動し、POST で <Del> を押してBIOS に入ります。
3. 「Advanced」メニューで、「Onboard Devices Configuration」を開き、「Marvell 6121 SATA Controller」と「Marvell Option ROM」を「Enable」に設定します。
4. 「Marvell IDE/RAID function」を [RAID] に設定します。
3. <F10> を押し、設定の変更を保存し、終了します。

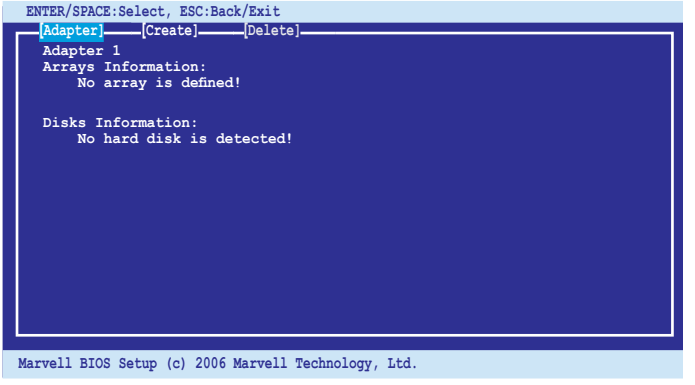


このセクションのRAID BIOS セットアップ画面は一例です。実際の画面とは異なる場合があります。

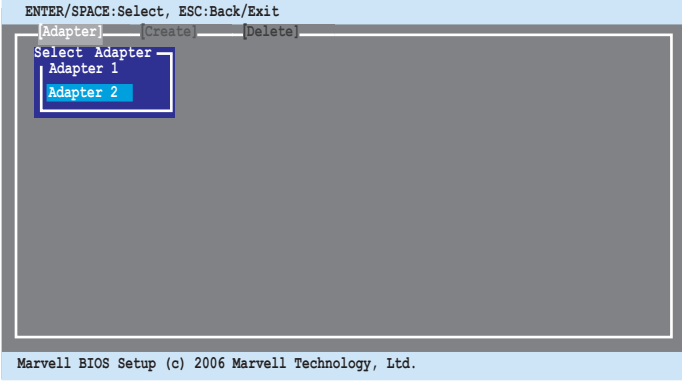
Marvell® RAID BIOS セットアップユーティリティを開く

手順

1. コンピュータを起動します。
2. POSTで <Ctrl + M> を押し、ユーティリティのメインメニューを開きます。



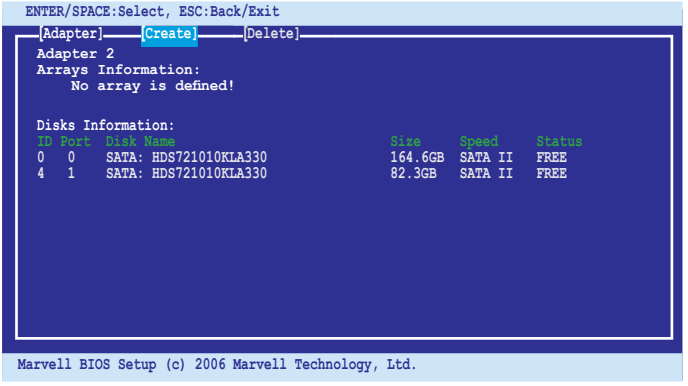
3. **Adapter** をハイライト表示させ <Enter> を押します。RAID を設定するには **Adapter 2** を選択してください。



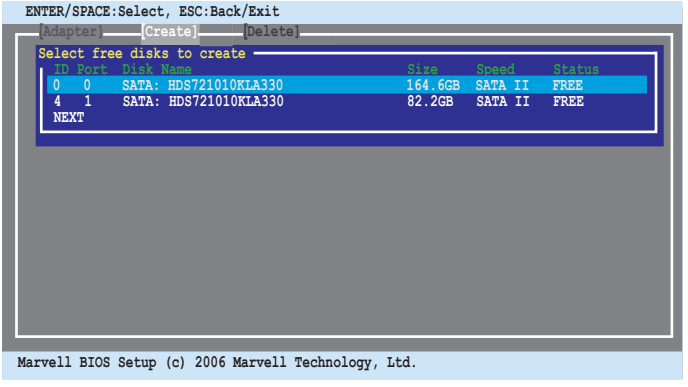
RAID 0 または RAID 1 セットを作成する

手順

1. ユーティリティ画面の上にあるメニューバーで、「**Create**」をハイライト表示させます。

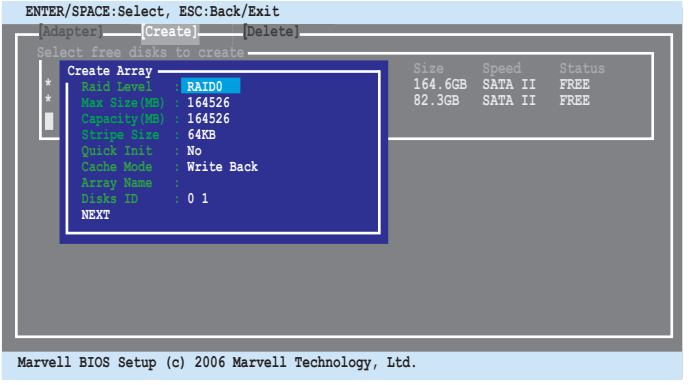


2. <Enter> を押します。画面にRAID セットを作成するために追加できるディスクが表示されます。矢印キーを使用してディスクを選択し、<Enter> を押します。または、このディスクをアレイに組み込むには <Space> を押します。

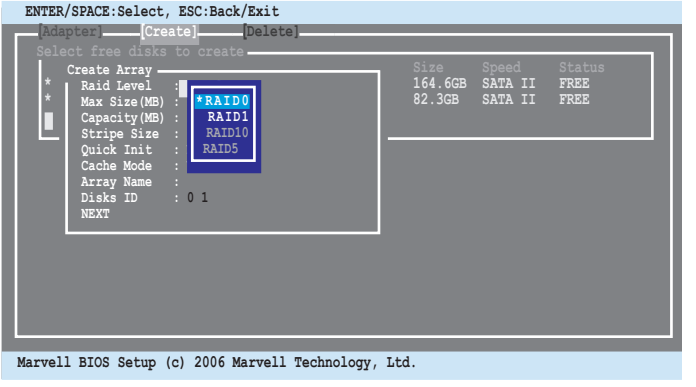


3. ディスクを選択したら、「**NEXT**」を選択しアレイを作成します。

4. 「**Create Array**」画面が表示されます。

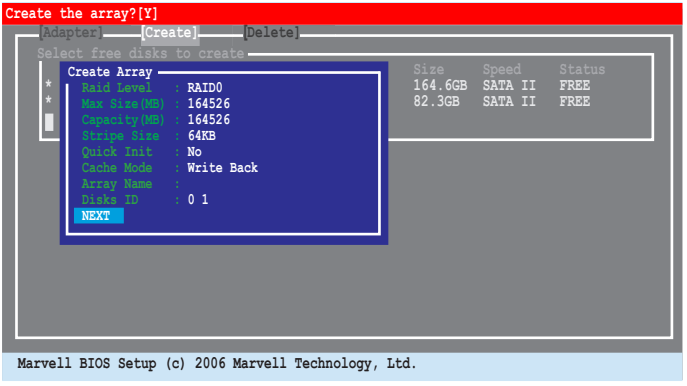


5. 矢印キーを使用して「**Raid Level**」の項目を選択し、<Enter> を押して作成できる RAID セットを表示します。作成する RAID セットを選択し、<Enter> を押します。

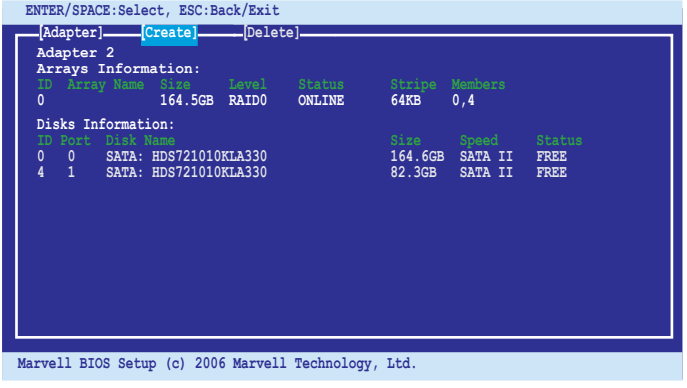


- 作成できる RAID セットは選択するディスクの数により異なります。作成できない RAID セットはグレーで表示されます。
- 「**Create Array**」画面では、「**Raid Level**」以外の項目の初期設定値を維持することをお勧めします。

6. 確認画面が表示されます。 <Y> を押してアレイを作成します。



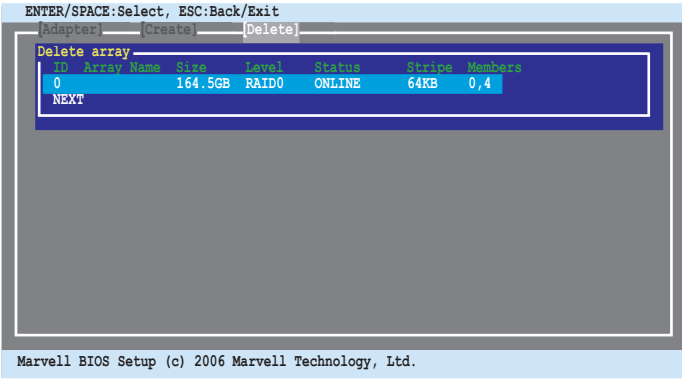
7. 「**Arrays Information**」に新しく作成されたアレイが表示されます。



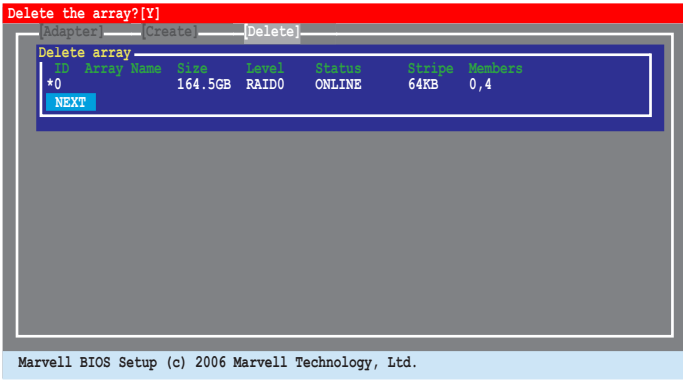
アレイを削除する

手順

1. ユーティリティ画面の上にあるメニューバーで、「**Delete**」を選択し <Enter> を押します。「**Delete array**」画面が表示されます。



2. 削除するアレイを選択し「**NEXT**」を選択します。確認画面が表示されたら <Y> を押します。



3. <Y> を再び押して確定し、選択したアレイを削除します。

アレイを削除すると、失われたデータは回復することができません。アレイを削除する前に重要なデータのバックアップを取るようにしてください。

5.5 RAID ドライバディスクを作成する

Windows® XP OS をRAID に組み込まれた HDD にインストールするとき、RAID ドライバが入ったフロッピーディスクが必要です。Windows® Vista™ OS をお使いの場合は、RAID ドライバ が入ったフロッピーディスクまたはUSBフラッシュメモリが必要です。

5.5.1 OS に入らずに RAID ドライバディスクを作成する

手順

コンピュータを起動します。

2. POST中に <Del> を押し、BIOS に入ります。
3. 光学ドライブをプライマリブートデバイスに設定します。
4. サポート DVD を光学ドライブにセットします。
5. 設定を保存し BIOS を退出します。
6. 「Press any key to boot from the optical drive」が表示されたら、任意のキーを押します。
7. メニューが表示されたら <1> を押して RAID ドライバディスクを作成します。
8. フォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし <Enter>を押します。
9. 画面の指示に従ってプロセスを完了させます。

5.5.2 RAID/SATA ドライバディスクを Windows® 環境で作成する

手順

1. Windows®を起動します。
2. サポート DVD を光学ドライブにセットします。
3. 「Make disk」メニューに入り、「**Make ATI RAID/AHCI x86_x64_WinXP Driver**」または「**Make ATI RAID/AHCI Vista Driver**」をクリックして SB 600 RAID ドライバディスクを作成するか、「**Marvell 61xx 32/64bit SATA RAID Driver**」をクリックして Marvell® 6121 RAID ドライバディスクを作成します。
4. フロッピーディスク/USB フラッシュメモリを、フロッピーディスクドライブ/USB ポートにセットします。
5. 画面の指示に従ってプロセスを完了させます。

フロッピーディスクをライトプロテクトしてウィルスの攻撃から守ります。

Windows XPにRAID ドライバをインストールする

1. OS のインストール中に、「**Press the F 6 key to install third-party SCSI or RAID driver**」という指示が表示されます。
2. <F6>を押し、RAID ドライバ ディスクをフロッピーディスクドライブに入れます。
3. プロンプトが表示されたら、取り付けるSCSI アダプタを選択します。ここで、「**SB 600 **」と「**Marvell 6121**」を選択してください。
4. 画面の指示に従い、インストールを完了させます。

Windows® Vista™にRAID ドライバをインストールする

1. RAID ドライバを保存したフロッピーディスクを挿入する、あるいは RAID ドライバを保存した USB デバイスをシステムに接続します。
2. OS のインストール中に、「**SB 600**」「**Marvell 6121**」を選択します。
3. 画面の指示に従い、インストールを完了させます。

ATI マルチ GPU 技術をサポートする
ATI® CrossFire™ ビデオカードの
取り付け方法

6 ATI® CrossFire™ サポート

Chapter

6.1 概要 6-1
6.2 CrossFire™ ビデオカードを取り付ける 6-2
6.3 ソフトウェア情報 6-5

6.1 概要

本製品は、マルチGPU に対応する ATI® CrossFire™ 技術をサポートしています。

6.1.1 使用条件

- CrossFire™ Edition ビデオカード（マスター）
- CrossFire™-Ready ビデオカード （スレーブ）
- CrossFire™-Ready マザーボード（ASUS M3A32-MVP Deluxe Series マザーボード）
- システムの必要最小電源が供給可能な電源装置 （PSU）
  （**詳細：**ページ 2-34「**9. ATX 電源コネクタ**」参照）

- ハードウェア条件、取り付け手順についての詳細は、ATI WebサイトまたはサポートDVDに収録の「**Radeon® X850 Crossfire™ Edition User's Guide**」をご参照ください。
- ATI CrossFire™ は以下の OS 環境で利用することができます。
  - Windows® XP 32bit （Home/Professional） でService Pack 2 （SP2）を適用済みのもの
  - Windows® XP Professional 64bit Edition
  - Windows® Vista 32/64 bit Edition
- ATI® CrossFire™ 対応のビデオカードドライバが必要です。ATI Webサイト (www.amd.com) から最新のドライバをダウンロードしてください。
- Radeon™ X850 CrossFire™ Edition の最大解像度は 1600 × 1200（65 MHz DVI 出力使用時）です。

6.1.2 始める前に

他のビデオカードドライバをアンインストールする

手順

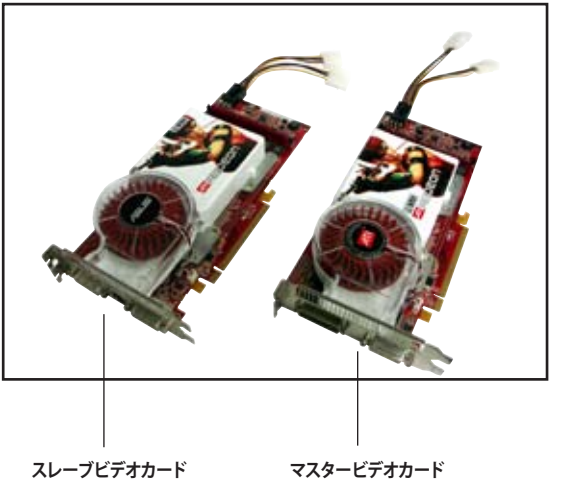
1. 開いているアプリケーションを全て閉じます。
2. 「**コントロールパネル**」→「**プログラムの追加と削除**」の順にクリックします。
3. ビデオカードドライバを選択します。
4. 「**変更と削除**」をクリックします。
5. システムを再起動します。

6.2 CrossFire™ ビデオカードを取り付ける

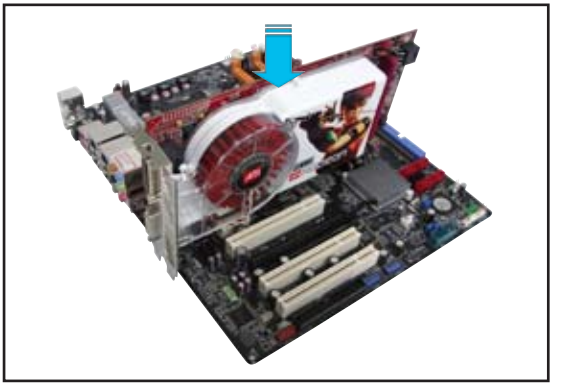
CrossFire™ ビデオカードを取り付ける前に、ATI® CrossFire™ Edition ビデオカードに添付のユーザーマニュル等をご参照ください。

手順

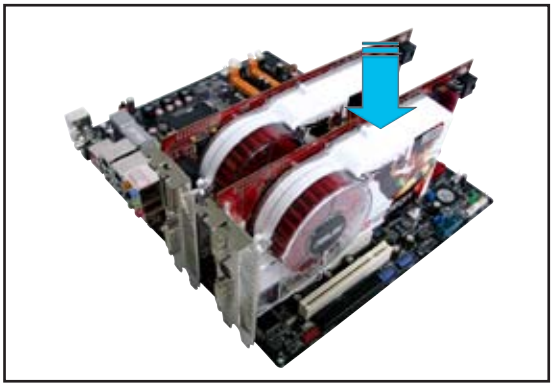
1. CrossFire™ Edition（マスター）ビデオカード 1 枚とCrossFire™-Ready（スレーブ）ビデオカード 1 枚を手元に用意します。



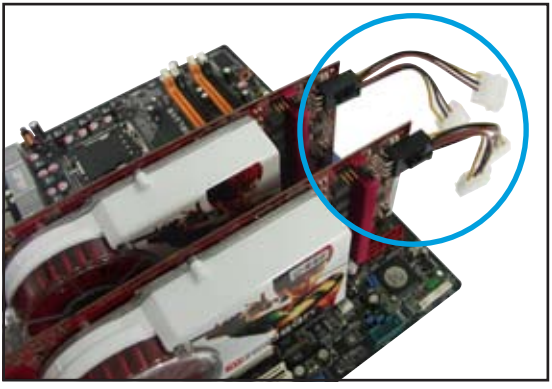
2. CrossFire™ Edition（マスター）ビデオカードを PCI Express x16 スロット（ブルー）に挿入します。



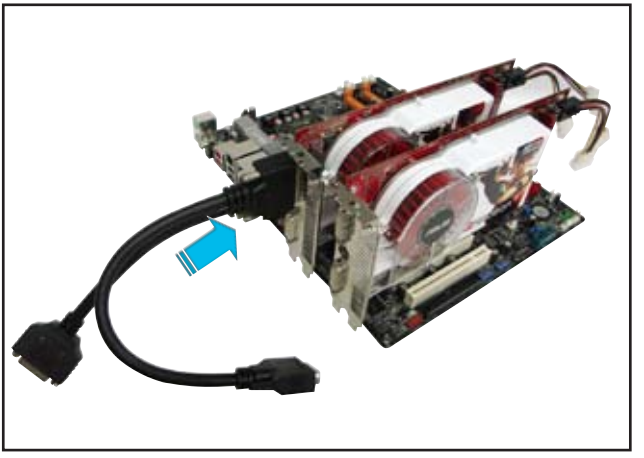
3. CrossFire™-Ready（スレーブ）ビデオカードをPCI Express x16 スロット（ブラック）に挿入します。



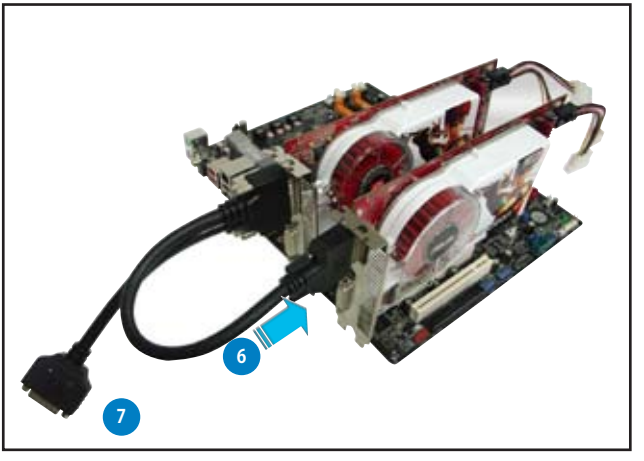
4. 電源装置から、ビデオカードに補助電源を接続します。



5. 外部ケーブルの一方をマスタービデオカードに接続します。



6. 外部ケーブルのもう一方をスレーブビデオカード に接続します。
7. ケーブルの残りのコネクタをモニター上の対応するポートに接続します。



6.3 ソフトウェア情報

6.3.1 デバイスドライバをインストールする

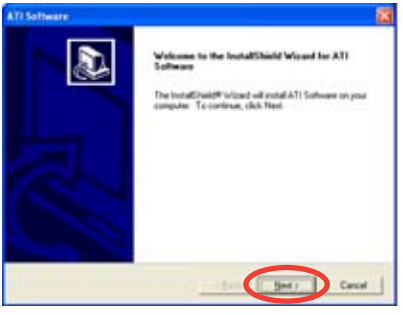
デバイスドライバのインストールの詳細は、ビデオカードに付属のマニュアルをご参照ください。

ATI CrossFire™ がサポートするOS環境は以下の通りです。

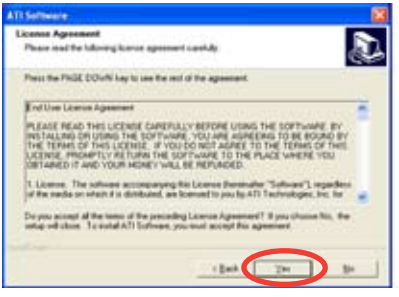
- Windows® XP 32-bit（Home or Professional）でService Pack 2（SP2）を適用済みのもの
- Windows® XP Professional 64bit Edition.
- Windows® Vista 32/64 bit Edition（サポート予定：詳細は ATI Web サイト（www.amd.com）をご参照ください。）

1. システムの電源をオンにし、管理者としてログインします。
2. Windows® で CrossFire™ ビデオカードが自動検出されます。続いて「**Found New Hardware Wizard**」画面が表示されたら、「**Cancel**」をクリックします。
3. CrossFire™ installation CD を光学ドライブに挿入します。挿入したらトップメニューから各ドライバをインストールします。

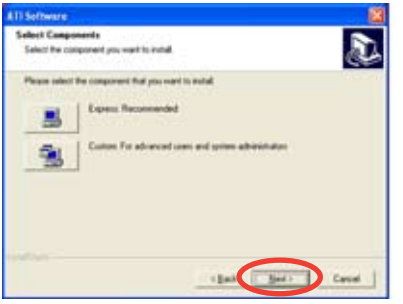
4. インストール画面が表示されたら、「**Next**」をクリックします。



5. License Agreement を読み、「**Yes**」をクリックします。



6. 必要なコンポーネントを選択し、「**Next**」をクリックします。



- 「**Express**」を選択すると、ATI ドライバだけでなく HydraVision™ マルチモニターとデスクトップマネージメントソフトウェアもインストールされます。
- 「**Custom**」を選択すると、必要なソフトウェアコンポーネントを個々に選ぶことができます。

インストールが始まり、進行状態が表示されます。

Windows で自動的に ATI Catalyst Control Center がセットアップされます。続いてセットアップの進行状況が表示されます。

7. ドライバファイルがコピーされると、右の図のような画面が表示されます。
「**Yes**」をクリックしてすぐにコンピュータを再起動するか、「**No**」をクリックして後で再起動します。
8. 「**Finish**」をクリックします。

6.3.2 Catalyst™ Control Center を使う

Catalyst™ Control Center では、ATI ハードウェアやインストールしたソフトウェアのディスプレイ機能にアクセスすることができます。このアプリケーションを使用して、ビデオ設定の調節、接続しているデバイスの設定、デスクトップ環境を変更することができます。

Catalyst™ Control Center を起動する

Catalyst™ Control Center の起動方法は以下の 3 通りです。

- Windows® のタスクバーから「**スタート**」→「**ATI Catalyst™ Control Center**」→「**Catalyst™ Control Center**」の順にクリックします。
- デスクトップの Catalyst™ Control Center のショートカットをダブルクリックします。

- Windows® タスクバーの Catalyst™ Control Center アイコンをダブルクリックします。

Catalyst™ Control Center Dialog Box

View

Catalyst™ Control Center には画面表示方法が 2 つあります。

- **Standard** - シンプルなウィザード画面（ビギナー向け）

- **Advance** - ソフトウェアの機能をアクセス、設定が可能な画面（上級者向け）

CrossFire™ を有効にするには、「**Advance**」に設定します。

CrossFire™を有効にする

1. 画面を「**Advance**」に設定します。
2. Graphics Settings で、Crossfire™ をクリックします。
3. CrossFire™ Settings ダイアログの「**Enable CrossFire™**」のチェックボックスにチェックを入れます。
4. 「**OK**」をクリックして設定を適用します。

Hotkeys

ホットキーを作成するには、Catalyst™ Control Center の「**Hotkeys**」タブをクリックして Hotkeys Manager にアクセスします。

Profiles

デスクトップ、ビデオ、3Dアプリケーション用の環境設定を変更する場合は、Catalyst™ Control Center の「**Profiles**」タブをクリックし Profiles Manager にアクセスします。

Preferences

言語設定や初期設定値の復旧、スキンの変更、システムトレイアイコン等の設定を変更する場合は、Catalyst™ Control Centerの「**Preferences**」タブをクリックします。

Help

オンラインヘルプへのアクセスや Problem Report を作成する場合、また、Catalyst™ Control Center のバージョン情報を確認する場合は、Catalyst™ Control Center の「**Help**」タブをクリックします。